松山市埋蔵文化財調査年報　14

平成13年度

2003

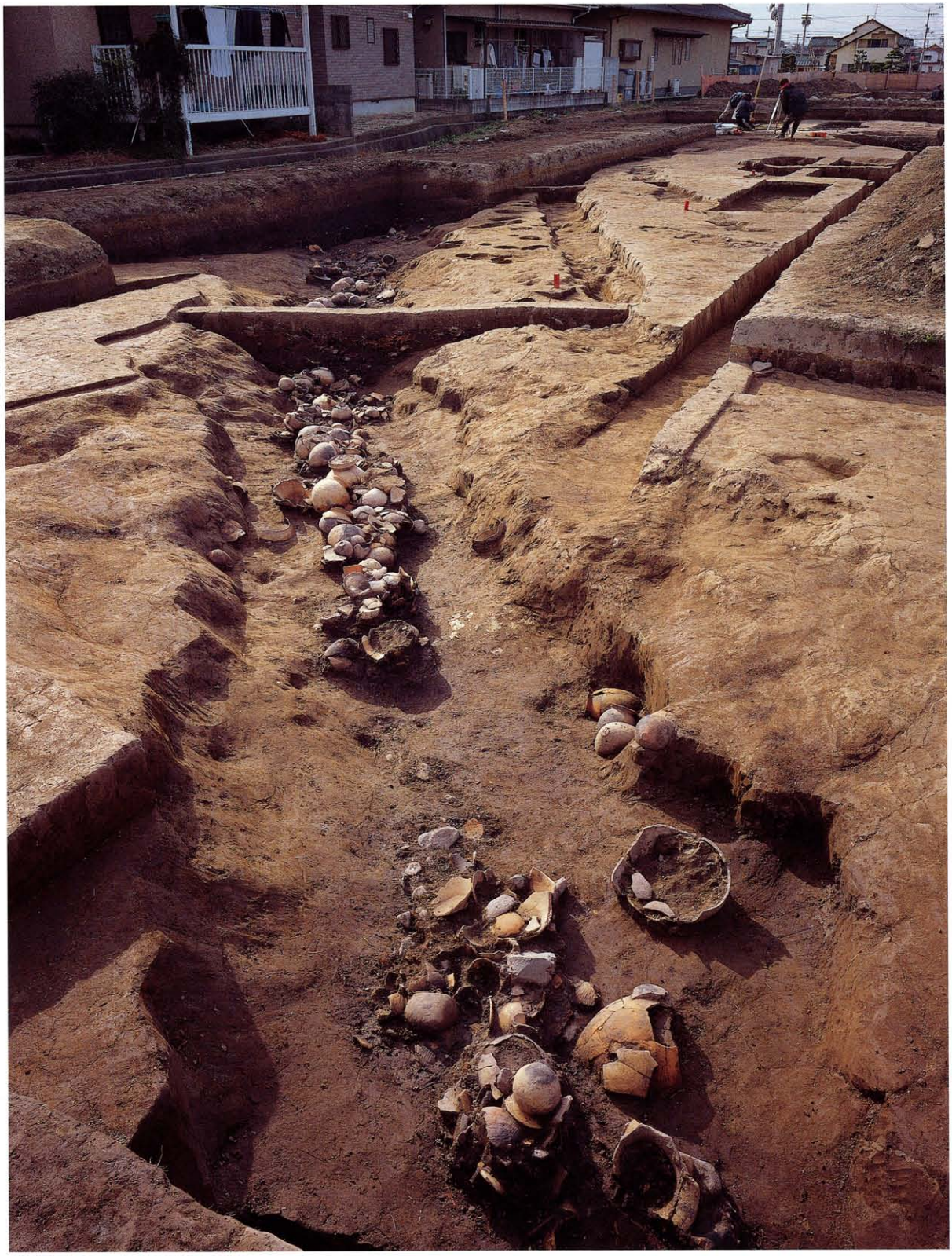
松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報　14

平成13年度

2003

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



巻頭図版１　西石井遺跡SD201遺物出土状況（北東より）

巻頭図版２　久米高畑遺跡51次調査地政庁正殿検出状況（北より）

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業等によって失われる遺跡について事前に調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成13年度に埋蔵文化財センターが松山市域において実施した埋蔵文化財の発掘調査の概要報告と、松山市考古館ならびに埋蔵文化財センターが主体となって実施した展示会、講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものです。

本年度の発掘調査では、古くは弥生時代から新しくは中・近世に至るまで、数多くの遺構や遺物を発見しました。特に、西石井遺跡において発見した溝は、弥生時代末から古墳時代初頭に構築された集落区画の溝で、内部より多数の土器が完形の状態で出土しています。また、重点的に学術調査を実施している久米官衙遺跡群においては、久米高畑遺跡51次調査地において７世紀前半にまで遡る可能性の高い政庁の存在が確定できるなど、全国的にみても貴重な成果が得られたといえます。

このような成果が得られましたのも、関係者各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝しております。厚くお礼申しあげますとともに、今後とも、なお一層のご理解とご協力のほどお願い申しあげます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただけることを願っております。

平成15年３月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団
理事長　中　村　時　広

例　　言

1．本書は、松山市教育委員会と松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成13年4月1日から平成14年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。

2．確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。

3．各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は吉岡和哉が行った。

4．本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。

5．位置図は、国土地理院発行の2万5千分の１図を使用した。

6．遺構は、以下の略号で記した。

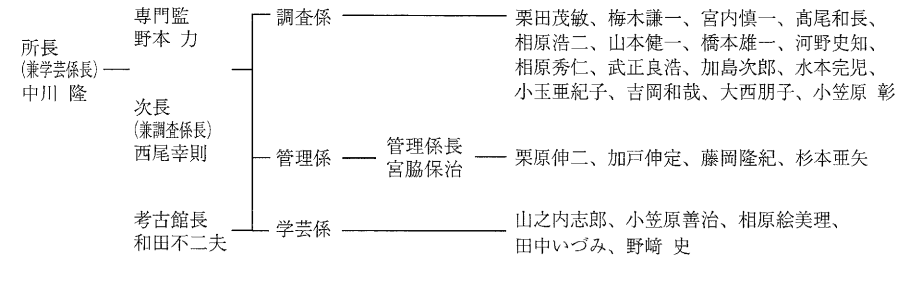
ＳＡ：柵、柱列　ＳＢ：竪穴式住居址　掘立：掘立柱建物跡　ＳＲ：自然流路　ＳＤ：溝
ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱穴　ＳＸ：性格不明遺構

7．各図の方位は、国土座標第4座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。

8．調査組織は、以下の通りである。（平成15年3月31日現在）

松山市教育委員会		教育長	中矢　陽三
	事務局	局長	武井　正浩
		企画官	川口　岸雄
		企画官	石丸　　修
	文化財課	課長	馬場　　洋
		主幹	八木　方人
		副主幹	田城　武志
		副主幹	重松　佳久
(財)松山市生涯学習振興財団		理事長	中村　時広
		事務局長	三宅　泰生
		事務局次長	菅　　嘉見
		事務局次長	森　　和朋
	埋蔵文化財センター	所長	中川　　隆
		専門監	野本　　力
		次長兼調査係長	西尾　幸則

埋蔵文化財センター組織図



整理作業協力者（順不同）

池田　學・水口あをい・山下満佐子・平岡直美・大西陽子・日之西美春・西本三枝・渡部英子・青野茂子・西川千秋・松本美代子・山邊進也・黒田竜弥・山口由浩・森田利恵・宮内真弓・中村紫・田﨑真理・高松健太郎・安井由起美・猪野美喜子・岡本邦栄・東山里美・髙尾久子・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・丹生谷道代・築山知子・矢野久子・多知川富美子・萩野ちよみ・大野裕子・村上真由美・岩本美保・木下奈緒美・吉井信枝・篠森千里・玉井順子・福島利恵・平岡華美・吉岡智美・石丸由利子・松下郁子・福岡志保美・渡辺佐代枝・末光美恵・新藤奈緒子・菅原紗代

9．以下の方々より、ご指導、ご協力をいただいた。（順不同、敬称略）

坂井秀弥（文化庁記念物課）／阿部義平（国立歴史民俗博物館）／山中敏史（奈良文化財研究所）／樋口隆康（奈良県立橿原考古学研究所）／松下孝幸（土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム）／冨田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／上原真人（京都大学大学院）／前園実知雄（奈良芸術短期大学）／木原克司（鳴門教育大学）／佐藤 信（東京大学）／廣岡義隆（三重大学）／内田俊秀（京都造形芸術大学）／高橋 護（ノートルダム女子大学）／下條信行（愛媛大学）／松原弘宣（愛媛大学）／田﨑博之（愛媛大学）／村上恭通（愛媛大学）／吉田 広（愛媛大学）／三吉秀充（愛媛大学）／名本二六雄（日本考古学協会）／高橋 徹（大分県教育庁）／坪根伸也（大分市教育委員会）／出原恵三（高知県埋蔵文化財センター）／坂本憲昭（高知県埋蔵文化財センター）／久家隆芳（高知県埋蔵文化財センター）／真鍋昭文（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／田内逸武（東雲神社）

10．ご指導、ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。（順不同、敬称略）

文化庁／奈良文化財研究所／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／愛媛大学法文学部考古学研究室／愛媛大学埋蔵文化財調査室／奈良県立橿原考古学研究所ならびに同付属博物館／土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム／岡山県古代吉備文化財センター／財団法人香川県埋蔵文化財センター／愛媛県歴史文化博物館／愛媛県立歴史民俗資料館／愛媛県教育委員会／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／株式会社古環境研究所

11．本書の仕様は以下のとおりである。

製版　カラー写真・写真図版－175線

印刷　オフセット印刷

用紙　カラー写真・本文 マットコート

製本　アジロ綴り

本文目次

Ⅰ　平成13年度　松山市埋蔵文化財調査概要

土居窪Ⅲ遺跡 …… 2
中村松田遺跡４次調査地 …… 4
桑原高井遺跡３次調査地 …… 6
桑原遺跡４次調査地（３区・５区） …… 8
桑原遺跡５次調査地 …… 12
西石井遺跡（１区～３区） …… 14
東石井遺跡 …… 18
潮見山古墳群 －15･16･17号墳－ …… 26
久米才歩行遺跡７次調査地 …… 28
南久米町遺跡４次調査地 …… 30
南久米河川水路改良工事に伴う立会調査 …… 34
来住町遺跡12次調査地 …… 38
来住町遺跡13次調査地 …… 42
久米高畑遺跡51次調査地 …… 46
久米高畑遺跡52次調査地 …… 50
久米高畑遺跡53次調査地 …… 54
久米官衙遺跡群 ～13年度調査の成果と今後の展望～ …… 56

Ⅱ　平成13年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料 …… 62

Ⅲ　平成13年度　保存処理及び出土遺物整理

1. 平成13年度出土遺物整理の概要 …… 76
2. 保存処理 …… 77
3. 出土遺物整理 …… 81
青銅鏡・西南四国系土器 ・ 豊後安国寺系壺・吉備系甕
4. 自然科学分析 …… 98
関太郎氏採取資料･Ｅ地点の種実同定・関太郎氏採取資料･Ｅ地点の樹種同定
松山市道後地区出土の人骨
5. 資料紹介：東雲神社遺跡採取資料 …… 107

Ⅳ　平成13年度　啓蒙普及事業

1. 展示活動 …… 110
2. 教育普及活動 …… 111
3. 収集・保管活動 …… 115
4. 広報･出版活動 …… 115
5. 施設の利用 …… 116
6. 資料の貸出･調査 …… 117
7. 職員研修･会議 …… 119
8. その他 …… 119

挿図・写真目次

巻頭図版１　西石井遺跡ＳＤ201遺物出土状況（北東より）

巻頭図版２　久米高畑遺跡51次調査地政庁正殿検出状況（北より）

土居窪Ⅲ遺跡…… 2

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構検出状況（北より）

図２　遺構配置図・西壁･南壁土層図（縮尺１：80）

中村松田遺跡４次調査地 …… 4

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（西より）

図２　遺構配置図（縮尺１：100）

桑原高井遺跡３次調査地 …… 6

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（西より）

図２　遺構配置図（縮尺１：100）

桑原遺跡４次調査地（３区・５区）…… 8

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　３区遺構完掘状況（東より）

図２　３区遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　５区遺構完掘状況（北より）

図３　５区遺構配置図（縮尺１：100）

桑原遺跡５次調査地 …… 12

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（東より）

写真２　ＳＲ８下層出土瓢箪製杓子

西石井遺跡（１区～３区）…… 14

図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　１区完掘状況（西より）

写真２　２区完掘状況（東より）

写真３　３区完掘状況（東より）

写真４　ＳＢ101完掘状況（西より）

写真５　ＳＢ102完掘状況（西より）

写真６　ＳＢ202・205完掘状況（東より）

写真７　ＳＢ203完掘状況（西より）

写真８　ＳＤ201遺物出土状況（1）（東より）

写真９　ＳＤ201遺物出土状況（2）（北より）

写真10　土器棺201出土状況（東より）

写真11　土器棺201完掘状況（北東より）

写真12　土器棺202出土状況（南より）

写真13　ＳＫ202遺物出土状況（南より）
写真14　ＳＢ301・302完掘状況（東より）
写真15　ＳＢ303完掘状況（東より）

東石井遺跡 …… 18
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　１区遺構完掘状況（東より）
図２　調査地測量図（縮尺１：1,500）　写真２　１区ＳＥ102遺物出土状況（南より）
写真３　２Ｃ地区遺構完掘状況（西より）
写真４　２Ｄ地区ＳＢ201遺物出土状況（北東より）
写真５　３Ｄ地区西半部遺構完掘状況（東より）
写真６　３Ｄ地区ＳＢ304完掘状況（北より）

潮見山古墳群 －15・16・17号墳－ …… 26
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（北より）
写真２　15号墳主体部（東より）

久米才歩行遺跡７次調査地 …… 28
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（西より）
写真２　掘立１完掘状況（北西より）

南久米町遺跡４次調査地 …… 30
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　ＳＤ10完掘状況（西より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：３）

南久米河川水路改良工事に伴う立会調査 …… 34
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　Ｔ６完掘状況（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：500）
図３　出土遺物実測図（1）（縮尺１：４）
図４　出土遺物実測図（2）（縮尺１：３）

来住町遺跡12次調査地 …… 38
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　Ａ区完掘状況（西より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　Ｂ区完掘状況（北より）
写真３　掘立１・２完掘状況（北西より）

来住町遺跡13次調査地 …… 42
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　畠遺構検出状況（南より）
図２　遺構配置図（縮尺１：250）　写真２　調査地全景（南東より）
写真３　北壁断面畝部分（南より）
写真４　畝検出状況（東より）

久米高畑遺跡51次調査地 ……46
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地遠景（南南東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：250）　写真２　政庁北部完掘状況（南東より）
久米高畑遺跡52次調査地 ……50
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地全景（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：250）　写真２　区画溝完掘状況（東より）
図３　調査地周辺図（縮尺１：750）
久米高畑遺跡53次調査地 ……54
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　１区礫集中部（東より）
図２　調査地と『回廊状遺構』西辺（縮尺１：1,000）
久米官衙遺跡群 ～13年度調査の成果と今後の展望～ ……56
図１　政庁の変遷過程（縮尺１：500）
図２　８世紀以降の主な遺構の配置（縮尺１：4,000）
図３　久米官衙遺跡群全体図（縮尺１：2,000）
松山市埋蔵文化財調査関係資料 ……61
平成13年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図（縮尺１：75,000）
保存処理及び出土遺物整理 ……75
図１　青銅鏡実測図（1）（縮尺１：１）　写真１　高月山２号墳出土鉄斧（処理前）
図２　青銅鏡実測図（2）（縮尺１：１）　写真２　高月山２号墳出土鉄斧（処理後）
図３　青銅鏡実測図（3）（縮尺１：１）　写真３　松ヶ谷１号墳出土轡（処理前）
図４　青銅鏡実測図（4）（縮尺１：１）　写真４　松ヶ谷１号墳出土轡（処理後）
図５　青銅鏡実測図（5）（縮尺１：１）　写真５　樽味立添遺跡出土獣歯（処理前）
図６　青銅鏡実測図（6）（縮尺１：１）　写真６　樽味立添遺跡出土獣歯（処理後）
図７　青銅鏡実測図（7）（縮尺１：１）　写真７　樽味立添遺跡出土獣歯（処理前）
図８　青銅鏡実測図（8）（縮尺１：１）　写真８　樽味立添遺跡出土獣歯（処理後）
図９　青銅鏡実測図（9）（縮尺１：１）　写真９　桑原遺跡５次調査地出土獣歯（処理前）
図10　西南四国系土器実測図（1）（縮尺１：４）　写真10　桑原遺跡５次調査地出土獣歯（処理後）
図11　西南四国系土器実測図（2）（縮尺１：４）　写真11　Ｅ地点出土の種実
図12　豊後安国寺系壺実測図（1）（縮尺１：４）　写真12　Ｅ地点出土の炭化材
図13　豊後安国寺系壺実測図（2）（縮尺１：４）　写真13　人骨の各部位
図14　吉備系甕実測図（縮尺１：４）
図15　人骨の残存部分
図16　東雲神社採取遺物実測図（1）（縮尺１：４、１：３）
図17　東雲神社採取遺物実測図（2）（縮尺１：３）

啓蒙普及事業 …… 109
写真１　特別展「伊豫の鏡」見学風景
写真２　特別展記念講演会風景
写真３　「とことん考古学Ⅰ」風景
写真４　「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう！」風景
写真５　「ガラス勾玉を作ろう！」焼成風景
写真６　「遺跡めぐり」伊佐爾波神社見学風景
写真７　久米高畑遺跡51次調査地　現地説明会風景
写真８　西石井遺跡　現地説明会風景
写真９　職場体験風景（松山市立勝山中学校）

表 目 次

松山市埋蔵文化財調査概要

東石井遺跡 …… 18

表１　遺構一覧

松山市埋蔵文化財調査関係資料 …… 61

表１　平成13年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧

表２　平成13年度　松山市埋蔵文化財本格調査一覧

保存処理及び出土遺物整理

２．保存処理 …… 77

表１　平成13年度　金属製品保存処理遺跡名一覧

表２　平成13年度　動物遺骸体保存処理遺跡名一覧

表３　平成13年度　調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

３．出土遺物整理 …… 81

表１　青銅鏡一覧

表２　西南四国系土器一覧

表３　豊後安国寺系壺一覧

表４　吉備系甕一覧

４．自然化学分析 …… 98

表１　松山神社参道右手のＥ地点出土種実同定結果

表２　松山神社参道右手のＥ地点出土樹種同定結果

表３　年齢区分（Table11. Division of age）

５．資料紹介：東雲神社遺跡採取資料 …… 107

表１　出土遺物観察表 土製品

表２　出土遺物観察表 石製品

啓蒙普及事業 …… 109

表１　展示活動一覧表

表２　教育普及活動一覧表（1）

表３　教育普及活動一覧表（2）

表４　教育普及活動一覧表（3）

表５　教育普及活動一覧表（4）

表６　教育普及活動一覧表（5）

表７　教育普及活動一覧表（6）
表８　出版物一覧表（1）
表９　出版物一覧表（2）
表10　施設利用一覧表
表11　資料の貸出一覧表
表12　資料の調査一覧表
表13　職員研修・会議一覧表
表14　平成13年度 考古館月別入館者数調（平成13年４月１日～平成14年３月31日）

Ⅰ　平成13年度
松山市埋蔵文化財調査概要

土居窪（どいくぼ）Ⅲ遺跡

所在地　松山市道後緑台196－6
期　間　平成13年９月３日～同年９月14日
面　積　70.91㎡のうち26.32㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

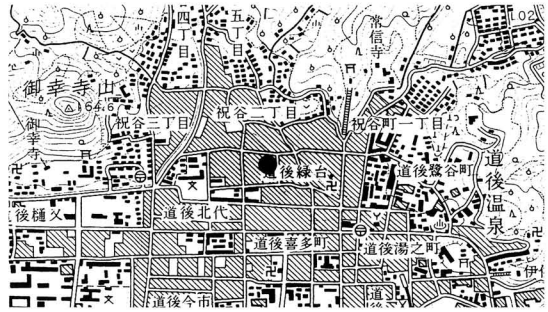


図１　調査地位置図

経　過　民間の宅地分譲に伴うもので、調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.55・56・57北代・緑台・土居窪遺物包含地」内に所在します。これまでに、調査地に東接して南北方向にのびる県道・道後祝谷線建設工事に伴って、財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センターによる発掘調査が実施されており、土居窪Ⅱ遺跡・祝谷遺跡群畑中地区（仮称）などの弥生時代前期末から弥生時代中期の集落遺跡が調査されています。また、調査地の周辺には前期末～中期初頭の環濠集落と考えられる岩崎遺跡や、中期後葉～後期初頭の拠点集落である文京遺跡などが広がっており、調査地周辺は松山平野における弥生時代の動向を考えるうえで欠くことのできない地域の一つです。

平成13年２月19日に試掘調査を実施した結果、申請地内に堆積する弥生時代中期の土器を含む包含層を確認し、隣接する遺跡と密接な関係をもつ遺構が広がると判断され、本格調査を実施することになりました。

遺構・遺物　本格調査の結果確認できた土層は９種類に及び、第１層・第２層は造成土、第３層及び第４層は近現代の水田、第６層・第７層・第８層は弥生の遺物包含層、第５層及び第９層は無遺物層です。第７層上面において弥生時代後期以降に埋没したと考えられる遺構を検出し、遺物包含層の中より弥生時代中期から後期に至る時期の土器（甕、壺、高坏、ジョッキ形土器）および土製品（紡錘車）、石器（砥石、石庖丁）などが出土しました。

ＳＤ１：調査区の北西部より若干孤を描きながら南東方向にのびる溝。埋土は黒色粘土中に暗褐色土および粗砂を疎らに混入しており、検出長約3.36m、幅16～34cm、深さ３～14cmを測る。主な出土遺物としては、弥生土器（高坏）がある。

ＳＤ２：調査区の東側から調査区を通り南側に曲がる溝で、調査区の南東隅にて検出した。埋土は黒色粘土中に細砂を疎らに含むもので、幅約80cm、深さ17～30cmを測る。主な出土遺物としては、弥生土器（甕、壺）がある。

小　結　今回の調査によって、弥生時代中期の土器を疎らに混入する遺物包含層および、その包含層を掘り込んで設けられた２条の溝を検出することができました。出土遺物より判断して、第７層上面より掘り込まれたこれらの遺構は、弥生時代中期以降、遅くとも弥生時代後期中葉までに掘り込まれた遺構である可能性が高く、短期間のうちにその機能を失い、埋没したと考えられます。

調査地の周辺では、ほぼ同時期に存在したと考えられる遺跡が数多く見つかっていますが、今後はそれらの遺跡を視野に含めたうえで、遺物および遺構の検討ならびに土層の検証作業が必要であると考えられます。（吉岡）

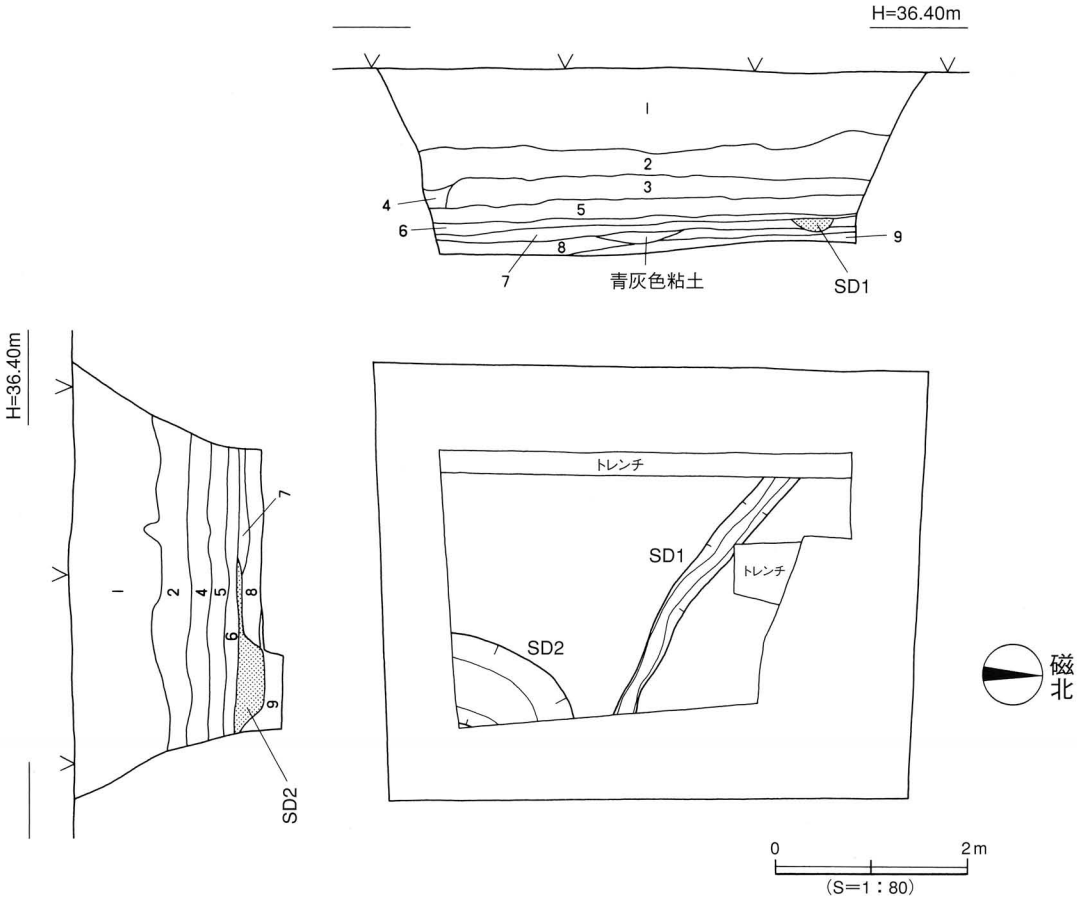


図２　遺構配置図・西壁・南壁土層図

写真１　遺構検出状況（北より）

中村松田遺跡４次調査地

（なかむらまつだ）

所在地　松山市中村１丁目55-4
期　間　平成13年５月７日～同年７月31日
面　積　285㎡のうち110㎡
担　当　田城武志・政本和人

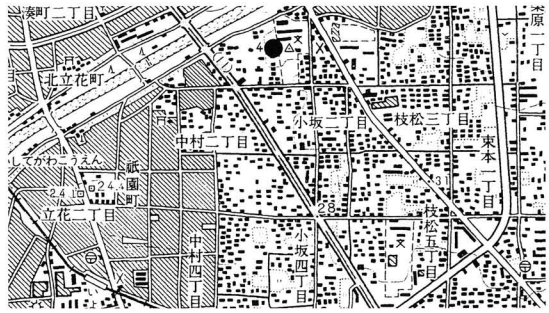


図１　調査地位置図

経　過　当該地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№108中村町遺跡」内に所在する。これまで周辺では中村松田遺跡（１～３次）・素鵞小学校遺跡・小坂七ノ坪遺跡（１～３次）・釜ノ口遺跡（１～10次）等の調査が実施され、弥生時代～古代の集落関連遺構が数多く確認されている。試掘調査の結果、多量の弥生土器と柱穴が検出されたことから申請地内における遺構の遺存状況や周辺地域への遺跡の広がりの解明を主目的とし、遺構保全のため国庫補助による調査を行った。

遺構・遺物　調査地は松山平野北東部の石手川扇状台地端部（標高29.70m）に位置する。基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層褐色土、第Ⅴ層黒褐色土（調査区北半部に推積）、第Ⅵ層黒色土（南半部に推積）、第Ⅶ層茶褐色土、第Ⅷ層地山である。遺構は第Ⅴ・Ⅵ層上面において検出し、井戸状遺構２基、掘立柱建物跡１棟、土坑５基、柱穴９基、性格不明遺構1基を確認している。

［弥生時代］調査区北半部で２基の井戸状遺構を検出した（ＳＥ１・ＳＥ２）。ＳＥ１は調査区北部中央での検出で、平面形態はほぼ円形、掘り方は上端部の開いたＵ字状を呈する。規模は径165㎝、深さ122㎝を測る。埋土上層より完形品を含む多量の弥生土器が出土している。これと比較して中層および下層では僅かな弥生土器片が出土したのみである。この出土状況から考えて、多量の土器は井戸の廃絶に伴い一括廃棄されたものと推測される。出土土器は弥生時代後期に比定され、一括性の高い資料である。ＳＥ２は一部調査区外へと展開するが、ＳＥ１と同じ様相の遺構である。

［古代］掘立柱建物跡１棟（掘立１）、土坑（ＳＫ）５基が検出された。掘立１は主軸を真北より西に３°振れ、桁行4間、梁行が２間以上の建物で東側は調査区外に展開する。柱穴の平面形態はほぼ円形で規模は径57～82㎝、深さ４～33㎝を測る。遺物は弥生土器・須恵器・土師器が出土しているが、小片で摩滅が著しく時期の特定は困難である。

ＳＫ２は調査区北東部東壁際で検出された。平面形態はほぼ円形で規模は径84㎝、深さ68㎝を測る。断面形状はⅢ状を呈する。出土遺物は８世紀代の大甕の口縁部が出土している。この土器にはトギベリが看取され、またスミ状の汚れが付着していることから硯に転用されたものと考えられる。

小　結　弥生時代後期に比定される２基の井戸状遺構を確認した。この遺構は小坂七ノ坪遺跡２・３次において検出された井戸状遺構と形状・埋土・土器の出土状況・時期等、類似点が多いことから同時期に営まれた同じ性格の遺構と考えられる。このことから、当時本調査地を含めた周辺地域が大規模集落の中の水場的役割を担う地点に位置したものと見受けられる。また古墳時代以降になると住居址や土坑が出現することから集落における土地利用の様相の変化を読み取ることが可能である。本調査により弥生時代後期～古代にかけての土地利用の様相が一部解明されたものと思われる。（政本）

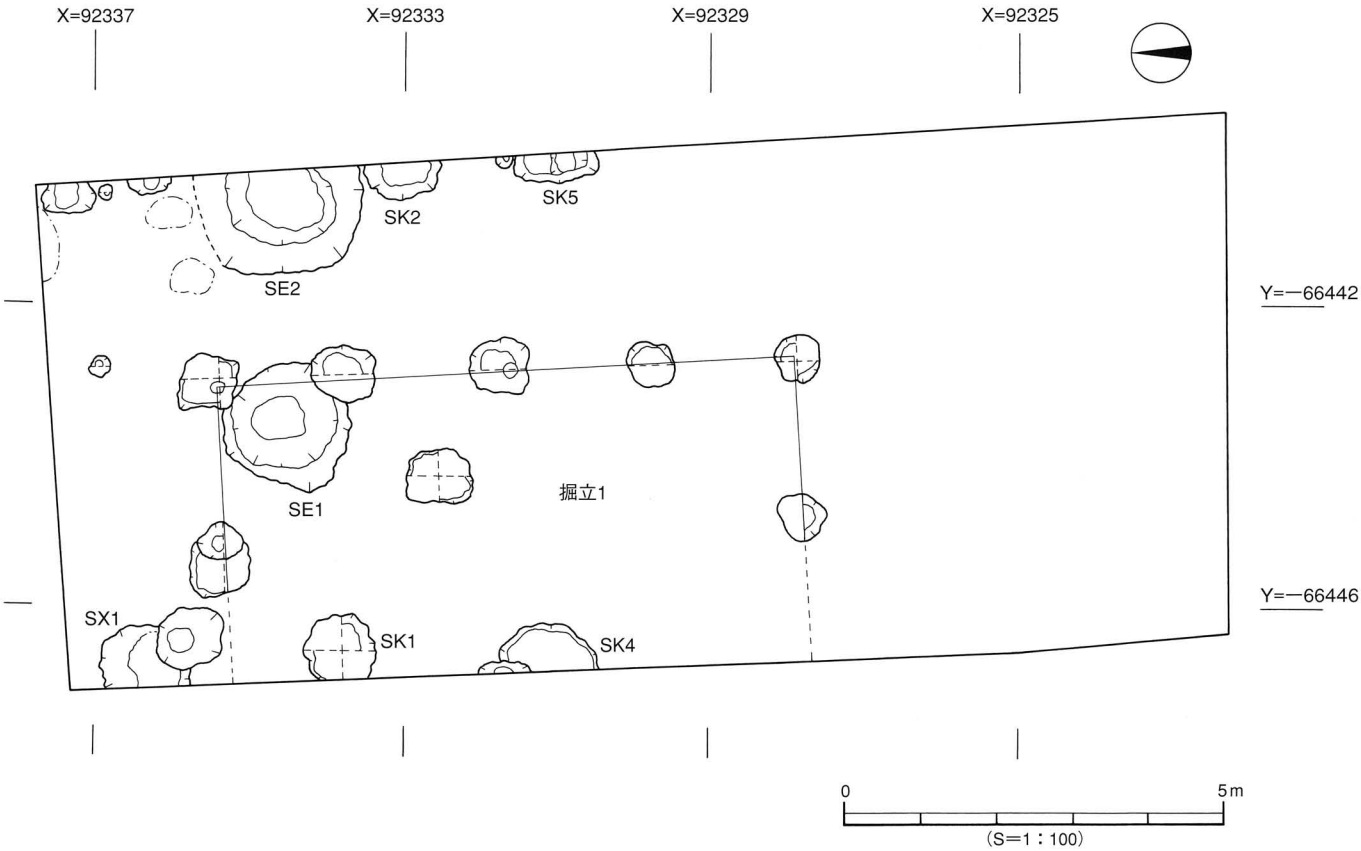


図２　遺構配置図

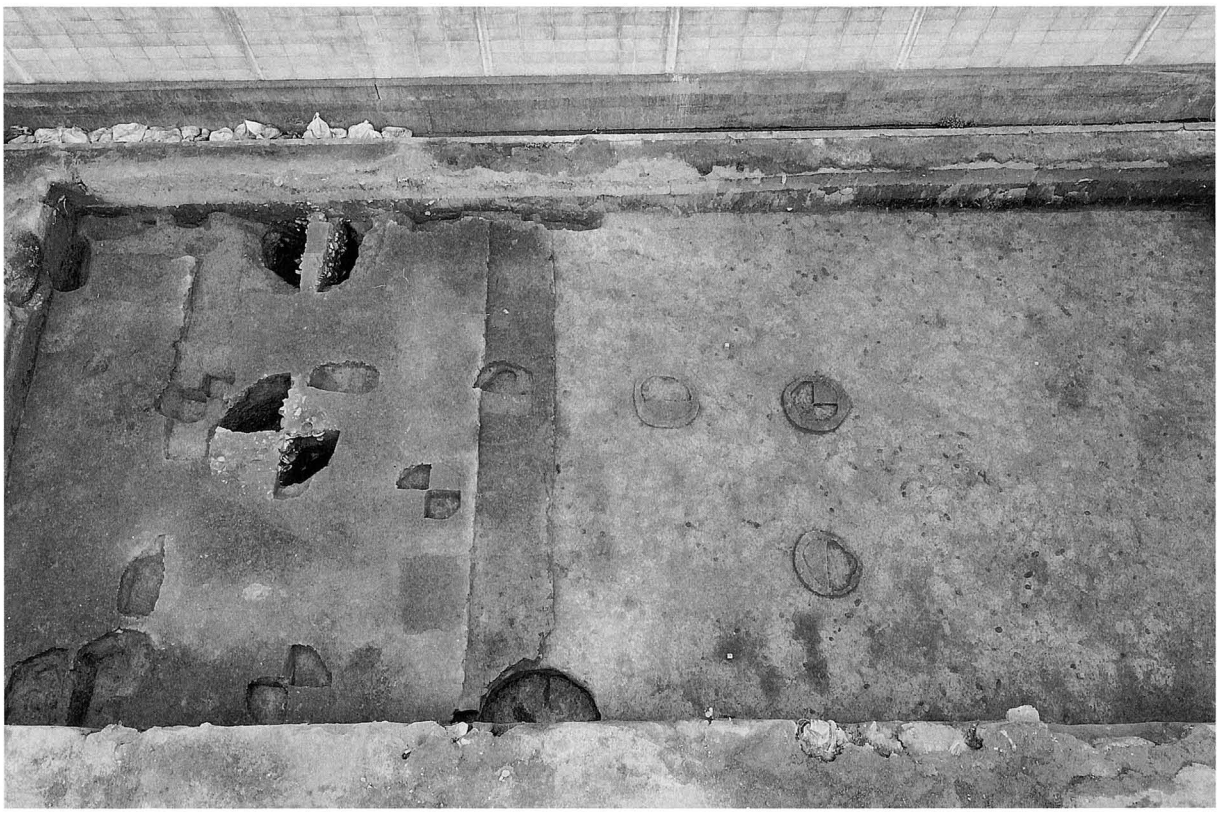


写真１　調査地全景（西より）

桑原高井遺跡３次調査地

所在地　松山市桑原１丁目779番２
期　間　平成13年７月12日～同年10月５日
面　積　241.04㎡
担　当　小笠原 彰

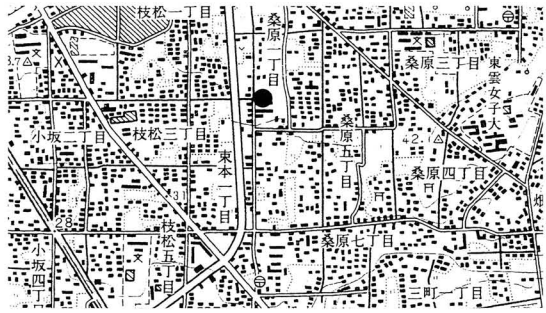


図１　調査地位置図

経　過　調査地が立地する石手川中流左岸地域では、既往の調査によって弥生～古墳時代の大規模集落を予見させる遺構が濃密に検出されている。近年、調査地近隣の東本遺跡４～６次調査では弥生後期の大型竪穴式住居の検出が相次ぎ、その中で青銅鏡の破鏡やガラス小玉を所持する住居（４次：ＳＢ302）が確認された。有力者が居住する中核的集落を想定できる所見である。現状の調査成果から本調査地は、該当時期の集落に関する新たな情報が得られる場所と期待される。調査は個人住宅建設（松山市埋蔵文化財包蔵地「№157桑原遺物包含地」内）の事前調査で国庫補助により実施した。

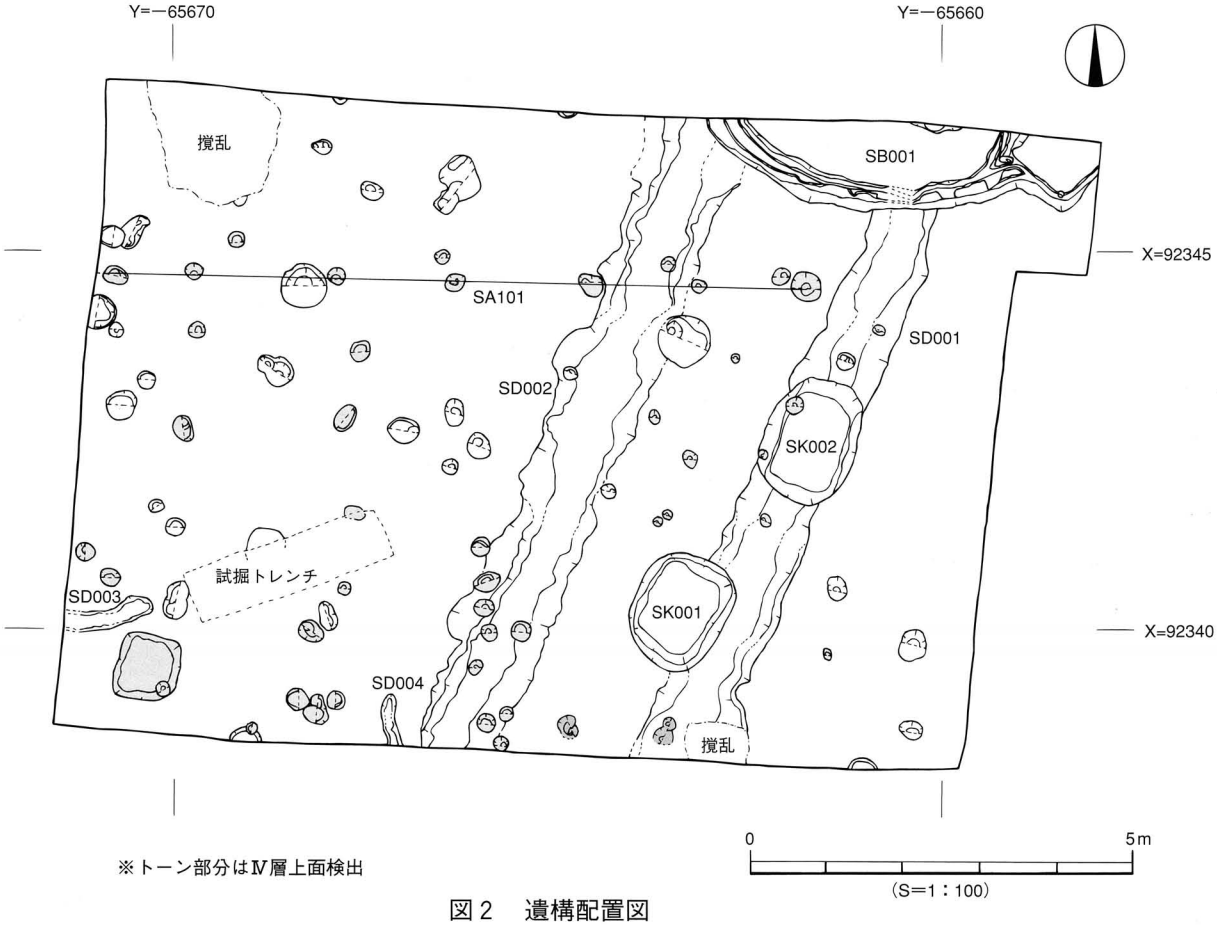
遺構・遺物　調査地は標高約35ｍの低位段丘上に位置する。基本層序は概ねⅠ層造成土、Ⅱ層旧耕作土、Ⅲ層床土層、Ⅳ層包含層（黒色土：弥生土器包含）、Ⅴ層地山層（灰黄褐色シルト質土）となる。遺構はⅣ層上面とⅤ層上面の２面において検出している。以下、各遺構面の概略を述べる。

［第１遺構面］Ⅳ層上面において暗灰黄色砂質土を埋土とする小穴群を49基検出した。埋土に土師質の細片を含むのみで時期の特定はできないが、埋土の色調から推測して中世以降の建物群の柱穴であろう。東西方向の柵列（ＳＡ101）を復元し得たのみで、他の柱穴の対応関係は不明である。

［第２遺構面］Ⅴ層上面において竪穴式住居址１基、溝４条、土坑２基、柱穴35基を検出した。

ＳＢ001は円形竪穴式住居である。内部施設として二重に巡る周壁溝を検出したが、住居の一部分の検出のため主柱穴・炉等は確認できていない。二重の周壁溝は住居の構造に関わるものではなく拡張による結果と考えられる。外側は径６ｍ程度、内側は径５ｍ強に復元可能で、周辺調査における同時期の住居との比較から中型規模に属している。床面では貼り床を検出しており、直上から弥生土器と炭化材が出土している。住居の構造を解釈する上で問題となるのは、南東側に取り付くように検出した方形プランである。周辺調査では３×２ｍ程度の小型方形竪穴式住居の検出例があり、同様な住居が重複している公算は高い。ただＳＢ001床面との高低差はなく、また明確な切り合いを確認できないことからＳＢ001に付随する張り出し部との理解も可能である。全体像を把握できない今回は両方の可能性を想定しておきたい。出土土器は概ね弥生後期末の範疇で捉えることが可能なものである。

小　結　これまでの所見から、石手川中流左岸地域に集落関連遺構が急増するのは弥生後期後半以降である。本調査においても後期末の中規模住居の検出例を追加した。これは当地域に古墳前期初頭の首長居館（樽味四反地遺跡６次）や古墳中期末～後期前葉に比定されている経石山古墳、三島神社古墳という前方後円墳を築く基盤となる集落の萌芽的な様相を示していると考えられる。今後、当地域における弥生～古墳時代の集落の歴史的発展を考える上で、同時期の集落単位の抽出とその変遷の把握に努め、その成果を松山平野全体の集落動向の中に位置付けていくことが必要であろう。（小笠原）



※トーン部分はⅣ層上面検出

図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（西より）

桑原（くわばら）遺跡４次調査地（３区・５区）

松山市道「中村～桑原線」関連遺跡

所在地　松山市桑原５丁目９－12、13他
期　間　平成13年４月６日～同年９月28日
面　積　３区：271㎡　　５区：152㎡
担　当　相原浩二・武正良浩

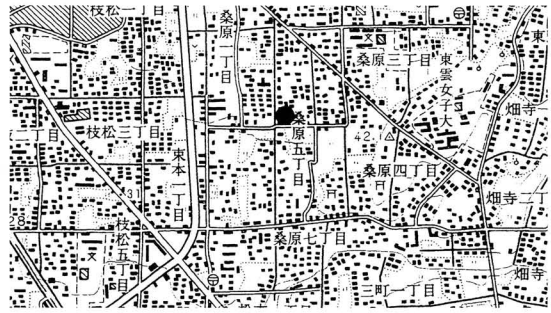


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道「中村～桑原線」の道路新設に伴う事前発掘調査である。調査地は、市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№82　東本遺物包含地』と『№157　桑原遺物包含地』内にあり、周知の包蔵地である。調査対象地は、松山東部環状線に接する東本１丁目116番６から東へ市道桑原130号線にあたる桑原４丁目359番２までの全長650m、道路幅18mの全域となっている。今回は、その中央部にあたる。調査地周辺は、これまでに数多くの発掘調査が行われている。アカホヤ火山灰（約6,300年前）及びＡＴ火山灰（約22,000～25,000年前）という２つのテフラ（火山灰）の検出で注目された東本４次調査地や「船」の線刻画土器（弥生時代後期）の出土で知られる樽味高木遺跡２次調査地をはじめ、弥生時代～古墳時代にかけての集落関連遺構が確認されており、松山平野の重要な遺跡地帯である。

遺構・遺物　３区は以前は既存宅地であり、旧地権者から本調査区が明治初期には既に宅地化されていたことや牛舎が併設されていたことなどのご教示を受けた。調査区の標高は35.3mを測る。

３区の基本層序は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰色土、第Ⅲ層黄灰色土、第Ⅳ層淡黄茶色土、第Ⅴ層黄色粘質土、第Ⅵ層緑灰色砂礫である。遺構の検出は、第Ⅴ層上面で行った。

３区の調査では、弥生時代後期後葉、中世～近世の遺構や遺物を確認した。弥生時代後期後葉の遺構には、土坑１基（ＳＫ16）がある。中・近世の遺構には、掘立柱建物跡９棟、柱列２条、土坑22基、溝３条、柱穴527基、倒木痕１ヶ所を検出している。

５区は以前は既存宅地（鉄筋コンクリート４階建てマンション跡地）であった。調査区の標高は35.8mを測る。

５区の基本層序は第Ⅰ層造成土（真砂土）、第Ⅱ層旧水田（耕作）層、第Ⅲ層淡黄白色粘質土、第Ⅳ層暗灰色砂質土、第Ⅴ層黄茶色粗砂、第Ⅵ層青白色粘土である。

検出した主な遺構は、土坑12基、柱穴５基である。

小　結　今回の調査では、中世～近世にかけての遺構・遺物を検出した。その数量的には、遺跡の希薄な地帯となっている。しかしながら、造成土下に本来存在すべき土層の欠如、或いは本調査区東方に位置する桑原遺跡２次調査地から中世の遺構・遺物が検出されていることより、本調査区も桑原遺跡２次調査地の延長線上にあることは十分考えられる。なお、３区においては調査区東壁の土層観察により約22,000から25,000年前に降下した姶良ＡＴ火山灰層がポケット状の窪みに堆積しているのを確認した。その堆積状況から風雨による２次堆積により残存したものと考えられる。（武正）

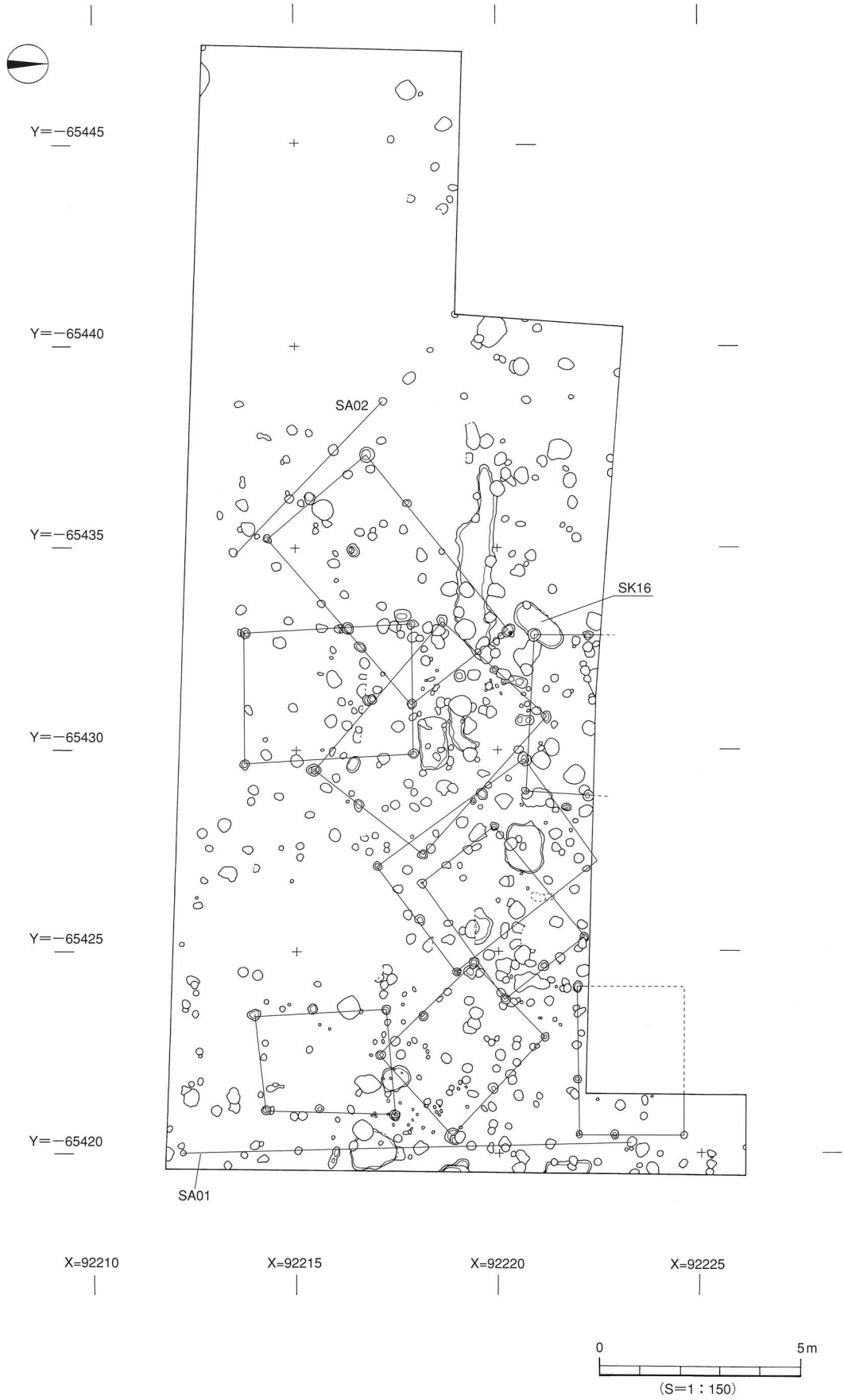

Y=−65445
Y=−65440
Y=−65435
Y=−65430
Y=−65425
Y=−65420
SA02
SK16
SA01
X=92210
X=92215
X=92220
X=92225
0
5m
(S=1：150)

図２　３区遺構配置図

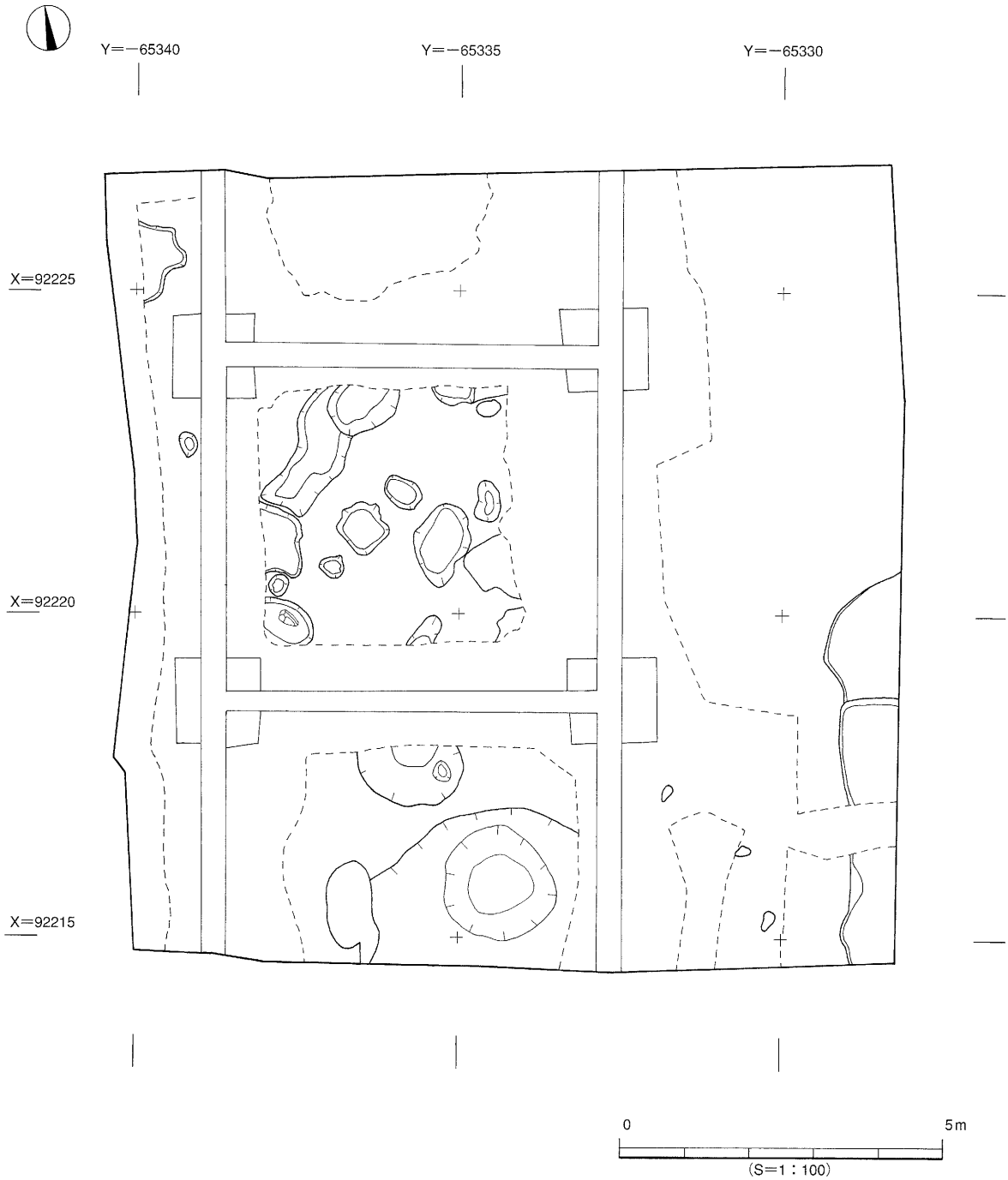


図３　５区遺構配置図

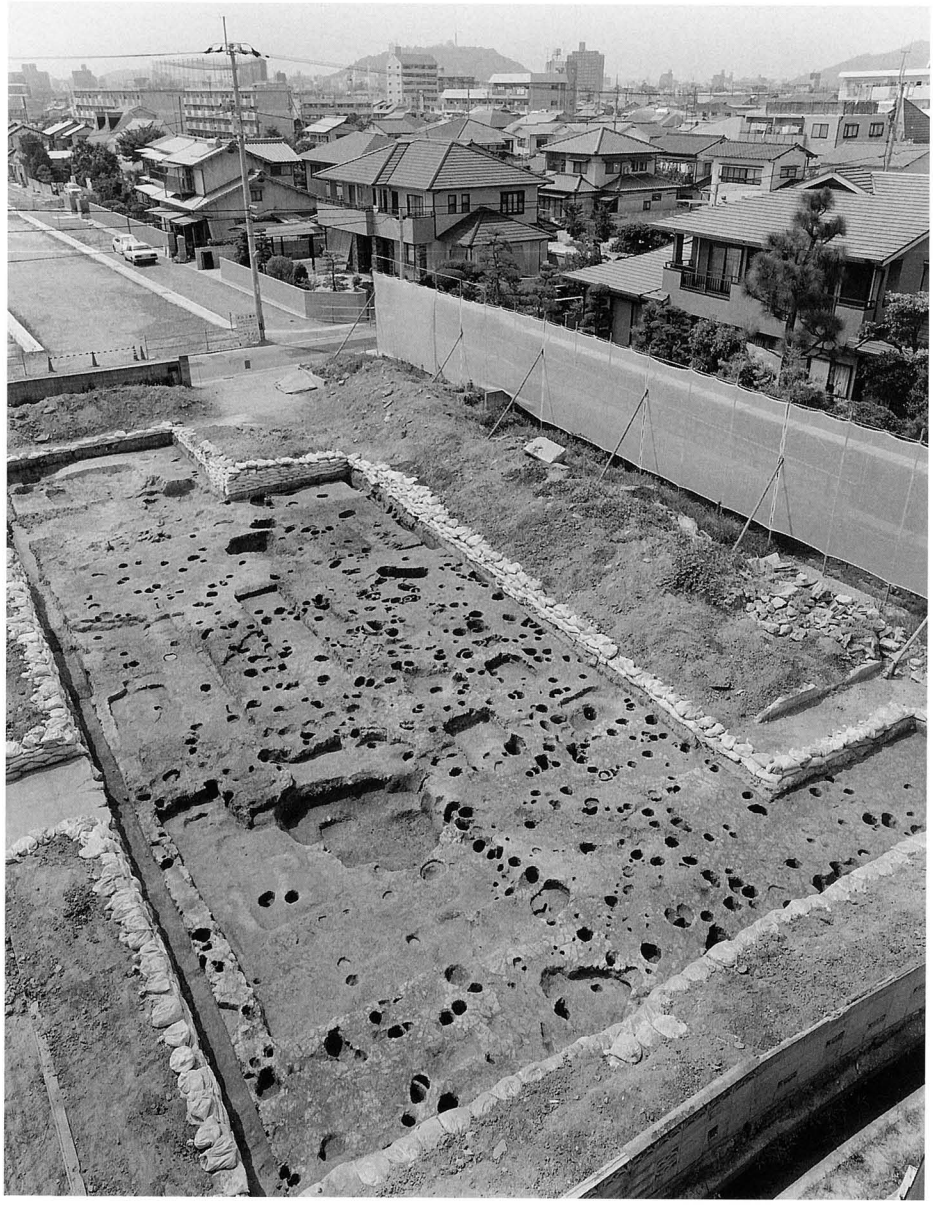


写真１
３区遺構完掘状況
（東より）

写真２
５区遺構完掘状況
（北より）

桑原（くわばら）遺跡５次調査地

所在地　松山市桑原５丁目688-1･3、687-1･7
期　間　平成13年４月６日～同年８月31日
面　積　1480.66㎡のうち723.40㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

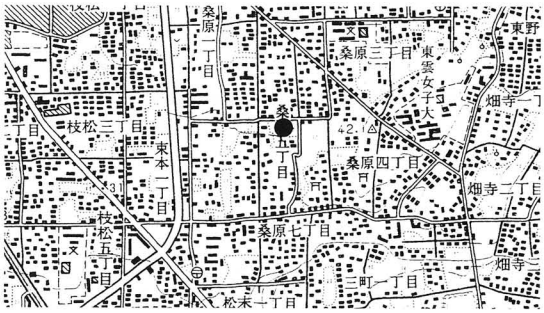


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道「中村～桑原線」の道路建設事業に関連した、桑原集会所の移転および公園建設に伴う緊急調査です。申請地の近隣、市道「中村～桑原線」に伴って実施された東本遺跡６次調査地、桑原遺跡２次調査地、同4次調査地などの発掘調査では、弥生時代後期の大型竪穴式住居址、古代の溝、中･近世の炭焼窯などが検出されています。また、これまでに申請地の東・南側では、桑原本郷遺跡・経石山古墳・三島神社古墳・桑原遺跡2次調査地など、多くの遺跡が調査されており、調査地周辺が古墳時代から中世の集落・墳墓遺跡の分布する地域だということも知られています。

平成13年2月2日～6日に試掘調査を実施した結果、申請地内に柱穴および数条の流路を検出し、その内部に弥生土器・土師器・須恵器が含まれることを確認しました。今回、その結果を受けて本格調査を実施することになりました。

遺構・遺物　本格調査の結果、古墳時代から中･近世に至る時期の遺構を確認しています。

調査区の西側において検出したＳＲ７は、主に古墳時代後期に流れ、古代末から中世前期にかけて埋没、安定したと考えられる自然流路です。大きく２層に分層することが可能で、上層（しまりの強い暗褐灰色粘質土）より古代末から中世前期の土器、下層（黒色粘土と暗灰色砂の互層堆積）より弥生時代～古墳時代後期に至る時期の土器・石器・木製品等が出土しています。

調査区の東側において検出したＳＲ８は、古墳時代後期の流路（溝）です。古代末に改修・利用し、西側に連なるＳＤ３を通して南西方向に水を引き込んでいたと考えられます。古墳時代後期に堆積したと考えられる下層は、黒色粘土と暗灰色砂が互層堆積をなしており、古代末に再利用され遅くとも中世後期には埋没したと考えられる上層にはしまりの強い暗褐灰色粘質土が堆積していました。上層からの出土遺物には、円盤高台を有する土師器の杯があり、下層からは、須恵器・土師器などと共に木製品（木錘・斎串・瓢箪製の杓子など）の出土がみられます。

また、２棟の掘立柱建物跡を検出していますが、いずれも中世後期以降に建てられたと考えられるものです。掘立１は東西１間、南北２間の南北棟、掘立２は東西２間、南北１間の東西棟で、掘立１の柱穴埋土中からは、土師器杯および土鍋口縁部片などが見つかっています。

小　結　ＳＲ８より出土している斎串は全国的にも最古段階に位置付けられるもので、松山平野で二例目となる瓢箪製杓子と共に、今後の古墳時代研究を進めていく上で貴重な資料です。古代末の段階、ＳＲ８の西岸部分に“テラス状の段を造りだす”人為的改修の痕跡を確認しており、ＳＲ８との連結部分をテラスと同じ高さに掘り込んだＳＤ３を用いて、南西方向に水を導いていたと考えられます。もし、ＳＤ３が導水路であるとすれば、その延長部分(調査地の南側部分)に如何なる施設があるのか興味深い問題です。今回、調査区内において古墳時代及び古代の住居跡を検出することはできませんでしたが、調査地の周辺に居住地域があることは確実で、今後の調査によって解明できると考えられます。（吉岡）

写真１　調査地全景（東より）

写真２　SR８下層出土瓢箪製杓子

西石井遺跡（1区～3区）

所在地　松山市古川北２丁目292番地外
期　間　平成13年10月１日～平成14年３月29日
面　積　4,480㎡のうち1,600㎡
担　当　水本完児・梅木謙一

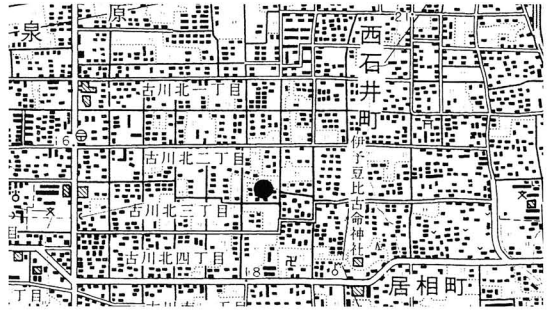


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道「北久米・和泉線」道路改良工事に伴う事前調査である。調査地は松山平野の南部、標高18.6ｍに立地する。西石井地区では４度の調査が行われ、弥生時代から中世までの集落関連遺構と遺物が多数確認されている。調査地の北東には弥生時代後期の竪穴式住居址や土坑墓を検出した西石井荒神堂遺跡1・２次調査地、東には古墳時代の竪穴式住居址や古代の溝、中世の土器を検出した石井幼稚園遺跡１・２次調査地がある。

遺構・遺物　調査地の基本層位は第Ⅰ層表土（造成土・耕作土）、第Ⅱ層褐色土（水田床土）、第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層黄色シルト、第Ⅴ層灰白色シルト、第Ⅵ層砂層・礫層である。遺構は第Ⅳ層上面で、竪穴式住居址11棟、溝８条、土坑７基、土器棺２基、性格不明遺構１基、柱穴・小穴118基を検出した。このうち、古代の遺構は性格不明遺構で、それ以外は弥生時代の遺構になる。

ＳＢ102は、調査区１区の東部に位置し、北側はトレンチに切られている。平面形態は方形を呈し、規模は南北検出長7.3ｍ、東西5.9ｍ、壁高は75㎝を測る。床面積は41.9㎡である。施設は主柱穴を10基検出し、それらの平面形態は円形を呈し、柱穴の掘り方径は15～25㎝、深さ３～８㎝を測る。遺物は、住居址の埋土より弥生土器、焼土、炭が出土した。

小　結　本調査では、弥生時代と古代の遺構と遺物を確認することができた。

１．弥生時代

注目する遺構は、竪穴式住居址ＳＢ101・102・202と、溝ＳＤ201である。

ＳＢ101・102・202は大型の竪穴式住居址で、平面形態はＳＢ101・102が方形、ＳＢ202は円形を呈し、床面積が40㎡以上あり、当時の松山平野では最大級の住居址になる。これらの住居は遺存状況がよく、竪穴式住居址が70㎝以上掘られていたことが分かり、貴重な資料といえる。また、ＳＤ201は検出された場所や幅から、集落を区画する溝の可能性がある。溝の底からは、完形品の土器が一列に並んで出土し、当時の生活や日常道具の様子を具体的に示す資料が得られている。今回の調査によって、西石井地区には弥生時代終末～古墳時代初頭（３世紀）の集落があり、ＳＤ201を挟んで、１・２区には大型竪穴式住居址で構成される集落が、３区には通常規模の竪穴式住居址で構成される集落が存在し、集落間や集落内の様子が具体的に明らかになってきた。

２．古代

古代の遺構は性格不明遺構（ＳＸ）１基に限られ、出土遺物には、須恵器や土師器がある。西石井地区では数少ない古代の資料になっている。（水本）

写真１
１区完掘状況（西より）

写真２
２区完掘状況（東より）

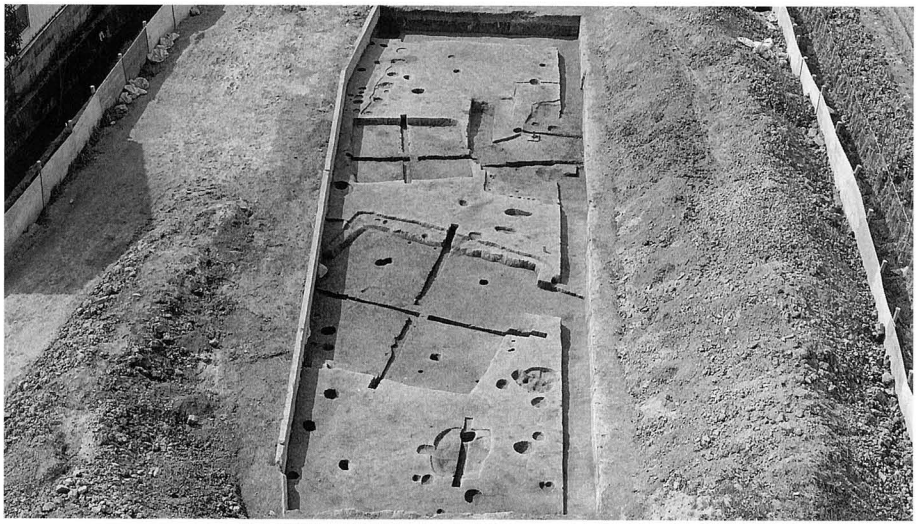


写真３
３区完掘状況（東より）

写真４　ＳＢ101完掘状況（西より）

写真５　ＳＢ102完掘状況（西より）

写真６　ＳＢ202・205完掘状況（東より）

写真７　ＳＢ203完掘状況（西より）

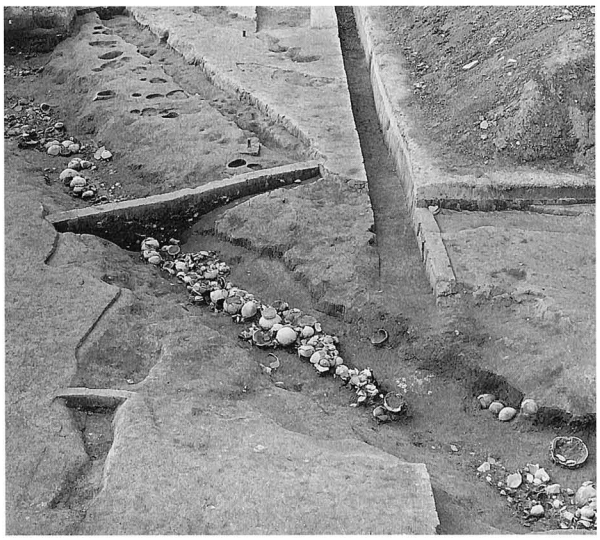


写真８　ＳＤ201遺物出土状況（１）（東より）

写真９　ＳＤ201遺物出土状況（２）（北より）

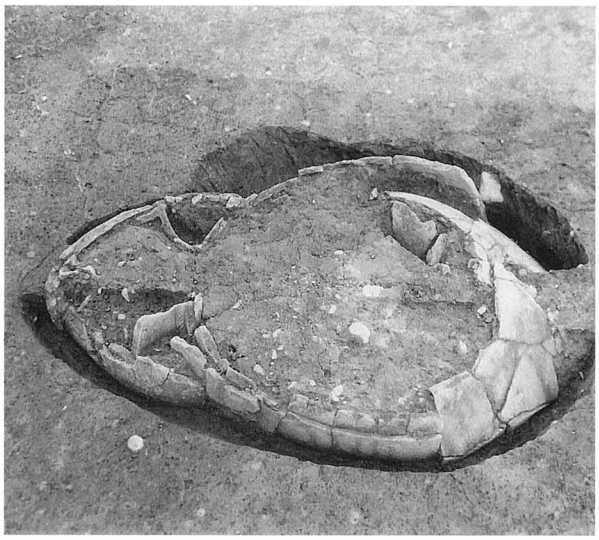


写真10　土器棺201出土状況（東より）

写真11　土器棺201完掘状況（北東より）

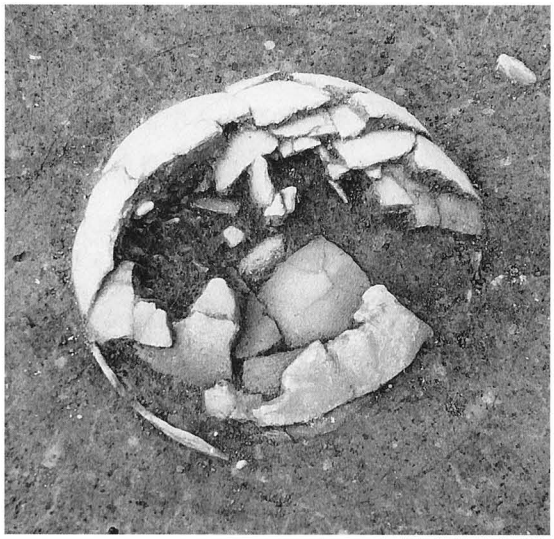


写真12　土器棺202出土状況（南より）

写真13　ＳＫ202遺物出土状況（南より）

写真14　ＳＢ301・302完掘状況（東より）

写真15　ＳＢ303完掘状況（東より）

東石井遺跡（ひがしいしい）

所在地　松山市東石井町527番地1
期　間　平成13年６月１日～平成14年２月28日
面　積　4,800㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

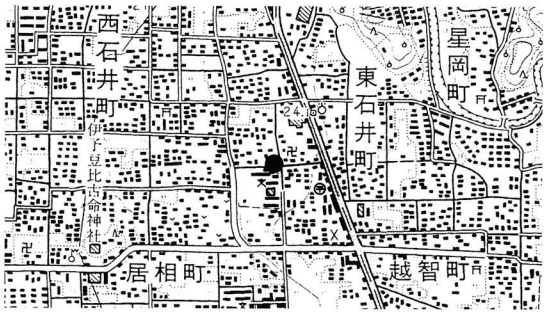


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道「北久米･和泉線」道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は、全長300m、道路幅16m、調査対象面積4,800㎡である。調査地東側は国道33号線に接続する。調査地の北西には、弥生時代後期の竪穴式住居址や土坑墓が調査された西石井荒神堂遺跡１・２次調査地や、古墳時代後期や古代の溝、中世の土器が出土した石井幼稚園遺跡１・２次調査地がある。また、南側では弥生時代前期の溝が調査された南中学校構内遺跡が存在し、調査地周辺では、弥生時代から中世までの集落関連遺構や遺物が確認されている。これらのことから、弥生時代から中世までの集落様相や範囲確認を主目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、調査を実施した。調査地が東西に長い形状であるため、調査の進行上、調査地内を３区画に分けて調査を行なうこととなった。区割りは、西側より１区・２区・３区とし、さらに２区はＡ地区・Ｂ地区…Ｅ地区、３区はＡ地区・Ｂ地区…Ｄ地区と細区分した。調査の結果、弥生時代後期から古代の集落関連遺構や遺物を確認した。

遺構･遺物　調査地は松山平野南部、石手川の支流である小野川と重信川の支流である内川の２つの河川の氾濫に起因する扇状地上に位置する。調査以前は既存宅地であった。現況の地形は東から西に向かって緩傾斜をなし、標高22.30m～23.90mを測る。

基本土層は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰褐色土～褐色土、第Ⅲ層黒緑土～黒色土、第Ⅳ層黄褐色土～黄褐色砂質土、第Ⅴ層黄褐色粘質土、第Ⅵ層黒色粘質土、第Ⅶ層灰色砂礫層である。第Ⅰ層は近現代の造成土及び、農耕にかかわる客土である。地表下30～80cmまで開発が行われている。第Ⅱ層は古代の遺物包含層であり、調査地の中央部を除く地域に堆積し、層厚10～20cmを測る。第Ⅲ層は層厚10～30cmを測る。微弱な土色と砂粒の違いにより４層に分層した。第Ⅲ①･②･③層は古墳時代、④層は弥生時代後期の遺物包含層である。第Ⅲ①層は１区のみに堆積し、第Ⅲ②層は調査地西部と東部、第Ⅲ③層は３Ｄ地区のみに堆積する。第Ⅲ④層は調査地の中央部に堆積する。第Ⅲ②層上面にて古代の遺構を検出した。第Ⅳ層は層厚10～30cmを測る。砂粒の違いにより２層に分層した。第Ⅳ①層中から弥生土器が少量出土した。第Ⅳ②層は河川の氾濫に伴う砂質土である。調査地の西部から中央部に堆積する。第Ⅳ①層上面にて弥生時代後期、古墳時代、古代の遺構を検出した。第Ⅴ層は粘性の強い土壌であり、本層上面は本調査における最終遺構検出面である。調査地の中央部を除く地域に堆積する。

第Ⅴ層下面の土層については調査壁沿いに深掘トレンチを設定し、土層観察を行った。その結果、１区、２Ａ地区、３Ｄ地区にて第Ⅴ層堆積以前の自然流路を確認した。第Ⅵ層は粘性の強い土壌で無遺物層である。調査地の西部から中央部に堆積する。第Ⅶ層は小野川、内川の氾濫に起因する砂礫層で、円礫（径20～30cm）と粗砂で構成される。基本土層のうち、第Ⅲ④層と第Ⅵ層は石井幼稚園遺跡

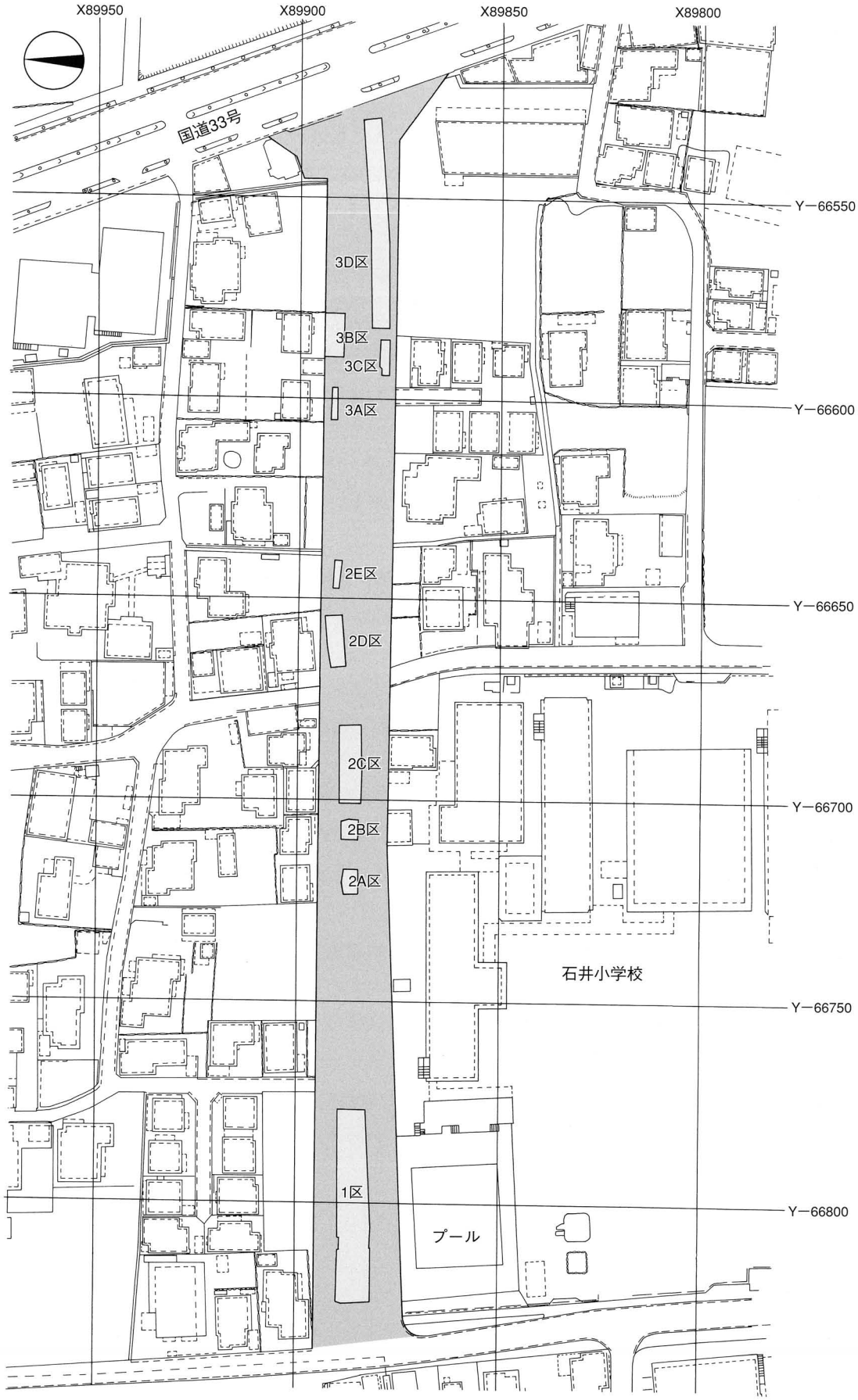


図２　調査地測量図

(S=1：1,500)

1・2次調査地からも確認されている。本調査では、弥生時代後期から平安時代までの遺構と遺物を検出した。調査で確認した遺構は表1に記している。このうち、主な遺構について説明する。

【弥生時代】

竪穴式住居址は4棟（2D地区：SB201、3A地区：SB301、3D地区：SB303·304）を検出した。SB304は平面形態は円形を呈し、東西検出長4.8m、南北検出長3.8mを測る。内部施設は貼床、主柱穴、小ピットを検出した。貼床は床面全体に施される。遺物は埋土中から弥生土器が出土した。そのほか、貼床上面にて炭化物と焼土が出土した。

井戸は、4基（1区：SE101・102・103、3B地区：SE301）を検出した。SE102は、平面形態は円形を呈し、径2m、深さ118cmを測る。掘り方は二段掘状になり、掘り方最終面は第Ⅶ層砂礫層に及ぶ。埋土は2層に分層され、①層は黒褐色土に拳大の礫が混入し、②層は黄褐色砂質土である。堆積状況は①層が船底状、②層が水平堆積をなす。遺物は①層中から完形の甕形土器や壺形土器を含む弥生土器が多数出土した。

溝は6条（1区：SD102・103・104・105、2D地区：SD203·204）を検出した。SD104は東西方向の溝で、検出長18.1m、幅1.8mを測る。遺物は、埋土中から弥生土器の破片が多数出土した。

【古墳時代】

掘立柱建物跡は3棟（3D地区：掘立301・302・303）を検出した。掘立301は2間×3間の東西棟で、建物方位を真北方向にとる。規模は、桁行長6.5m、梁行長4.0mを測る。遺物は、柱穴埋土中から土師器片と管玉が出土した。

溝は2条（1区：SD106、2C地区：SD202）を検出した。SD106は南北方向の溝である。規模は、検出長8.0m、幅1.0mを測る。遺物は、埋土中から須恵器坏身、坏蓋の完形品が出土した。

【古　代】

溝は13条（1区：SD101、2C地区：SD201、3A地区：SD301、3B地区：SD302～305、3C地区：SD306～308、3D地区：SD309～311）を検出した。SD101は、南北方向の溝である。溝方位を真北方向にとる。規模は、検出長6.2m、幅2.0mを測る。遺物は埋土中から土師器、須恵器片が出土した。

小　結　今回の調査では、弥生時代後期から古代までの集落関連遺構と遺物を検出した。弥生時代後期では、竪穴式住居址や井戸等の生活関連遺構を検出した。また、古墳時代においても掘立柱建物跡や溝、井戸等を検出した。本調査地が所在する石井地区では発掘事例が少なく、集落様相の不明な点が多い地域であった。今回の調査により、弥生時代集落の存在が確実となり、さらには、古墳時代から古代にかけての集落が存在する可能性が高いものとなった。今後の当地区内での調査結果を待ち、石井地区における集落経営や動態を検討していく必要がある。（相原）

表１　遺構一覧　(1)

区	地　区	遺構名	出土遺物	時　　期	備　　考
１区		掘立101	弥生土器	弥生後期後半以降	１間×２間
		掘立102		弥生後期後半以降	１間×２間
		ＳＤ101	土師器・須恵器	８ｃ前半	第Ⅱ①層が覆う
		ＳＤ102	弥生土器	弥生後期中頃以降	ＳＤ105を切る
		ＳＤ103	弥生土器	弥生後期中頃以降	第Ⅲ①層が覆う
		ＳＤ104	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＥ101・102に切られる
		ＳＤ105	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＤ102が一部覆う
		ＳＤ106	須恵器	６ｃ後半	SD102･SX102を切る
		ＳＫ101	弥生土器	弥生後期前半～中頃	
		ＳＥ101	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＤ104を切る
		ＳＥ102	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＸ101掘り下げ時に検出
		ＳＥ103	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＤ104を切る
		ＳＸ101	弥生土器・石器	弥生後期前半～中頃	SX101掘り下げ中にSE102を検出する
		ＳＸ102	弥生土器	弥生後期前半～中頃	ＳＤ106に切られる
		ＳＲ101		弥生後期以前	北東－南西方向 第Ⅵ層下面検出
		ＳＲ102		弥生後期以前	北壁の西側にて検出
２区	Ａ地区	ＳＰ201		弥生後期末以降	第Ⅳ①層上面検出
		ＳＲ201		弥生以前	南東－北西方向 第Ⅵ層下面検出
	Ｂ地区	ＳＲ202		弥生後期	南東－北西方向 第Ⅳ①層上面検出
		ＳＲ203		弥生後期以前	第Ⅳ②層上面検出
	Ｃ地区	ＳＤ201	土師器・須恵器・瓦	10ｃ代	第Ⅲ②層が覆う
		ＳＤ202	須恵器	５ｃ後半	第Ⅲ②層が覆う
		ＳＲ204	弥生土器	弥生後期	南東－北西方向 第Ⅲ③層が覆う
		ＳＲ205		弥生後期以前	南東－北西方向 第Ⅳ②層上面検出
		ＳＰ202～ ＳＰ207		古墳～古代	第Ⅲ②層上面検出
		ＳＰ208～215 ＳＰ220～225		弥生後期～古墳	ＳＤ202底面検出
	Ｄ地区	ＳＢ201	弥生土器	弥生後期後半～末	第Ⅲ④層を切る 第Ⅶ層上面検出
		ＳＤ203		弥生後期以降	第Ⅶ層上面検出
		ＳＤ204		弥生後期以降	第Ⅶ層上面検出
		ＳＰ216～ ＳＰ219		古墳～古代	

遺構一覧

(2)

区	地　区	遺構名	出土遺物	時　　期	備　　考
3区	A地区	SB301		弥生後期末	第Ⅲ②層が覆う
		SK301		古墳以前	SD301に切られる　第Ⅲ②層が覆う
		SD301		10c	第Ⅲ②層を切る　第Ⅴ層上面検出
		SP301～SP309		古墳以前	黒褐色土＋黄褐色土
	B地区	SD302	須恵器	7c以降	第Ⅲ②層上面検出　第Ⅱ②層が覆う
		SD303	須恵器	7c以降	第Ⅲ②層上面検出　第Ⅱ②層が覆う
		SD304	弥生土器・須恵器	7c前半	第Ⅱ②層が覆う
		SD305	弥生土器	10c代	第Ⅱ②層が覆う
		SE301	弥生土器	弥生後期末	第Ⅱ②層が覆う　下面は第Ⅶ層
		SP310～SP313		古代	褐色土
		SP314～SP320			黒色土。第Ⅴ層上面で検出
	C地区	SD306		10c代	
		SD307	土師器・須恵器	10c代	
		SD308		10c代	
		SE302		古墳以降	第Ⅲ②層を切る
	D地区	SB302	土師器・須恵器	10c	第Ⅱ①層が覆う　SX302を切る
		SB303		弥生後期末	第Ⅲ②層が覆う
		SB304	弥生土器・炭化物・焼土	弥生後期末	第Ⅲ②層が覆う 掘立302･303に切られる
		掘立301	土師器・管玉	古墳	第Ⅲ③層が覆う SB302･SK308に切られる
		掘立302		5c後半以降	SB304を切る
		掘立303	須恵器	5c後半	SB304を切る
		SD309	須恵器	7c前半	第Ⅲ②層が覆う
		SD310		10c	第Ⅶ層上面検出
		SD311	須恵器	7c前半	第Ⅲ②層が覆う
		SK302	須恵器	6c後半	第Ⅲ②層が覆う
		SK303	土師器	7c前半	第Ⅲ②層が覆う
		SK304		7c以前	SD309に切られる
		SK305	須恵器	6c後半	SD309に切られる
		SK306		6c後半	
		SK307	弥生土器	弥生後期前半	
		SK308	須恵器	6c後半	掘立301を切る
		SX301		弥生後期末以降	
		SX302	弥生土器	弥生後期	SX302に切られる　Ⅲ②層が覆う
		SX303		弥生後期末以降	SB302に切られる

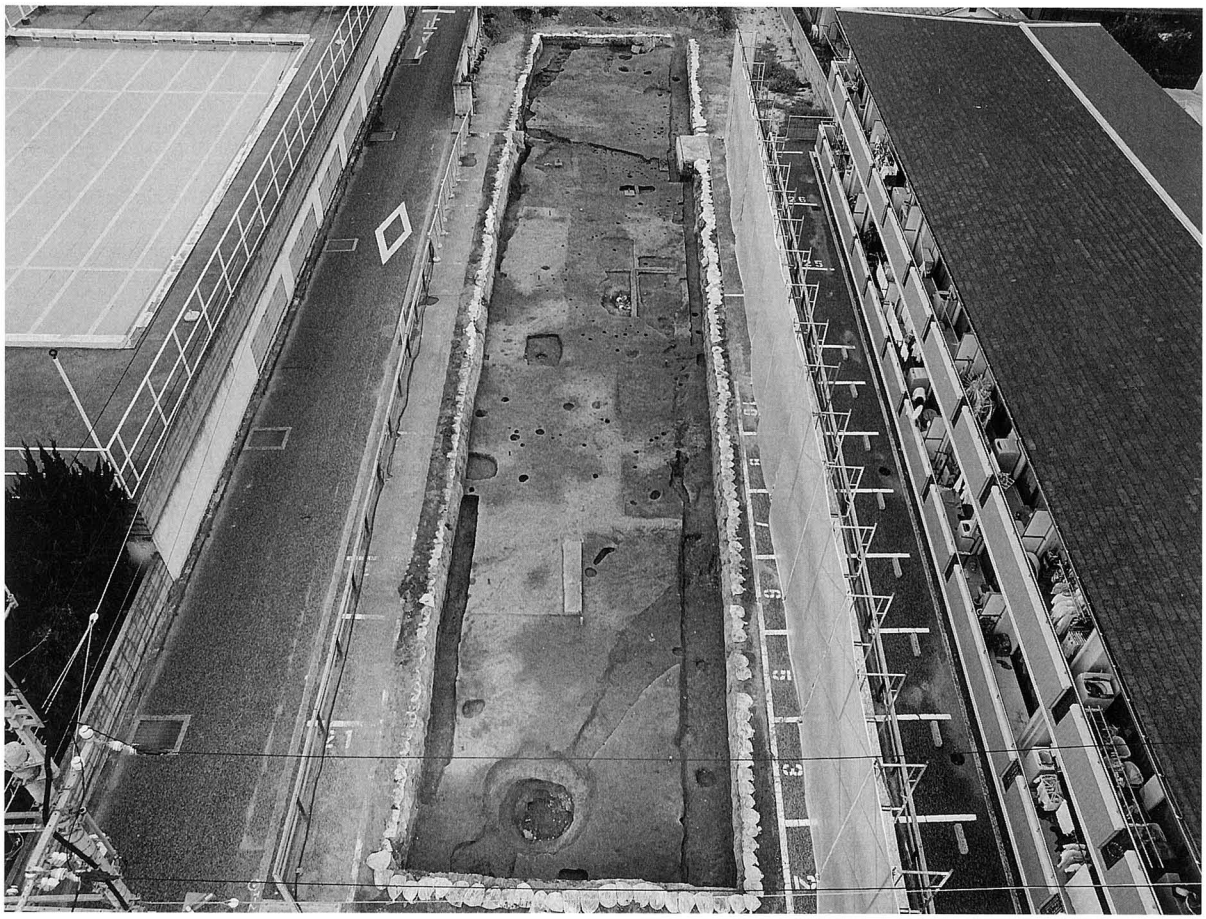


写真１　１区遺構完掘状況（東より）

写真２　１区ＳＥ102遺物出土状況（南より）

写真３　２Ｃ地区　遺構完掘状況（西より）

写真４　２Ｄ地区　ＳＢ201遺物出土状況（北東より）

写真５　３Ｄ地区　西半部遺構完掘状況（東より）

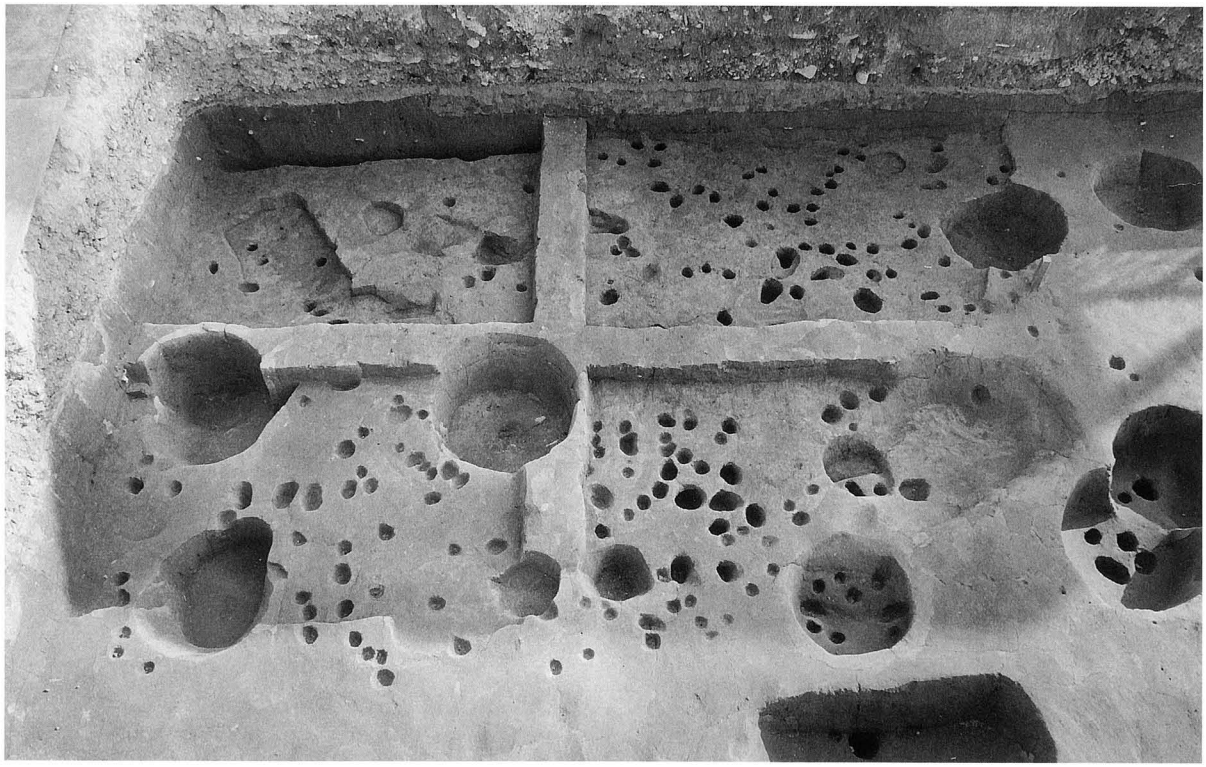


写真６　３Ｄ地区　ＳＢ304完掘状況（北より）

潮見山古墳群－15・16・17号墳－

所在地　松山市北梅本町甲2445、2446、2447の各々一部
期　間　平成14年１月19日～同年５月11日
面　積　10,028㎡のうち530㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

図１　調査地位置図

経　過　愛媛県松山地方局の「ため池等整備事業 葉佐地区 ため池改修」に伴う発掘調査で、申請地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№105潮見山古墳群（愛宕山古墳①・山越古墳②）」内に所在します。潮見山古墳群は、葉佐池古墳の北側に位置しており、周辺の丘陵上には葉佐池古墳以外にも数多の古墳が分布することが知られています。さらに調査地周辺は、６世紀後半から８世紀後半にかけての須恵器の窯跡が集中して分布することで知られる地域でもあり、調査地の東側に広がる潮見山の麓においては、潮見山南窯址の存在が周知されています。

特に、丘陵裾部に遺存すると考えられる、古墳及び古窯址の確認を目的に試掘調査を実施した結果、古墳の主体部と思われる石組とそれに伴う古墳時代の遺物（須恵器）を確認し、本格調査を実施することになりました。

遺構・遺物　本調査において、潮見山古墳群を構成する6世紀末～7世紀前半頃の古墳を３基調査することができました。

15号墳：南東方向に開口する横穴式石室を主体部にもつ古墳で、玄室の奥壁周辺部のみ遺存していた。平面プランは胴の張った長方形状を呈すると思われ、奥壁幅約80cmを測る。玄室の床面には二重に石材が敷き詰められており、少なくとも２度の埋葬が想定できる。墳丘は、全く遺存しない。

16号墳：横穴式石室を内部主体に持つ古墳で、玄室部左側壁のみ遺存する。石室は南～南南東に開口すると考えられ、調査区壁面の土層観察によって、墳丘及び周溝の一部が確認されている。

17号墳：調査区内において、墳丘及び周溝の一部を確認したが、主体部の確認には至らなかった。壁面の土層観察の結果、16号墳が築造される以前に造られたことが判明している。

小　結　今回の調査によって、古墳時代後期～終末期に属すると考えられる古墳を３基検出し、古墳の埋葬施設として２基の横穴式石室を検出することができました。当地域には、６世紀中頃の前方後円墳として全国的にも知られる葉佐池古墳が存在しますが、前後の動態については不明なことばかりでした。今回その至近において、やや時期を隔ててはいるものの、葉佐池古墳に後続する時期の古墳群の実体が判明したことはとても重要です。今後は、潮見山古墳群とほぼ同時期に操業していたと考えられる須恵器の古窯址との関係を探らなければなりません。（吉岡）

写真１　調査地全景（北より）

写真２　15号墳主体部（東より）

久米才歩行遺跡７次調査地

所在地　松山市南久米町486－１
期　間　平成13年６月18日～同年９月14日
面　積　710.97㎡
担　当　水本完児・梅木 謙一

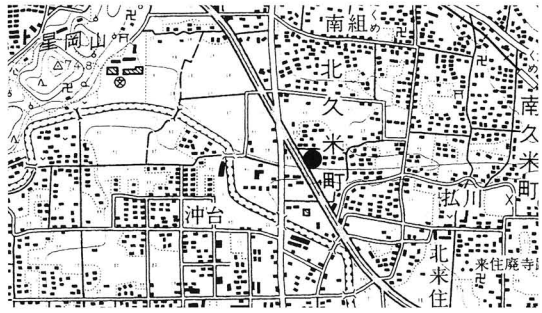


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№126　久米高畑遺物包含地』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の南東部、標高33.6ｍに立地する。

久米才歩行遺跡では、これまで６度にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から中世までの竪穴式住居址、掘立柱建物跡、土坑、溝、自然流路、柵列が確認されている。

遺構・遺物　調査地の基本層位は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層褐色土（水田床土）、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層暗褐色土、第Ⅴ層黄色土である。遺構には弥生時代から中世までのものがあり、第Ⅴ層上面では竪穴式住居址１棟、掘立柱建物跡２棟、溝３条、土坑20基、柱穴295基を検出した。遺物には、縄文時代から中世までの土器や石器がある。以下、主要なものを記す。

弥生時代：竪穴式住居址１棟、土坑10基を検出した。竪穴式住居址ＳＢ２は、平面形態が隅丸方形を呈し、規模は東西検出長3.3ｍ、南北検出長2.2ｍ、壁高は24㎝を測る。遺物は弥生土器と縄文土器１点とが出土した。時期は、出土遺物から弥生時代前期末とする。

古墳時代：掘立柱建物跡１棟、土坑19基を検出した。２号掘立柱建物跡は、２×２間の建物跡で、東西3.8ｍ、南北3.2ｍを測る。平均柱間は東西1.9ｍ、南北1.6ｍである。柱穴の平面形態は円形または楕円形を呈し、径25～77㎝、深さ５～26㎝を測る。柱痕は４基の柱穴で検出され、径10～20㎝、深さ18～25㎝を測る。遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土した。時期は、出土遺物から６世紀前半とする。

古　　代：掘立柱建物跡１棟、溝２条、土坑１基を検出した。1号掘立柱建物跡は、規模は３×３間の建物跡で、南北5.4ｍ、東西4.8ｍ、平均柱間1.7ｍ、柱穴の平面形態は方形を呈し、径67～92㎝、深さ15～38㎝を測る。柱痕は４基の柱穴で検出され、径17㎝、深さ30㎝を測る。遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器のほか、管玉が１点出土した。時期は、出土遺物から７世紀とする。

中　　世：溝１条を検出した。溝ＳＤ３は、規模は南北検出長6.9ｍ、幅1.5ｍ、深さ58㎝を測る。遺物は備前焼きの摺り鉢、瓦、土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土した。時期は、出土遺物から15世紀とする。

小　結　今回の調査では、弥生時代から中世までの遺構と、縄文時代から中世の遺物を確認することができた。久米才歩行地域では、弥生時代前期末から中世の集落範囲がどのように広がり、確定できるかが今後の課題である。（水本）

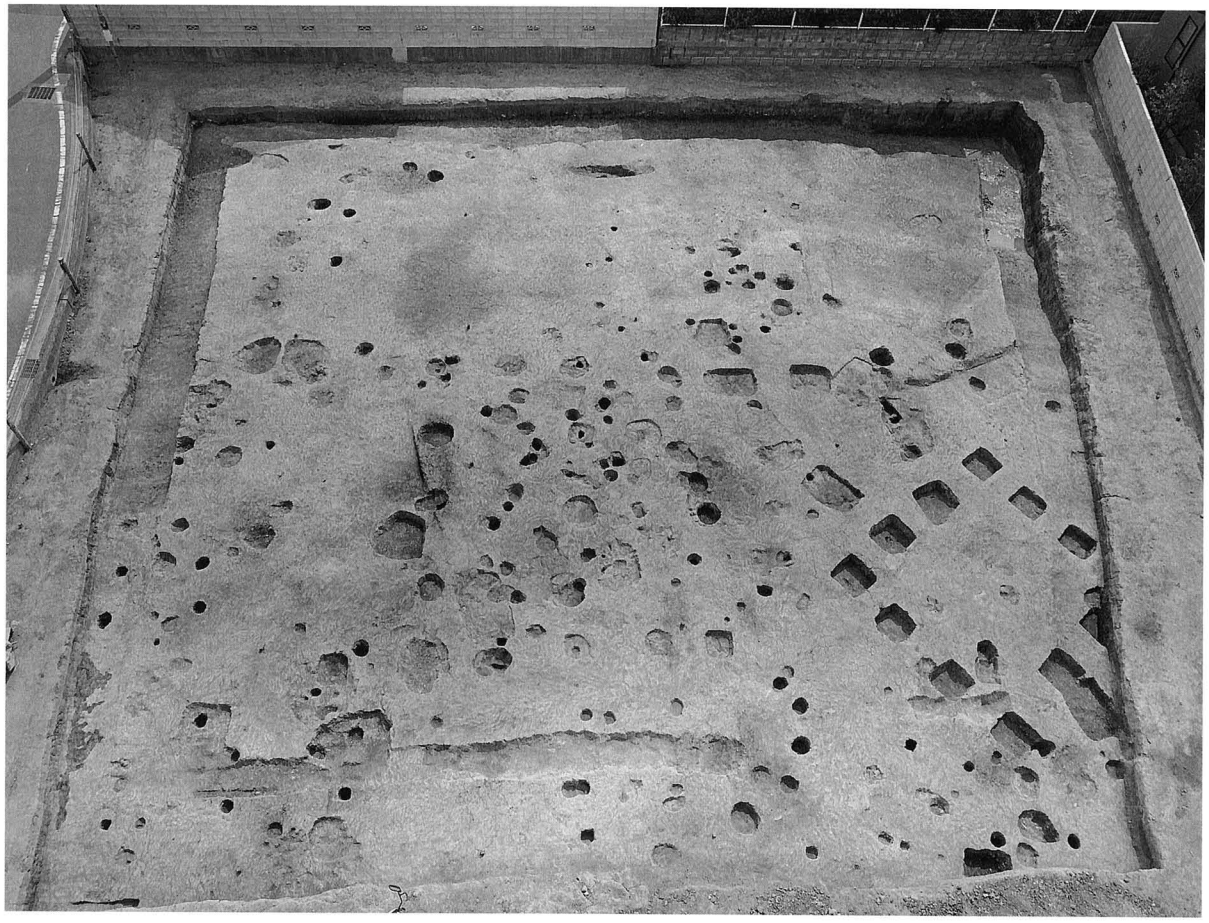


写真１　遺構完掘状況（西より）

写真２　掘立１完掘状況（北西より）

南久米町遺跡４次調査地

所在地　松山市南久米町420番１、422番地
期　間　平成13年９月17日～同年10月16日
面　積　590.37㎡のうち244.14㎡
担　当　河野史知・加島次郎

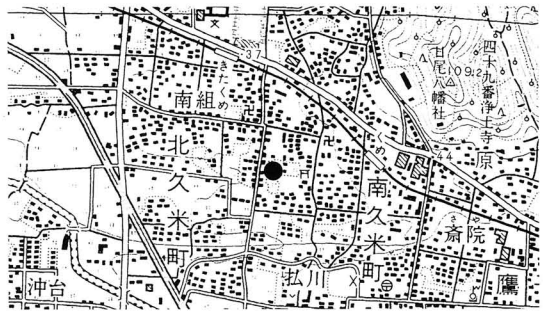


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№126　高畑遺物包含地』内における宅地造成工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は、重信川中流域右岸の小野扇状地と石手川扇状地との間に形成された洪積台地上、標高34ｍに立地する。調査地の東約100ｍには南久米町遺跡２・３次調査地があり、古代から中世にかけての溝や土坑などが検出されている。また、南隣の南久米町遺跡では、規則性をもつ掘立柱建物群から墨書土器「時」が出土し、来住台地に広がる古代官衙の中心が堀越川の北岸地域に移動すると考えられている。これらのことから、古代から中世にかけての集落の広がりや、構造解明を主目的として調査を実施した。

遺構・遺物　調査前は耕作地である。基本層序は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層古代の遺物包含層、第Ⅳ層黒色粘質土、第Ⅴ層明黄色土である。遺構は第Ⅴ層上面にて検出した。調査区中央部の自然の浅い凹みに第Ⅳ層が堆積し、この層は無遺物層で粘性が強く、アカホヤ火山灰の可能性をもつ。

検出遺構は、古代～近世までのもので古代の溝３条、中世の掘立柱建物跡１棟、柱穴20基、近世の溝10条、土坑１基、近世～近現代にかけての鋤跡７条、時代不詳の倒木痕１基を検出した。

［古代］ＳＤ３は南北に延びる溝であるが、南久米町遺跡で検出された掘立柱建物群とほぼ同じ軸方向や埋土などから、関連する施設の可能性をもつ。ＳＤ10は溝を構築した後に造成されており、溝の構築時期を特定する遺物の出土はないが、溝の形態や埋土などから南久米町遺跡２次調査地のＳＤ１が本調査地まで延びていると推測され、その両端を合わせると長さ80ｍを測り、さらに両端は東西にほぼ直線的に延びる様相を示している。そして、２次調査地ＳＤ１と同様にＳＤ10の北側も、北へ向けて傾斜を示し、北側にもう１条溝が並行することも考えられる。

［中世］掘立柱建物跡は１間×１間の小型のもので、倉庫的な施設と考えられる。

［近世］ＳＤ６周辺の第Ⅴ層は良質の粘土層となっている。ＳＤ６は、その粘土層を抜く様に垂直に掘り込まれている形状から、粘土の採掘坑の可能性が強い。ＳＤ１と９、ＳＤ５と８は、同軸上にあり断面形状や埋土などから、それぞれ同一の溝が延びているものと判断する。これらの溝はすぐ横に並んでおり、区画性をもつ溝として造り替えられたことも考えられる。

［近世～近現代］鋤跡は、南北方向にあり、出土遺物や埋土などから近世～近現代にかけてのものである。このことから、当地では近世から農耕が行われていたことが判った。

小　結　今回の調査では、古代から近世までの溝や掘立柱建物跡などを検出したが、今後の周辺調査では、南久米町遺跡の古代の掘立柱建物群と今回検出した同軸の溝や、２次調査地から本調査地まで延びる溝の規模や性格、この溝の北側の様相を解明していく必要がある。（河野）

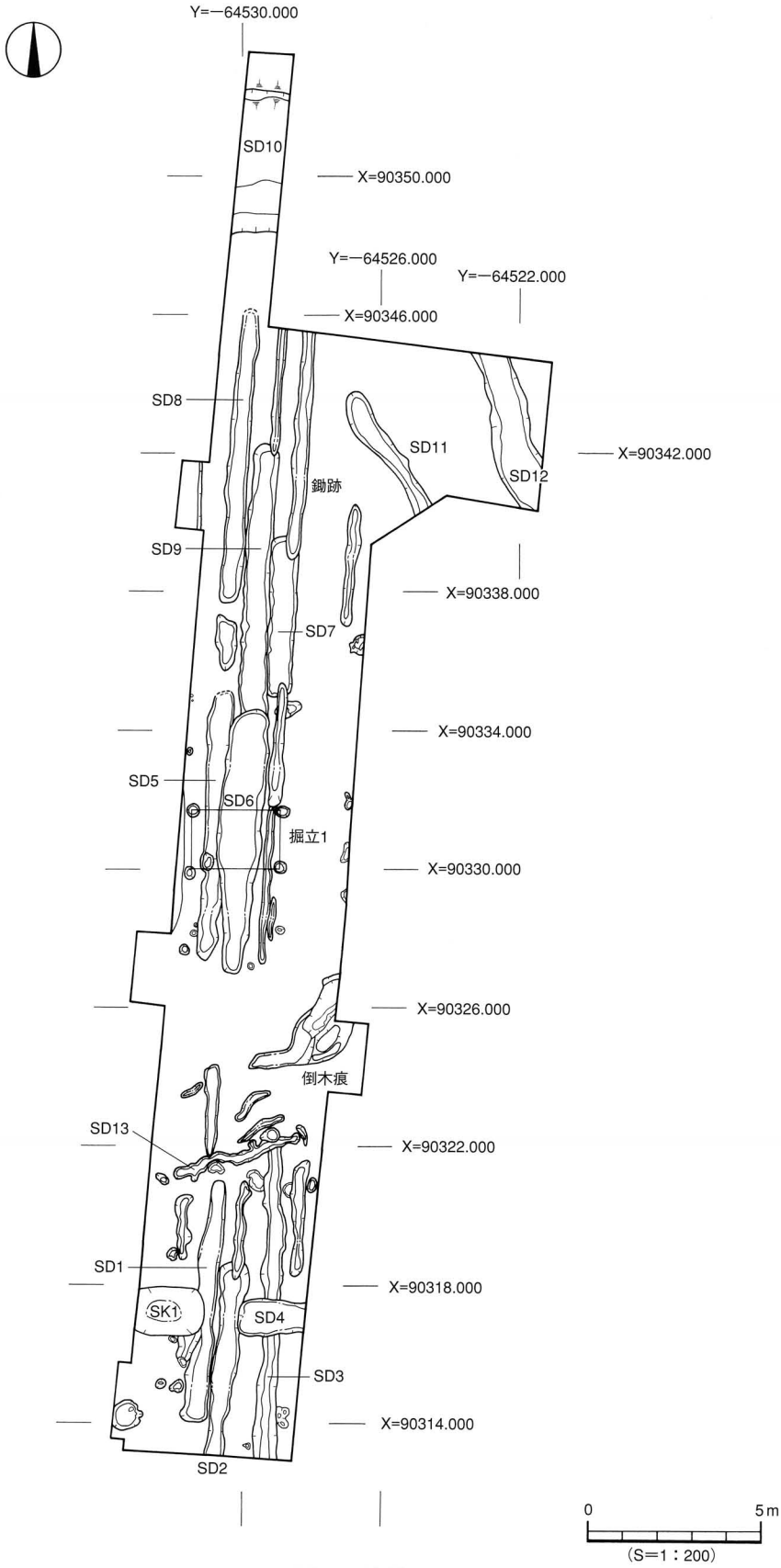
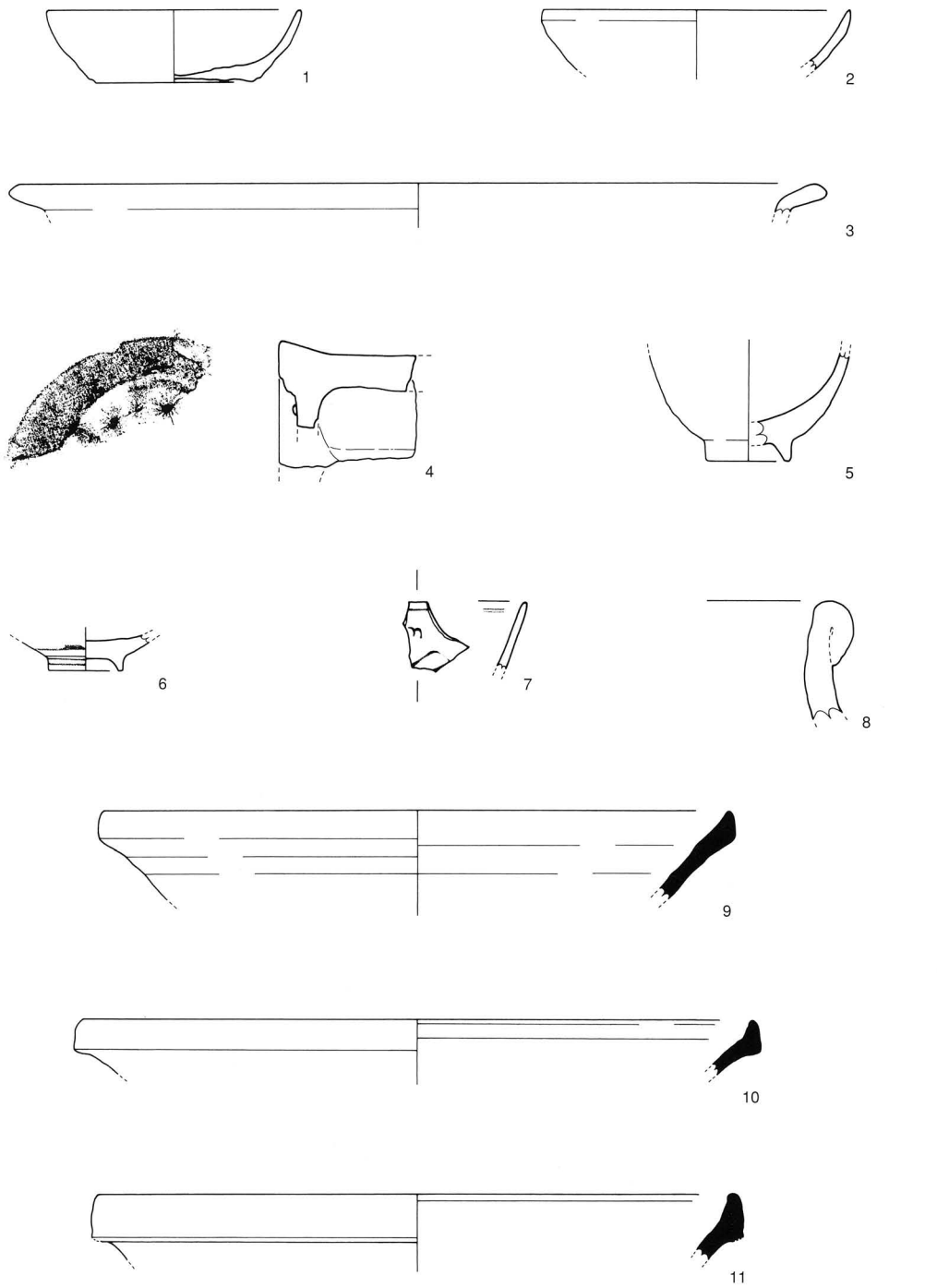

Y=−64530.000
SD10
X=90350.000
Y=−64526.000
Y=−64522.000
X=90346.000
SD8
SD11
X=90342.000
SD12
鋤跡
SD9
X=90338.000
SD7
X=90334.000
SD5
SD6
掘立1
X=90330.000
X=90326.000
倒木痕
SD13
X=90322.000
SD1
X=90318.000
SK1
SD4
SD3
X=90314.000
SD2
0
5m
(S=1：200)

図２　遺構配置図



1・2　堀立1
3　SD5
4　SD6
5　SP1
6　SD11
7～11　第Ⅲ層

0　10cm
(S=1：3)

図３　出土遺物実測図

写真１　調査地全景（北より）

写真２　ＳＤ10完掘状況（西より）

南久米（みなみくめ）河川水路改良工事に伴う立会調査

所在地　松山市南久米町753番地外
期　間　平成13年３月31日～同年５月31日
面　積　370㎡
担　当　相原浩二・髙尾和長・山之内志郎

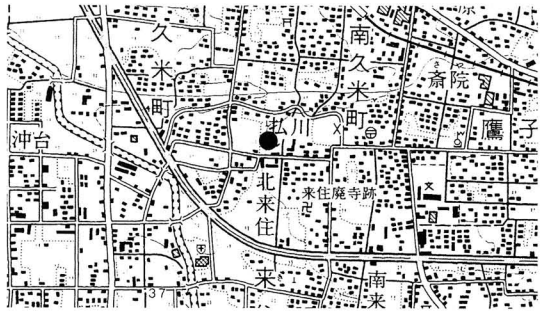


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№127　来住廃寺跡』内における、河川水路改良工事に伴う立会調査である。申請地の南側には、国指定史跡の来住廃寺跡や方一町規模の二重柵列である「回廊状遺構」があり、西側には官衙に関連する遺構が多数検出されている。また、東側には弥生時代の大溝や土坑など集落に関連する遺構が多数検出されている。このことから、埋蔵文化財の有無と遺跡の範囲を確認する目的で調査を行った。

調査は、工事によって掘削される幅1.60m、深さ1.10m、長さ約186mの間を工事工程にあわせて10回に分けて行い、トレンチ番号を掘削順にＴ１からＴ10まで付した。申請地は、既設の排水路等により地下深くまで掘削が行われ、遺構確認面である地山の大半が削られていた。

遺構・遺物　調査地の基本層位は第Ⅰ層造成土（アスファルト、真砂土、砂利、青砂）、第Ⅱ層青灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ層茶褐色土、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層明茶褐色土（弥生時代の遺物包含層）、第Ⅵ層黒色土、第Ⅶ層黄色土（地山）である。第Ⅴ層は、現代坑等により削平され大部分が失われているがＴ１からＴ７までには部分的に遺存している。Ｔ８からＴ10までは、第Ⅴ層を検出しなかった。第Ⅵ層は、Ｔ10東側で検出したが出土遺物はない。

調査では、弥生時代と古墳時代以降の遺構や遺物を確認した。検出した遺構は土坑（ＳＫ）８基、柱穴（ＳＰ）24基、溝（ＳＤ）１条である。

弥生時代の遺構にはＳＫ３・５・６・７、ＳＰ１・４・５・10・11、ＳＤ１がある。これら遺構の時期は、出土遺物より弥生時代前期末～中期初頭に比定される。検出した土坑は、全容が判るものはないが周辺の調査において円形や方形の土坑が多数検出されていることから、これら一連のものと考えられる。Ｔ10で検出したＳＤ１は、久米高畑遺跡28・29次調査地で確認された弥生時代前期末の環濠と考えられるＳＤ006の一部である。ＳＤ１の検出規模は長さ1.65m、幅3.10m、深さ0.55mを測る。遺物は壺の口縁部や底部片が数点出土した。その他の出土遺物としてはＴ３より土錘、石器未製品、Ｔ４からは石庖丁と石錘が出土している。

古墳時代以降の遺構には、ＳＰ１・４・５がある。これらの遺構は、出土遺物が小片のため明確な時期比定ができないが須恵器片が出土していることより古墳時代以降とした。他の遺構については、出土遺物がなく時期不明である。

小　結　本調査では、弥生時代前期末～中期初頭と古墳時代以降の遺構と遺物を確認した。この成果は、調査の進む久米高畑遺跡群内における一部の様相を知るうえで貴重な資料となるものである。

（相原）

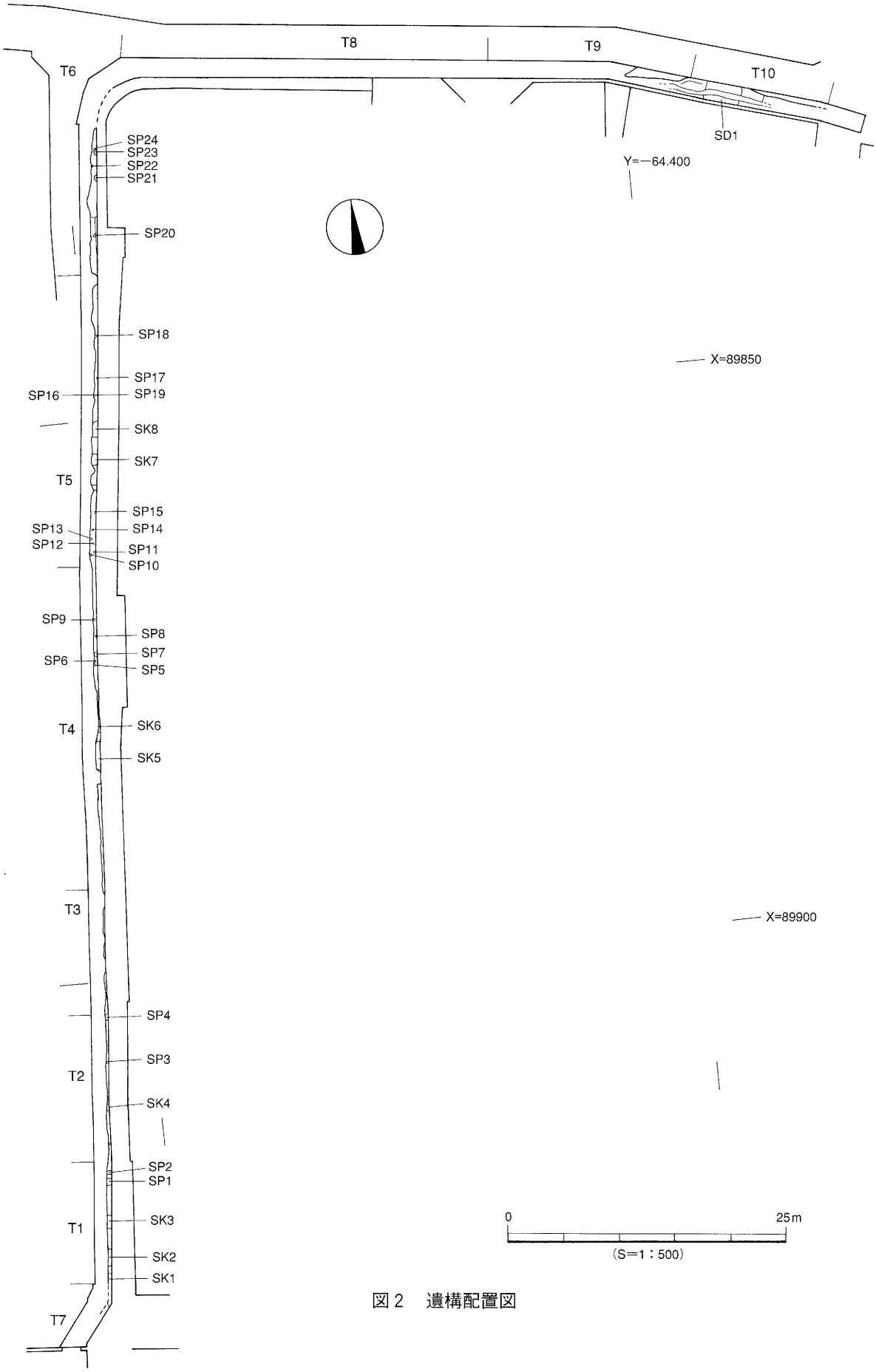
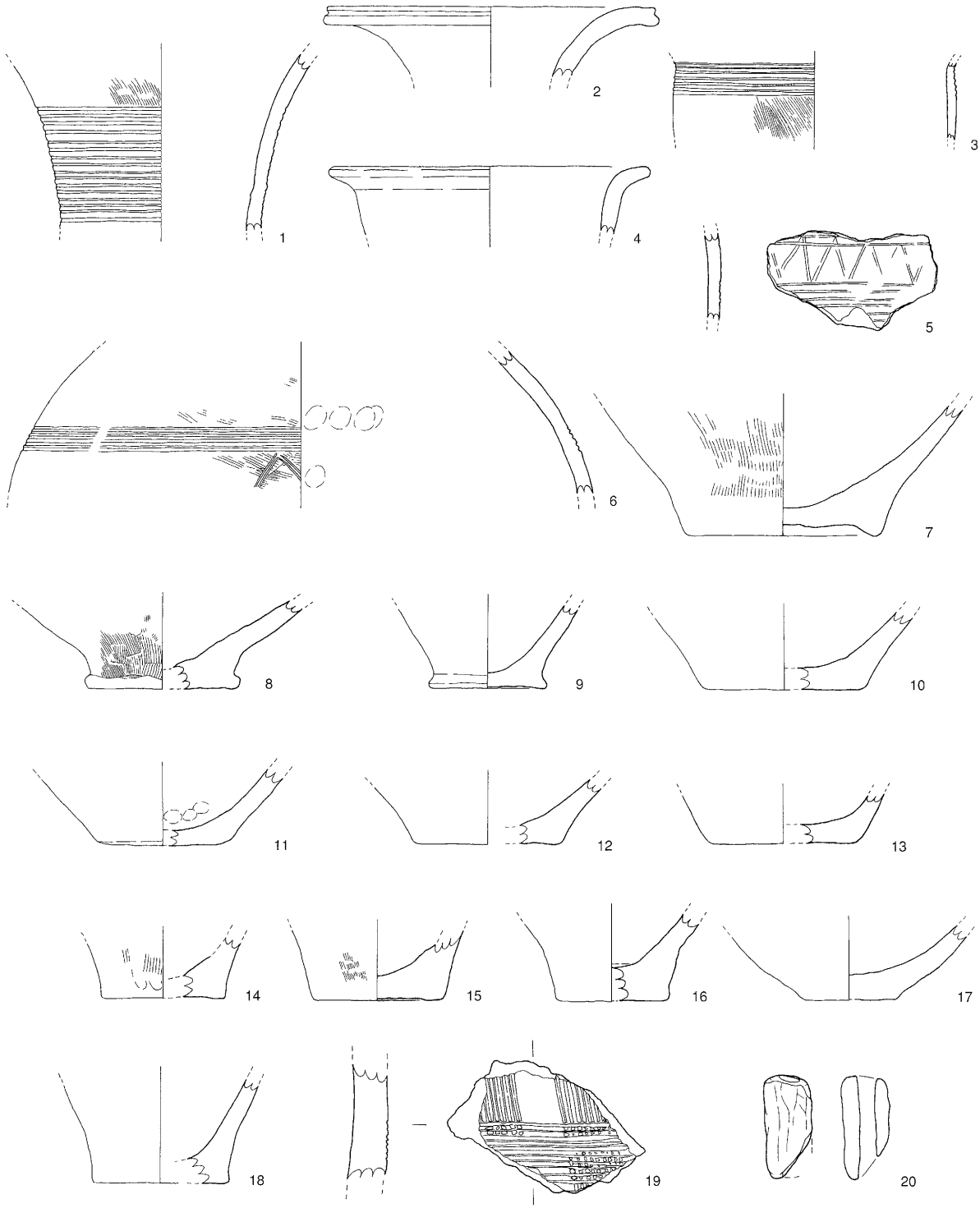

T8
T9
T10
T6
SD1
Y=−64.400
SP24
SP23
SP22
SP21
SP20
SP18
X=89850
SP17
SP16
SP19
SK8
SK7
T5
SP15
SP13
SP14
SP12
SP11
SP10
SP9
SP8
SP7
SP6
SP5
T4
SK6
SK5
T3
X=89900
SP4
SP3
T2
SK4
SP2
SP1
T1
SK3
SK2
SK1
T7
0
25m
(S=1：500)

図２　遺構配置図



SK5　出土遺物 1、2、6、7、8、9
SK7　出土遺物 10
SP10 出土遺物 5
SP11 出土遺物 16
SD1　出土遺物 3、4、11、12、13、14、15
T3　出土遺物 17、18、19、20

0　10　20cm
(S=1：4)

図3　出土遺物実測図（1）

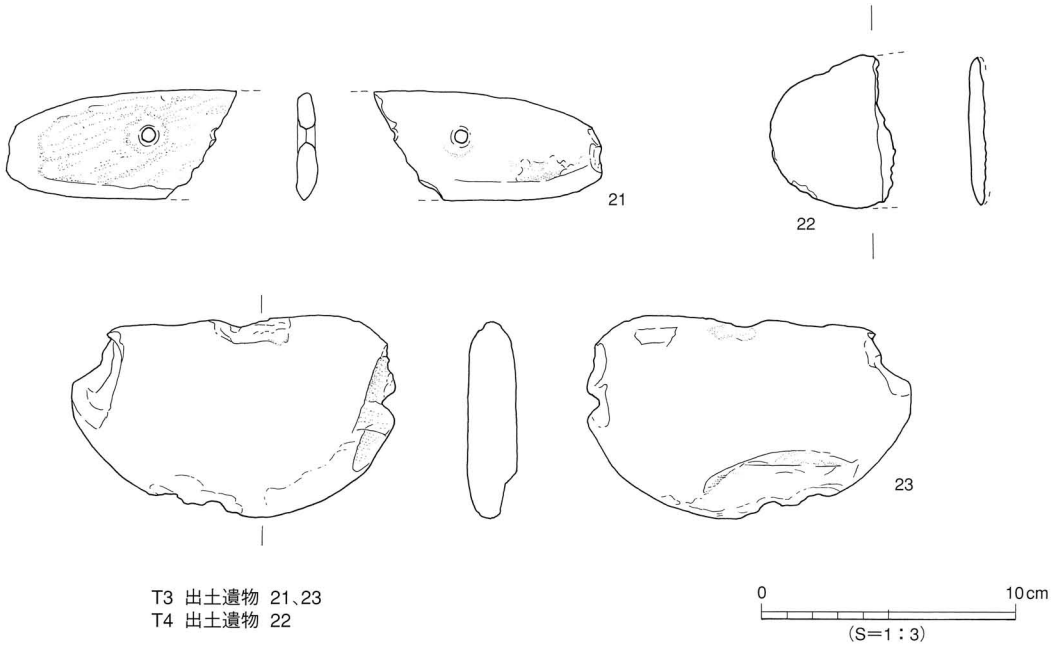


図４　出土遺物実測図（2）

写真１　Ｔ６完掘状況（北より）

来住町遺跡12次調査地

調 査 地　松山市来住町240-1他
調査面積　1,430.56㎡のうち387㎡
調査期間　平成13年４月９日～同年５月25日
調査担当　髙尾和長・梅木謙一

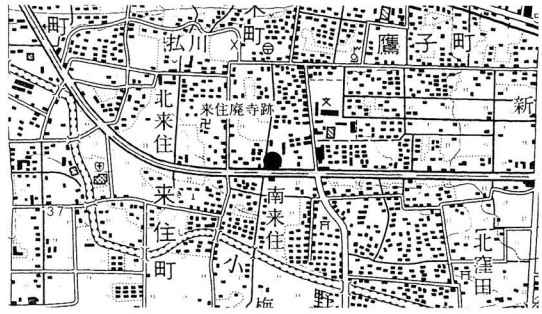


図１　調査地位置図

経　過　本調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№127　来住廃寺跡』内にあり、周知の包蔵地として知られている。申請地周辺にはこれまでに数多くの調査が行われ、弥生時代～古代の集落関連遺構が確認され松山平野の主要な遺跡地帯として知られている。

調査は、弥生時代～古代の集落構造の解明と範囲確認を主目的として実施した。なお、調査区はＡ区（浄化槽）、Ｂ区（立体駐車場）に分け調査を実施した。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層灰色土（耕作土）、第Ⅲ層黄灰色土（床土）、第Ⅳ層暗褐色土、第Ⅴ層黄色シルト（地山）、第Ⅵ層黄色粘土、第Ⅶ層青灰色粘土である。調査区内は建物の建設により大部分がカクランを受けており、堆積状況が確認できたのは西壁と北壁の一部だけである。

検出した遺構は、竪穴式住居址１棟（ＳＢ１）、掘立柱建物跡３棟（掘立１～３）、土坑１基（ＳＫ１）、溝１条（ＳＤ１）、性格不明遺構４基、柱穴54基である。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器がある。

ＳＢ１はＡ調査区の中央に位置する。平面形態は２カ所のコーナー部を検出したため方形と考えられる。規模は東西5.50ｍ、南北検出長0.75ｍ、深さ10㎝を測る。埋土は黄色土に暗褐色土が混じり、住居の張り床部のように堅く締まっている。出土遺物は、土師器の小片と砥石１点がある。

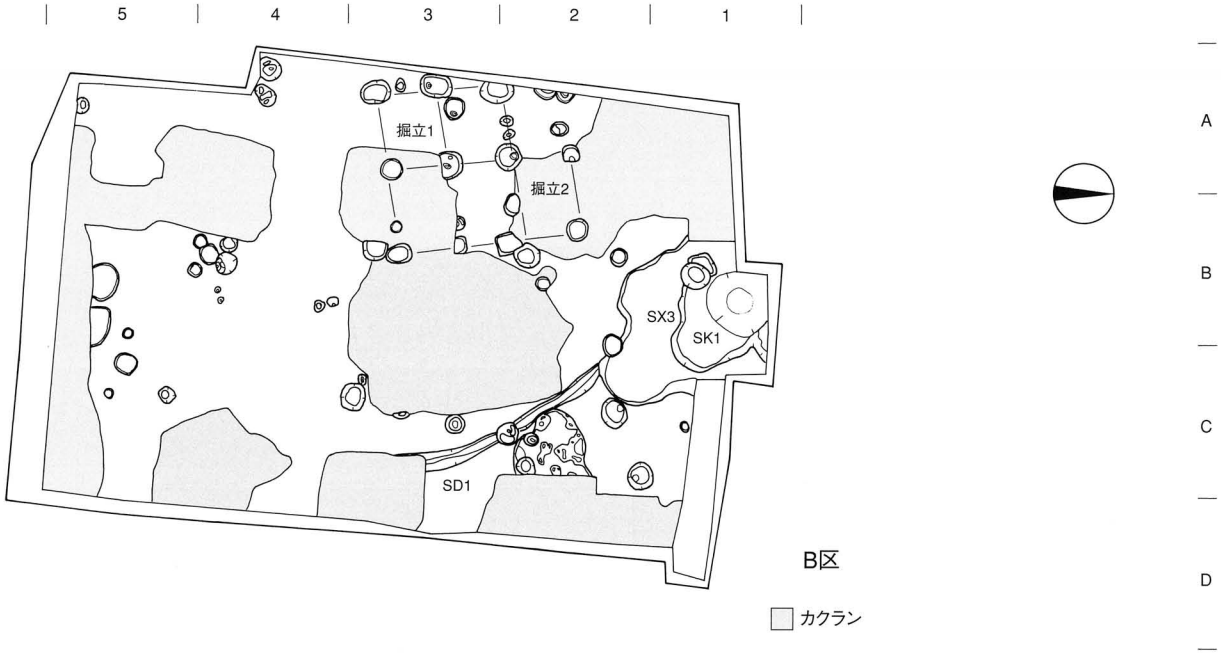
掘立１・２は、Ｂ調査区の中央西に位置し、掘立１の規模は南北２間、東西３間分を検出し南北3.00ｍ、東西4.08ｍを測る。柱穴の平面形態は円形と楕円形を呈する。規模は径60～80㎝、深さ25～40㎝を測る。掘立２の規模は東西１間、南北３間分を検出し東西1.85ｍ、南北4.80ｍを測る。柱穴の平面形態は、円形と隅丸方形を呈する。規模は径50～60㎝、深さ25～45㎝を測る。断面形態はＵ字状である。埋土は黒色土に黄色土が混じる。

小　結　今回の調査では、弥生時代の溝１条と古墳時代の竪穴式住居址１棟、掘立柱建物跡３棟、土坑１基を検出した。

調査地北側には来住町遺跡、南側には来住町遺跡10次調査地が位置し、自然流路が両調査地からは検出されている。また、来住町遺跡10次調査地からは古墳時代の竪穴式住居址と掘立柱建物跡が検出されている。今回の調査では、竪穴式住居址を検出しており、来住町遺跡10次調査地から本調査地までの間100ｍに集落が展開し、かつ集落の南北を自然流路で区画されていることが判明してきた。

今後は、調査が行われていない東側の調査が進めば集落の範囲がより明確になると考えられる。

（髙尾）


5
4
3
2
1
A
B
C
D
掘立1
掘立2
SX3
SK1
SD1
B区
カクラン

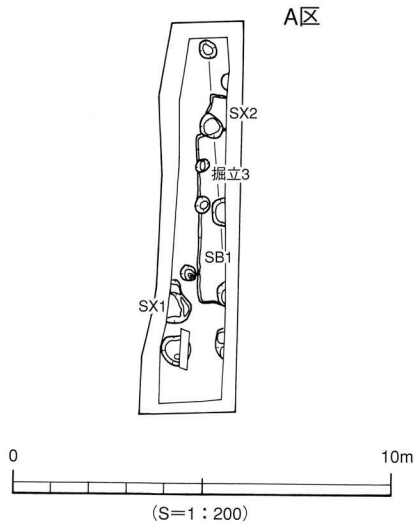

A区
SX2
掘立3
SB1
SX1
0
10m
(S=1：200)

図２　遺構配置図

写真１　Ａ区完掘状況（西より）

写真２　Ｂ区完掘状況（北より）

写真３　掘立１・２完掘状況（北西より）

来住町遺跡13次調査地

所在地　松山市来住町538－２・540・541の一部、南久米町687

期　間　平成13年10月10日～平成14年３月29日

面　積　１区：770㎡、　２区：130㎡

担　当　田城武志・政本和人

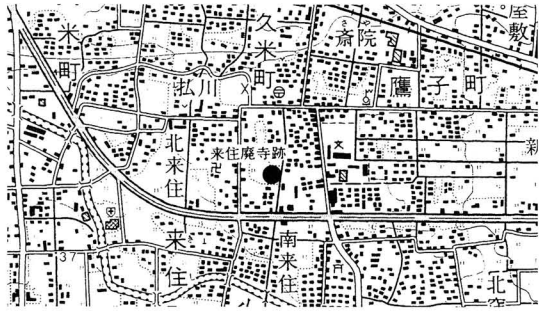


図１　調査地位置図

経　過　本調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№127来住廃寺跡」内に位置する。国指定史跡「来住廃寺」の東域に当たるが、古代寺院の遺構の広がりが見受けられないことから来住町遺跡として区別される地域である。平成12・13年度に実施した９・11次調査の成果から調査区内を南北に走る谷状の地形が想定されている。このことを踏まえ、久米官衙遺跡群の東限域、施設の配置状況の把握を目的とした国庫補助による調査を行った。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層現代の耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層褐灰色土、第Ⅳ層褐色土（遺物包含層：８世紀代の須恵器・土師器）、第Ⅴ層黒褐色土（遺物包含層：６世紀代の須恵器・土師器）、第Ⅵ層黒褐色土、第Ⅶ層暗褐色土である。Ⅵ・Ⅶ層は調査区中央部より西側にのみ検出された。

今回の調査によって検出した遺構は竪穴式住居址２基、掘立柱建物跡２棟、土坑９基、溝12条、畠遺構、柱穴28基、性格不明遺構1基で、弥生時代～中世にかけてのものである。以下、古墳時代と古代の主要な遺構について述べる。

[古墳時代] 掘立柱建物跡1棟、溝２条、土坑６基が検出された。掘立１は梁行方向をＮ１°Ｗにとる梁行2間（3.80m）、桁行4間（5.50m）の東西棟の建物である。柱間は梁行が平均1.90m、桁行が平均1.38mを測る。6世紀末～7世紀初頭に比定される須恵器杯蓋の口縁部が柱穴埋土から出土している。

[古代] 畠遺構と溝4条が検出された。畠遺構の畝列を確認できた面積は約62㎡である。畝列の幅は20～50cmと不均等ではあるが、列状に確認されるため農耕具の幅に基づく痕跡を示していると想定できる。これらの畝列は、８世紀末に掘られたＳＤ３・ＳＤ６に切られ一部消滅している。このことから８世紀末以前の耕作地であったと見られ、調査区中央部を南北に走る谷状地形に自然堆積した第Ⅴ層を耕作土として営まれていたと考えられる。遺構からの出土土器が小片のため存続時期は確定できない。

小　結　来住台地の東域において、平成11年度から３ヶ年にわたり久米官衙遺跡群との関わりを探る目的で調査を行った。その結果、９次調査では時期決定の可能な遺物は見られないものの、周辺の出土遺物により6世紀末～7世紀初頭と推測される鍛冶炉を検出した。その後８世紀代には耕地が営まれたものと考えられる。また同時期に併存していた久米官衙遺跡群の主要施設はこの谷状地形上の位置では配置されていないことが明らかとなった。これまでの調査で鍛冶炉や畠遺構等の貴重な生産遺構が検出されたことにより、時代的な変遷を伴いながら官衙遺跡群周辺の生産地域として活用されたことをうかがい知ることができた。（政本）

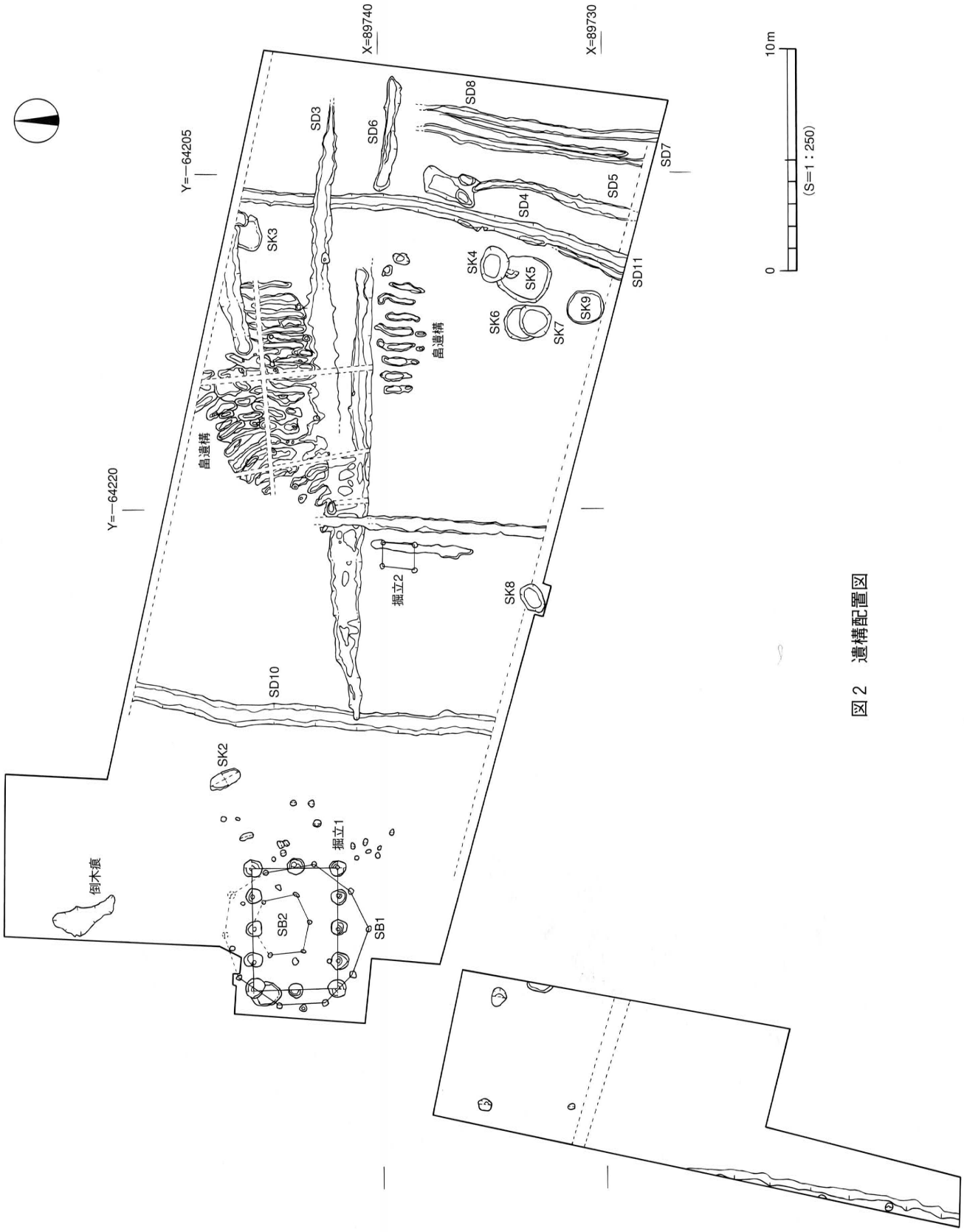

X=89740
X=89730
Y=−64205
Y=−64220
SD3
SD6
SD8
SD7
SD5
SD4
SD11
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK9
SK8
SK2
SD10
畠遺構
畠遺構
掘立2
掘立1
倒木痕
SB2
SB1
0
10m
(S=1：250)

図２　遺構配置図

写真１　畠遺構検出状況（南より）

写真２　調査地全景（南東より）

写真３　北壁断面畝部分（南より）

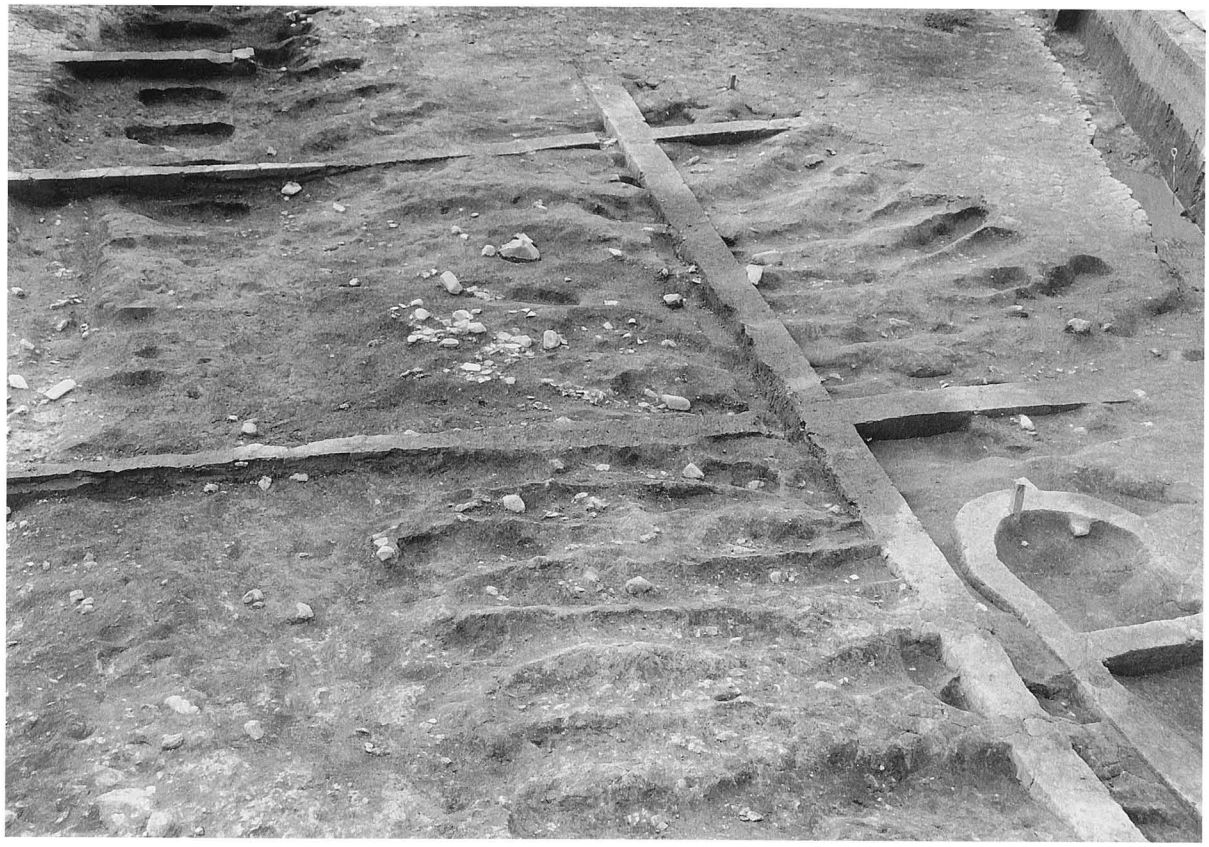


写真４　畝検出状況（東より）

久米高畑遺跡51次調査地

所在地　松山市南久米町774番地１
期　間　平成13年４月９日～10月13日
面　積　約970m²
担　当　橋本雄一・小玉亜紀子

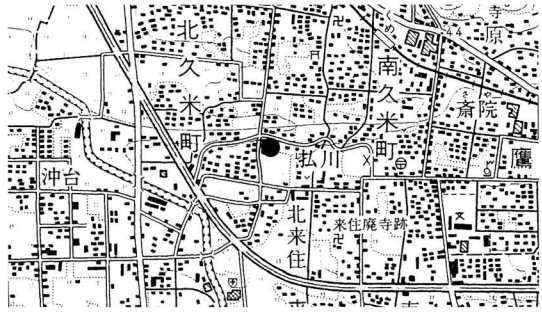


図１　調査地位置図

経　過　1987年に１次調査が行なわれた地点の西隣りの果樹園において、学術目的の国庫補助による調査を実施した。１次調査時の所見から、当該地には長大な建物によって敷地の外郭を囲われた政庁が存在するものと想定されてきた。今次の調査は、この施設の内容の把握を行なうことに加えて、久米官衙遺跡群の政庁に該当するか否かの判断がなされるものと期待された。

遺構・遺物　大型の掘立柱建物３棟と柱列１条で構成される施設（Ⅰ期）を検出した。この施設は、建物の配置状況から、久米官衙遺跡群の政庁であると考えられる。中心となる建物は、調査地北部の掘立001である。この建物の北東角からは、建物北壁の延長方向に向かって一本柱列ＳＡ001が延びる。建物と一体化した板塀が、施設の外郭を構成する「長舎囲い」と呼ばれる構造を示すものと理解している。同様の状況は、東隣りの１次調査地においても確認されている（年報Ⅰ，1987）。長舎囲いの構造を示すと考えられてきた１次のＳＢ４の北端とほぼ直交する位置に、掘立001の北辺とＳＡ001が位置することから、これらの施設によって政庁の外郭が形成されていたものと考えられる。

政庁の外郭を構成するこれらの施設の内側に、掘立002と掘立003が直交する位置関係で建てられているが、これについては、二通りの解釈を行なっている。第一には、掘立002を掘立001の前殿、003を脇殿と考える場合、二つ目は、掘立002は001とは別の段階の正殿であると想定する考え方である。掘立002と003の間を閉塞する柱列が存在しないことは、これら２棟によって独立した政庁を形成したと考える際には不都合である。一方、掘立001の方位（Ｎ－92°－Ｗ）と、掘立002・003の方位（ほぼ真北）が一致しない事実は、両者が別々の段階の施設であった可能性を示すものかもしれない。

さらに、政庁よりも後出する官衙関連遺構として、大型の掘立柱建物３棟と柱列５条、柱列に付随する門などから構成される施設を検出した（Ⅱ期）。隣接の１次調査地北部の掘立柱建物ＳＢ－２と３などもこの段階に属する可能性が高い。

Ⅱ期の施設の北限はＳＡ002、南限はＳＡ003とその建て替えの柱列によって区画されている。柱列の柱穴よりも大きな柱穴２基によって構成される門は、建て替え後のＳＡに取り付くものと想定している。この敷地の中に建つ建物のうち、掘立005は桁行７間（14.32m）×梁行３間以上（２間で3.4m）の南北棟で、柱根の痕跡が明瞭に認められた。一方、掘立006と007の２棟は、平行の位置関係にある東西棟である。ＳＡ004と005については、これら２棟の掘立の西壁に連結する板塀であると想定している。掘立007の南西角から掘立006を経てＳＡ004の北端までの距離は約28mを測る。方位は掘立005とほぼ共通している。問題は、掘立006と掘立007のグループが、南北の柱列に区切られた敷地内において、掘立005と同時併存するのか否かという点である。掘立007と南面の柱列との距離が約

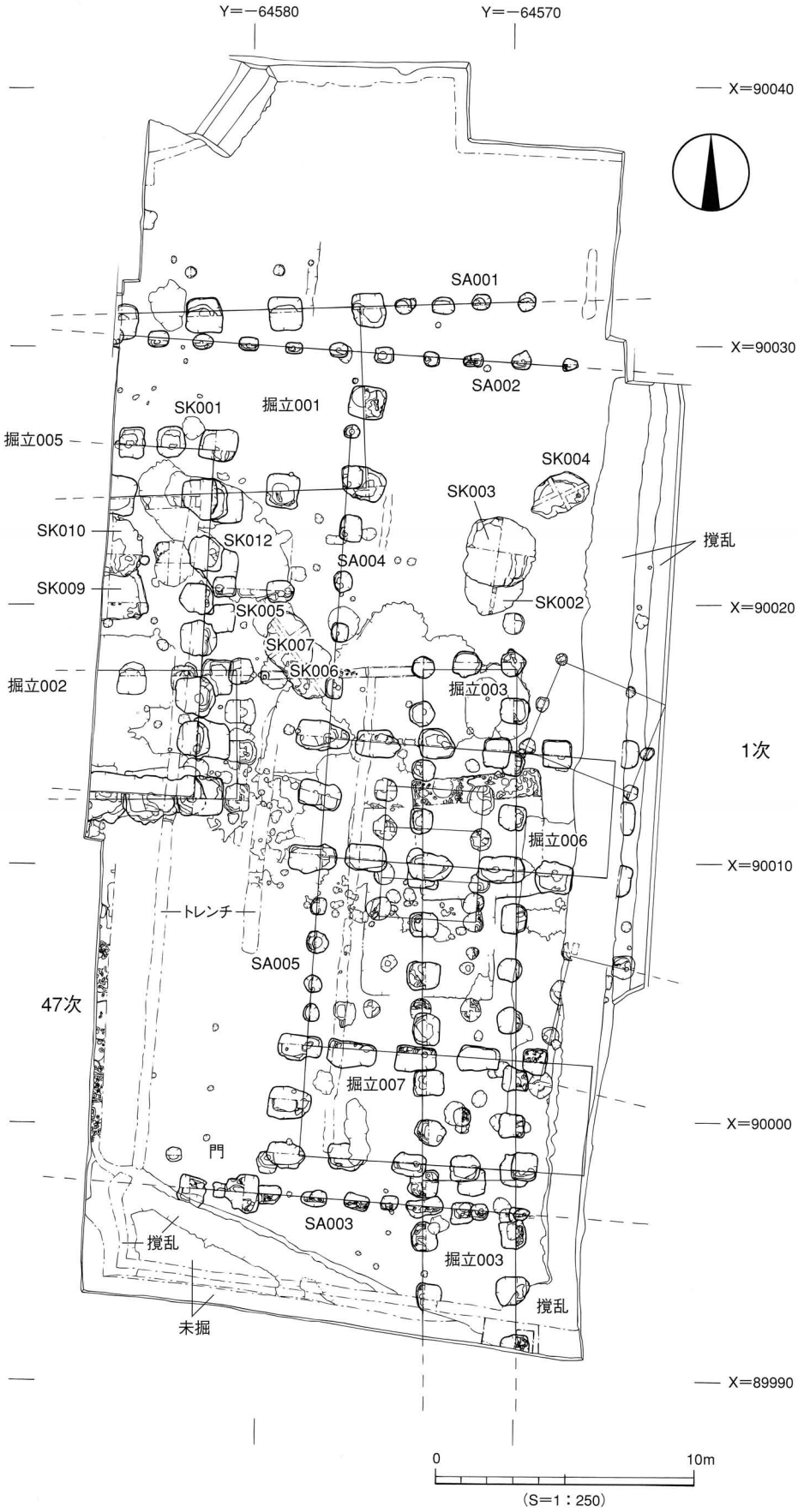

Y=−64580
Y=−64570
X=90040
X=90030
X=90020
X=90010
X=90000
X=89990
SA001
SA002
SK001
掘立001
掘立005
SK004
SK003
SK010
SK012
SA004
SK009
SK005
SK002
SK007
SK006
掘立002
掘立003
撹乱
1次
掘立006
トレンチ
SA005
47次
掘立007
門
SA003
撹乱
掘立003
撹乱
未掘
0
10m
(S=1：250)

図２　遺構配置図

1.6mと近過ぎることから、すべての施設の同時併存を想定することは難しく、Ⅱ期についても小段階に区分することが妥当かもしれない。

Ⅱ期の施設については、建物の配置状況等から政庁には該当しないと考えられる。Ⅱ期に至って政庁は他の場所に移転した可能性が高い。移転先としては、調査地のすぐ南の水田域が有力な候補地である。この場所は、西に隣接する正倉院の東濠通用口に近く、さらに、過去の調査で実体が明らかにされている政庁南東官衙（年報11）の西に位置している。Ⅱ期の南限である一本柱列ＳＡ003が、政庁南東官衙北限の柱列の延長線からおよそ５ｍ平行に北へずれた場所で検出されたことから、この場所には道路が設けられ、その南にⅡ期の政庁が存在するのではないかと想定している（ｐ57）。したがって、今次の調査で確認されたⅡ期の施設は、移転後の政庁の背後施設である可能性を考えておきたい。

ところで、各段階の所属年代については、出土遺物が極めて少ないことから明確にはされていない。少量の須恵器の存在から、Ⅰ期の上限については６世紀末以降、Ⅱ期は瓦片を出土することから、７世紀後半を上限とすることがわかっている。従来からの所見を参考にすると、ここで言うⅡ期を代表する施設である回廊状遺構の区画溝の廃絶時期が、７世紀第３四半期以降であることが知られているので、ひとまず、Ⅱ期は７世紀後半以降の施設、Ⅰ期は７世紀前半から中葉のある段階には確実に存在したものと理解したい。

小　結　従来からこの遺跡群については、久米評銘刻書須恵器（年報Ⅱ）の存在から、久米評衙の施設を含むものと理解されてきた。ところが今次の調査によって、Ⅰ期の政庁の出現時期がいわゆる評制段階を遡る時期であった可能性が高まっている以上、国造やミヤケの存在も含めた広範な可能性を想定しておく必要があると考えられる。（橋本）

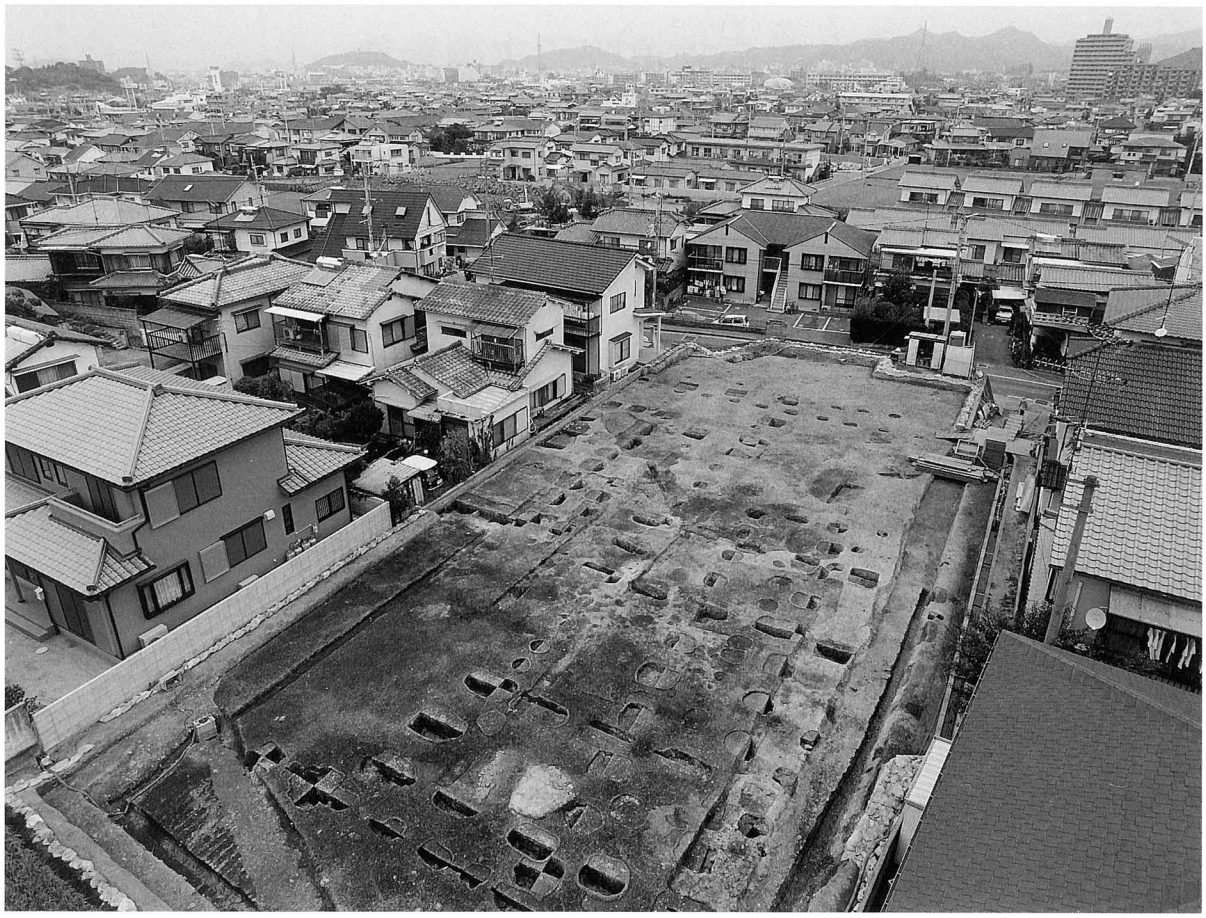


写真１　調査地遠景（南南東より）

写真２　政庁北部完掘状況（南東より）

久米高畑遺跡52次調査地

所在地　松山市来住町893番地
期　間　平成13年10月22日～14年３月31日
面　積　約999㎡
担　当　橋本雄一・小笠原彰

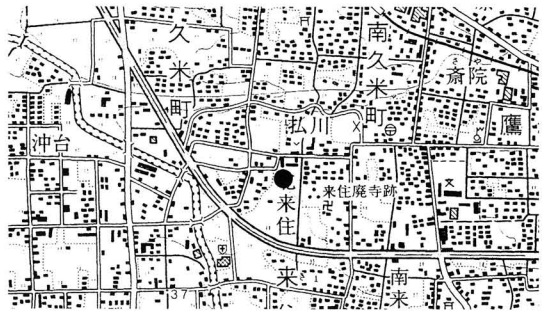


図１　調査地位置図

経　過　当遺跡群の中核施設のひとつである回廊状遺構の北西隣接地において、国から補助を受けて調査をおこなった。昨年度の49次調査によって、回廊状遺構の北に別の官衙施設（回廊北方官衙）の存在が明確にされたが、今次の調査地はこの地点のすぐ西に位置している。従来から当該地付近にも、方一町規模の役所施設の存在が想定されてきたが、今次の調査によって、この新たな官衙の具体的な内容がわかるものと期待された。

遺構・遺物　回廊北方官衙の西に位置する方一町の官衙の外周施設は、昨年度までに調査された49次・ＳＤ011（42次・ＳＤ004）が該当する。本調査地は、この溝のすぐ西に位置している。調査の結果、回廊北方官衙と同時期の施設である可能性が高い複数の遺構のほか、８世紀以降の来住廃寺段階まで年代的に下る溝２条を確認した。なお、北部において検出した掘立004から008については、いずれも官衙段階より先行する時期の建物であると考えられる。

調査成果の中で特に重要な点は、２条平行の東西溝ＳＤ001と002の検出である。ともに瓦の破片を出土することに加えて、溝の49次延長部分における遺物の様子から、８世紀代の溝であると考えられる。平均で約1.3m幅の２条の溝は、心心で５ｍほどの間隔をあけて平行の位置関係にある。底のレベルは一様ではなく、工具痕跡による凹凸も顕著に認められた。この遺跡の大多数の溝と同様、流水による土砂の堆積は認められていない。両溝ともに49次の西部に掘り込まれた土坑状の遺構を東端とする共通の特徴が認められる。この地点からは、8世紀代の須恵器や瓦片が少量出土している（年報13）。

回廊北方官衙と時期的に並行する段階の施設としては、南北に平行に掘られた溝ＳＤ003～005、掘立001と002などが該当する。ＳＤ003～005などの直線的な溝は、方一町規模の敷地の内部を区画するために掘られたものと考えられる。49次の同様の溝において確認されたように、板塀や柴垣の根元を固定するための掘り込みであると考えられるが、その痕跡を確認することはできなかった。掘立001は桁行３間×梁行２間の南北棟で、小規模な束柱の柱穴が２基確認されている。42次と49次で確認済みの５棟の建物と、規模や特徴が共通なことから、収納のための建物であろうと推定している。掘立002については、当該期特有の方形柱穴で構成されることから官衙の建物であると考えられるが、方位がずれることから掘立001とは同時期のものではないと判断している。調査地南西部の包含層が堆積した低地部において検出された掘立003は、桁行４間（7.1m）×梁行３間（6.1m）の南北棟である。梁行の中央間を広めにとる総床束柱構造のこの建物と同様の形態のものが、49次調査において確認されている。ともに方位が大幅に北からずれることなどから、官衙出現以前の建物であると考えられる。

小　結　回廊北方官衙の西に位置する方一町規模の官衙施設の内部は、少なくともその南東部に関しては、建物密度が低い状況が明らかにされた。当遺跡群は、複数の区画地から構成されているが、そのすべてにおいて高い密度で施設の配置が行なわれたのではないことが改めて明らかにされたと言えよう。なお、２条平行の溝については、８世紀代の来住廃寺と、正倉院の濠の設定が契機となって設けられた、新しい土地の区割りのための溝、もしくは道路の側溝ではないかと推測しているが、この点については後で再度検討したい（ｐ58）。（橋本）

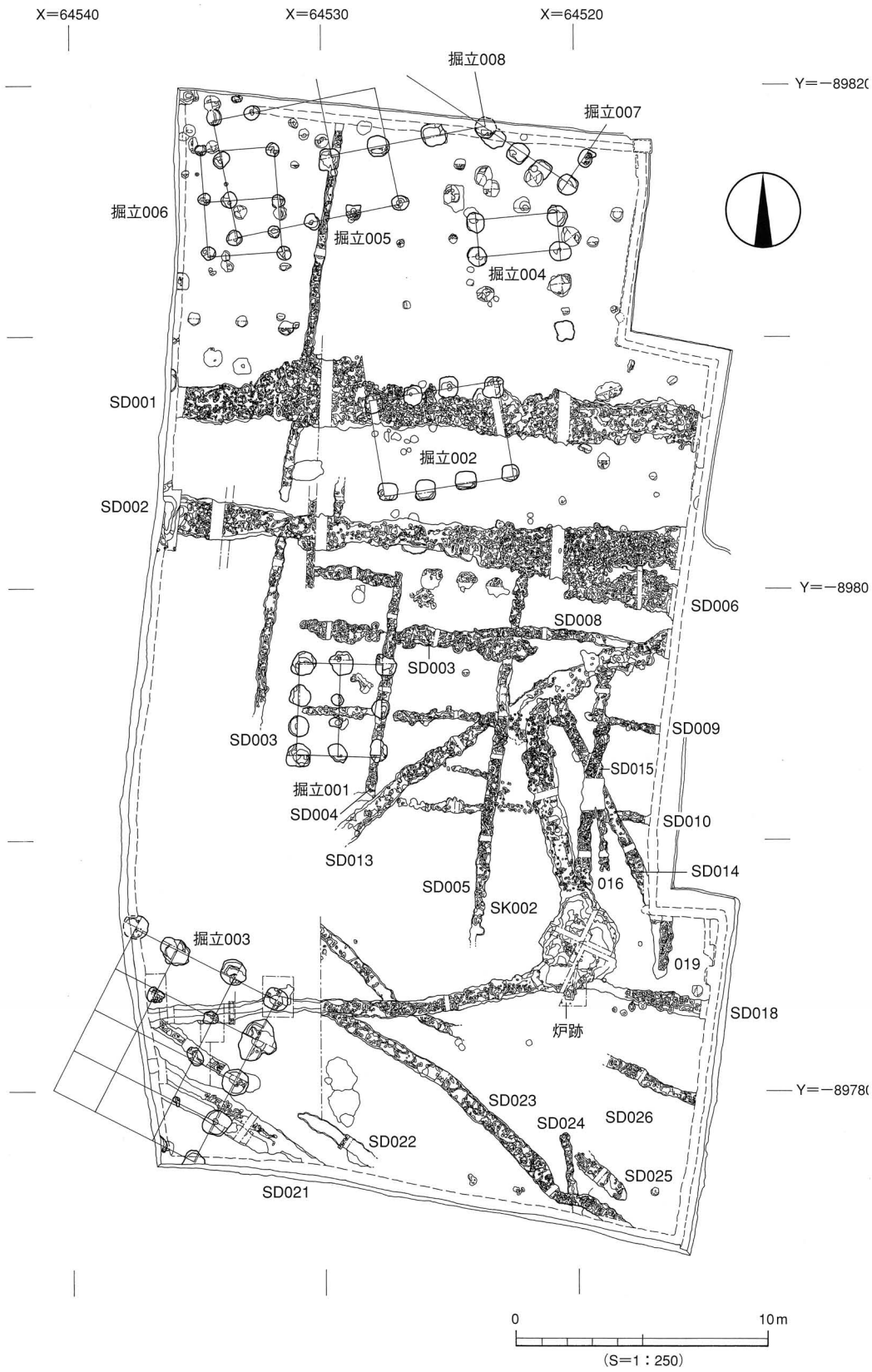

X=64540
X=64530
X=64520
Y=−89820
Y=−8980
Y=−8978
掘立008
掘立007
掘立006
掘立005
掘立004
SD001
掘立002
SD002
SD006
SD008
SD003
SD003
SD009
SD015
掘立001
SD004
SD010
SD013
SD014
SD005
016
SK002
掘立003
019
SD018
炉跡
SD023
SD024
SD026
SD022
SD025
SD021
0
10m
(S=1：250)

図２　遺構配置図

Y=−64550
Y=−64500
Y=−64450
H11-172
13次
42次2区
49次
52次
48次
42次1区
X=89800
来住廃寺5次
36次
X=89850
来住廃寺23次
回廊状遺構
11次
来住廃寺6次
0
30m
(S=1：750)

図３　調査地周辺図

写真１　調査地全景（北より）

写真２　区画溝完掘状況（東より）

久米高畑遺跡53次調査地

所在地　松山市来住町909番地先～926番地先まで
期　間　平成14年１月28日～同年３月31日
面　積　約330㎡（幅２ｍ×延長165ｍ）
担　当　小笠原 彰

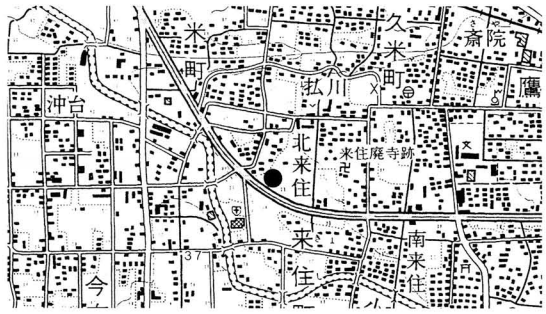


図１　調査地位置図

経　過　久米官衙遺跡群の立地する来住台地上において、農道整備に先立つ調査を国庫補助により実施した。調査地は来住台地南辺の端部に立地し、外郭を方一町（約110ｍ）の溝で区画された『回廊状遺構』（以下『回廊』）西方に位置する。近年『回廊』周辺では同規模の区画施設と倉庫群と想定される内部施設が北方で確認され［42・49次］、さらに北西区域にも新たな区画に囲われた施設の存在が予想される状況となっている［52次］。それに対し『回廊』西方区域は調査例が少なく官衙施設の広がりはつかめていない。本調査により該当区域における新たな知見が得られるものと期待された。

遺構・遺物　対象農道は台地が南に向け緩傾斜する変換点付近（標高約36ｍ）を東西に走る。近年農道に沿って埋設された上水道管を避けるため、農道の幅員（約２ｍ）に対し約0.6ｍの調査区を設定した。トレンチ的な調査の性格上、検出した遺構は少ない。以下、主な遺構の概略を述べる。

［１区礫集中部］調査地東端の１区における検出。『回廊』の区画溝南西角より西へ30ｍ付近にあたる。拳大の礫が地山面直上で10ｍにわたり検出された。その状況は面を揃えて置かれたものではなく規則性は見受けられない。礫の隙間には少量の瓦片・須恵器片が混入していた。瓦片は平瓦主体で凸面に縄目叩きを施すものである。礫の上層には瓦片を含む包含層（褐灰色土：12㎝程度）が堆積する。この包含層は土の色調や瓦片などから推測して８世紀以降の所産であろう。

［その他］３区西端で西方向への地山の落ち込みを検出した。調査の進行上完掘には至っていないが、下層に黒褐色土、上層に褐灰色土の堆積を確認している。土師質の細片を含むのみで時期特定に決め手を欠くが、上層の褐灰色土は１区包含層と色調が類似するため同時期に堆積したものであろう。この落ち込みが自然地形に由来するものか、遺構の掘り方ラインであるのか判断はついていない。

４区では東西に走る溝状の遺構を検出した。幅約1.5ｍ、深さ約0.6ｍを測る。埋土は１区包含層と同じく褐灰色土で縄目叩きを施す平瓦片が１点だけ出土している。

小　結　１区の礫群の評価に示唆を与える石敷遺構が本農道北隣の18次調査で検出されている（註）。未報告のため詳細は不明だが、地山の落ちに対し礫が張り付いて遺存していたらしい。検出状況の解釈と所属時期の問題は残るが、これまで台地上では検出されていない特殊な官衙遺構と想定されている。３区と18次調査は一部重複するが、攪乱によって当時の状況は検出できなかった。本調査の礫群は検出範囲が狭小なことと出土状態から石敷遺構という積極的な評価は与えられない。ただ、明らかに人工的な所産であり、18次調査の遺構と一連の可能性は高い。台地南辺を区画する特殊な官衙施設の存在を予見させるものかもしれない。平成14年度以降、本農道西側の北隣が学術調査の対象地となっており、石敷遺構を含め『回廊』西方区域における官衙施設の解明に期待したい。（小笠原）

（註）松原弘宣『熟田津と古代伊予国』創風社出版　1992年ｐ.142（当時、この遺構を実見された松原氏は詳細不明としながらも来住台地全体を区画する施設の可能性を指摘されている。）

図２　調査地と『回廊状遺構』西辺

写真１　１区礫集中部（東より）

久米官衙遺跡群 ～13年度調査の成果と今後の展望～

①政庁と周辺施設の変遷過程

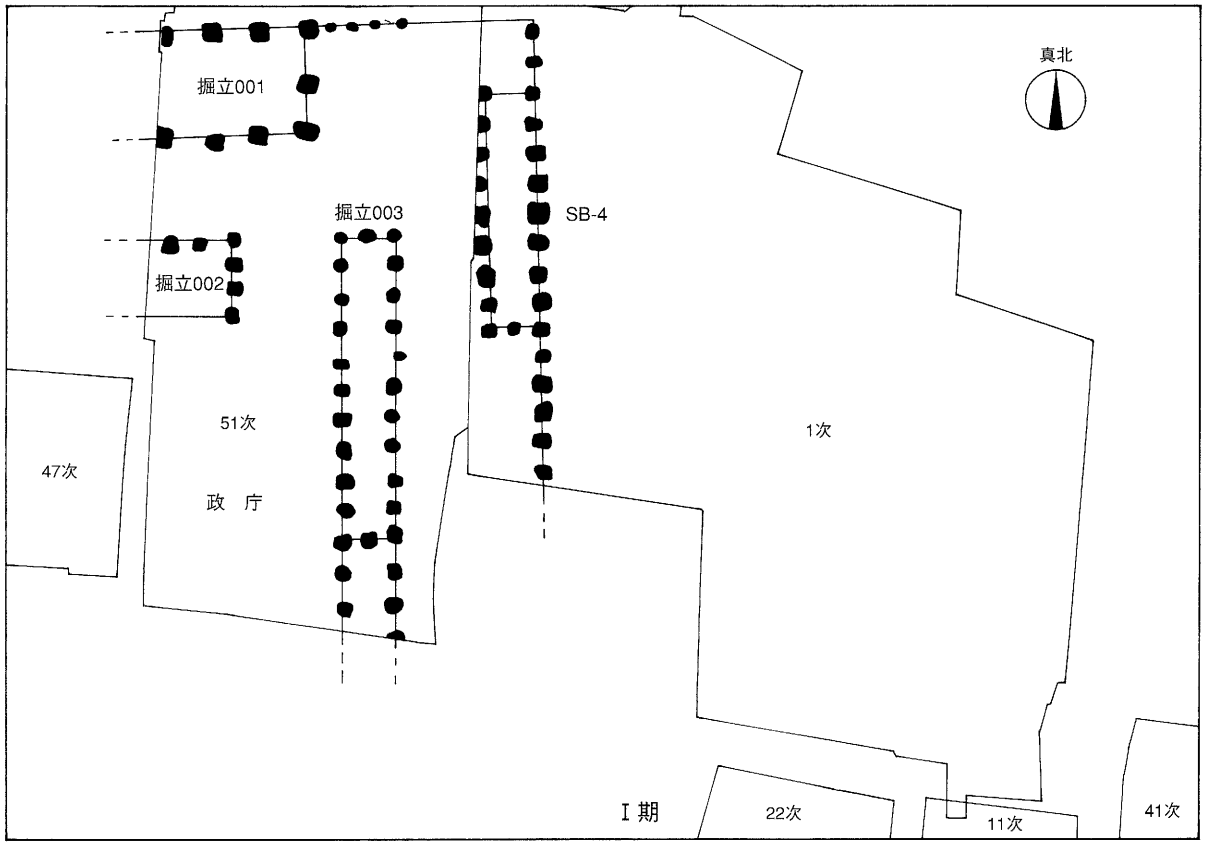
今年度の久米高畑遺跡51次調査地と、その周辺におけるこれまでの発掘調査の結果、出現時期が7世紀前半にまで遡る可能性がある政庁の存在を確定することができた。この遺跡群特有の出土遺物が少ない状況から、関連遺構の所属年代の決定に不安が残るが、判明した範囲で簡単にまとめておきたい。

大きく2時期に区分された遺構群のうち、Ⅰ期に分類した施設について、政庁と呼ぶことに問題はないと考える。ただし、報告の中でも述べた通り、掘立001と掘立002をそれぞれ別の段階の正殿とみなして段階設定を行なうか否かによっては、その評価に大きな変更を加える必要が生じると言えよう。これまでのところ、政庁の外郭を構成する施設と内郭の建物との間の方向角の差が2度程度と小さいこと、さらに、1次のＳＢ－4が、政庁の正殿である掘立001の脇殿と見なすには規模が小さすぎ、むしろ長大な掘立003を脇殿と考えるのが妥当と考えられることなどの理由から、一連の建物は同時に存在し、Ⅰ期を形成した可能性が高いものと判断している。いわゆる長舎囲いの形態をとりつつ、二重囲いとも言うべき特異な配置がなされた政庁を想定しておきたい。

ところで、Ⅱ期に分類した施設の多くは、Ⅰ期の遺構との重複関係から、より新しい段階の建物であると判断されたものである。その複雑な建物配置の状況から、さらに時期の細分を行なうことが可能であるが、政庁に後出する時期の政庁とは呼べない建物群という意味において、ひとつのグループと見なしたものである。Ⅱ期に関して重要な点は、施設の南限にあたるＳＡ003の位置が、遺跡群全体の地割りに対応する政庁南東官衙北辺の延長線に対して平行の関係にあることである。この場所には幅5ｍほどの道路があったものと推定され、道路に面した板塀の一角に、北の施設への入口（門）を設けたものと理解した。このような状況から、道路想定箇所の南、政庁南東官衙の西には、別の官衙施設が立地しているのではないかと想定した。おそらくこの場所には、遺跡群の地割りに対応する段階の政庁（7世紀後半以降）がねむっているものと考えられる。

冒頭で述べた通り出土遺物は少ないが、Ⅱ期の建物の柱穴埋土中から瓦の破片が出土している点は、若干参考になる。これらの丸瓦や平瓦は、当遺跡群においては最も時期的に古い段階の単弁十葉蓮華文軒丸瓦に伴うもので、7世紀後半を上限とするものである。以前から、この瓦が一部の官衙関連施設から少量出土する事実が知られていたが、遅くとも7世紀末までには来住廃寺が創建され、法隆寺系の瓦の使用が始まることから、7世紀後半を中心とする時期に特有の現象であると理解してきた。ただし実際には、8世紀の初頭の時点で来住廃寺の瓦が広範囲に散布する状況は考えにくいので、古い時期の瓦の存在は必ずしも7世紀に限定した評価と結びつくものとは言いがたい。したがって、Ⅱ期の掘立005と006ならびに政庁南東官衙の41次・掘立004（年報11）については、7世紀後半を上限とする時期に建てられた建物であるが、8世紀にも継続した可能性を否定するものではない。一方、Ⅰ期の施設から瓦は出土していないが、7世紀後半にかけて施設が継続した可能性も残されていると言えよう。

今後は、遺跡群全体の変遷過程の再検討を行なうとともに、少ない出土遺物の効果的な活用の手法を探っていきたい。（橋本）


真北
掘立001
掘立003
SB-4
掘立002
51次
1次
47次
政　庁
Ⅰ期
22次
11次
41次

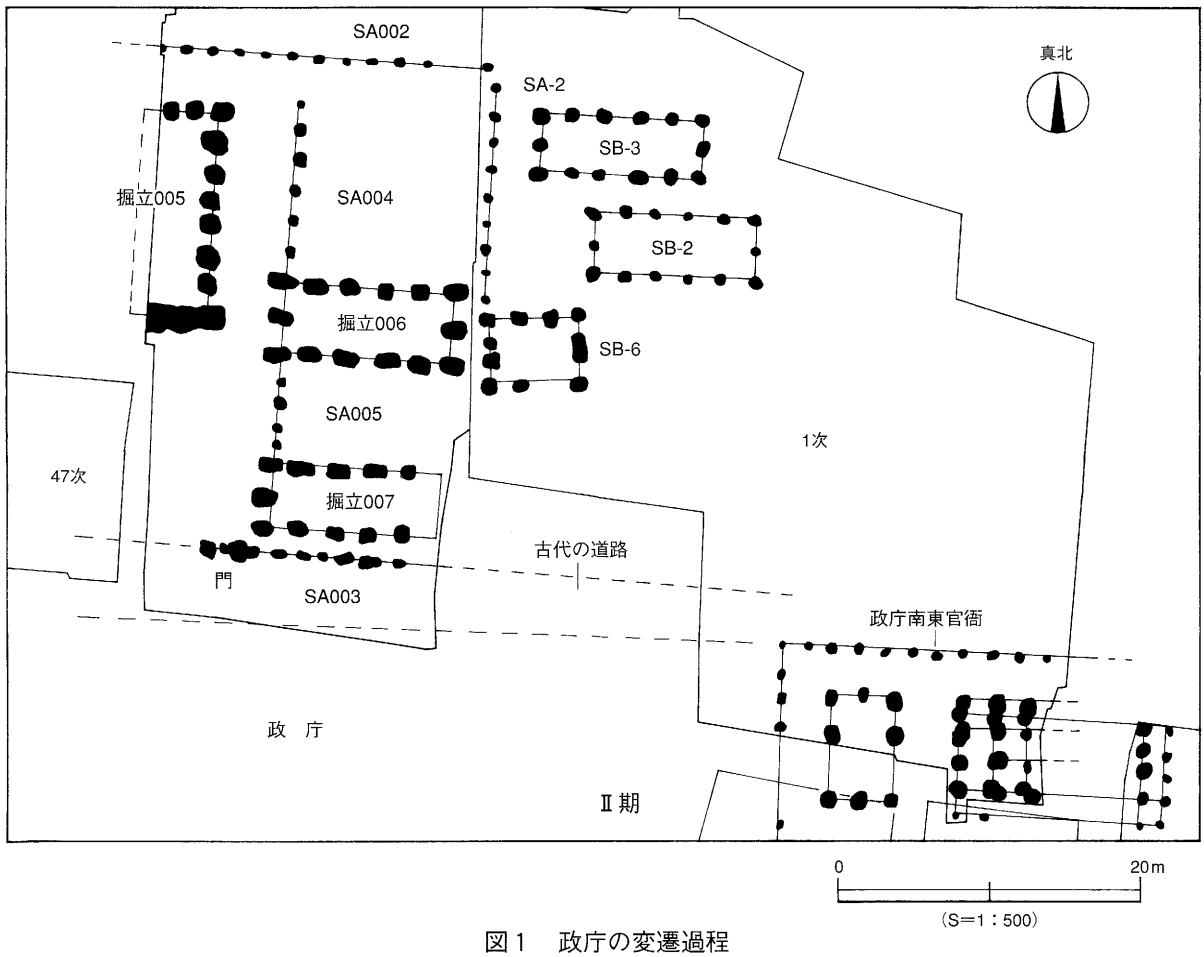

SA002
真北
SA-2
SB-3
掘立005
SA004
SB-2
掘立006
SB-6
SA005
1次
47次
掘立007
古代の道路
門
SA003
政庁南東官衙
政　庁
Ⅱ期
0
20m
(S=1：500)

図1　政庁の変遷過程

②久米官衙遺跡群における８世紀代の土地の利用形態

久米高畑52次検出の２条平行の溝、ＳＤ001と002は、正倉院や来住廃寺が存在した８世紀以降の道路側溝である可能性も考えられる。これまで当遺跡群においては、該当時期の土地の区画施設が少数ながら知られていたが、道路側溝の可能性に言及できるのははじめてのことである。なお、この溝の年代については、49次の出土遺物（年報13）から、正倉院の濠の時期と重なることが確実である。また、方向性が正倉院南濠と共通なことから、これらの溝は正倉院の南約50m付近を東西に貫く８世紀代の道路の存在を示すものと理解している。

これらの溝は、先行する７世紀代の土地の区画施設を廃止して、正倉院の外郭を濠で囲い直す際に設けられたものと考える。本来、先行地割りにおいては、東西に一直線に設定されていたものが、正倉院の南への拡大、濠の開削に伴なってこの位置に付け替えられたのではないかと推測する。その東の起点が、49次のＳＤ007（年報13）のすぐ西、旧区画に重複する位置に決められたのは、この時期に回廊状遺構の跡地に建てられる来住廃寺の寺域ならびに寺地の西限の設定と関わりがあるのかもしれない。

なお、遺跡群の中央を東西に通る県道久米・垣生線が、調査地の北西でクランク状に屈曲して正倉院南面を西に向かい、小野川の右岸に達する現況の路線をとるに至った遠因を、８世紀代の新たな地割りの設定に求めることが可能かもしれない。（橋本）

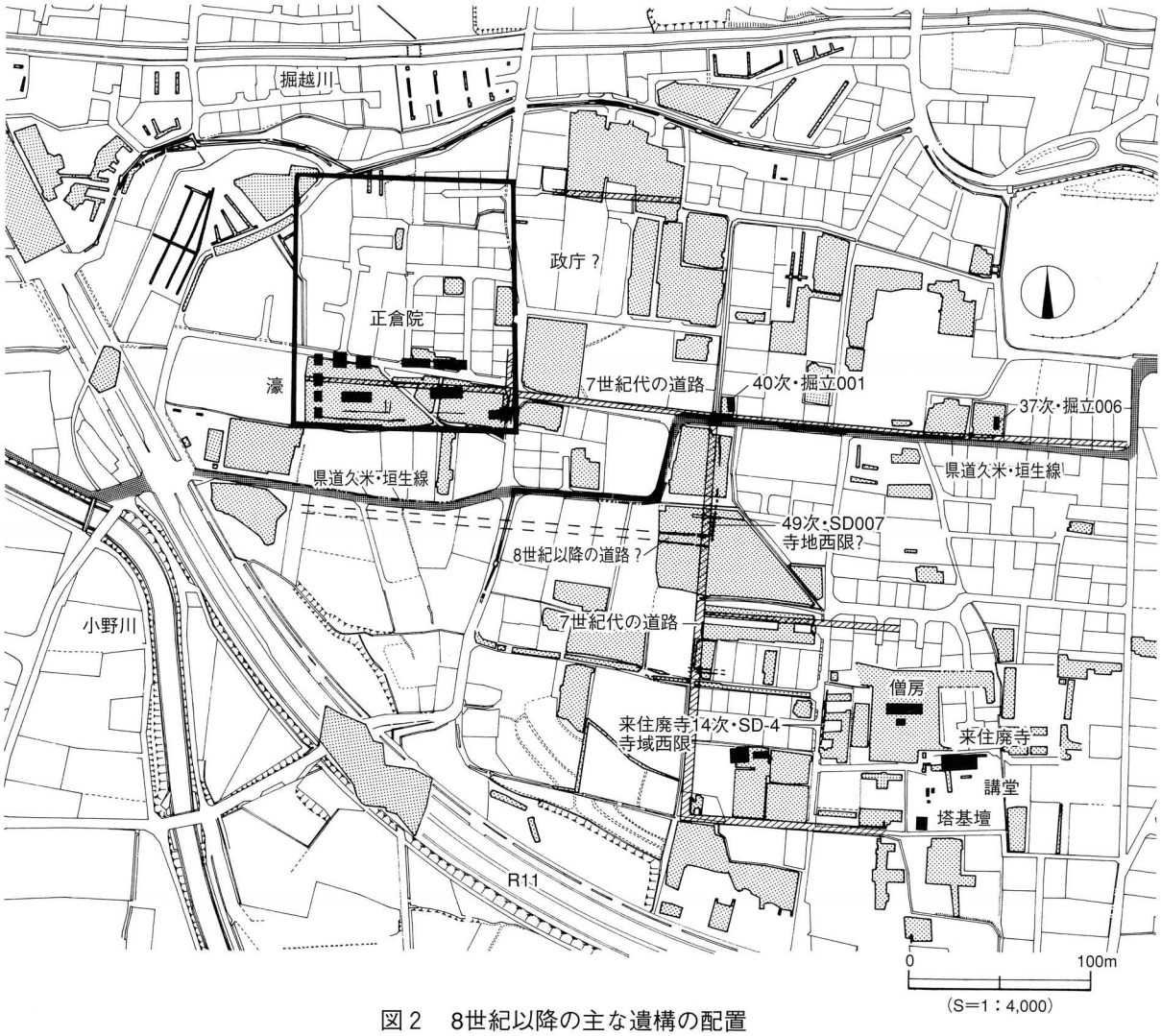


図２　8世紀以降の主な遺構の配置

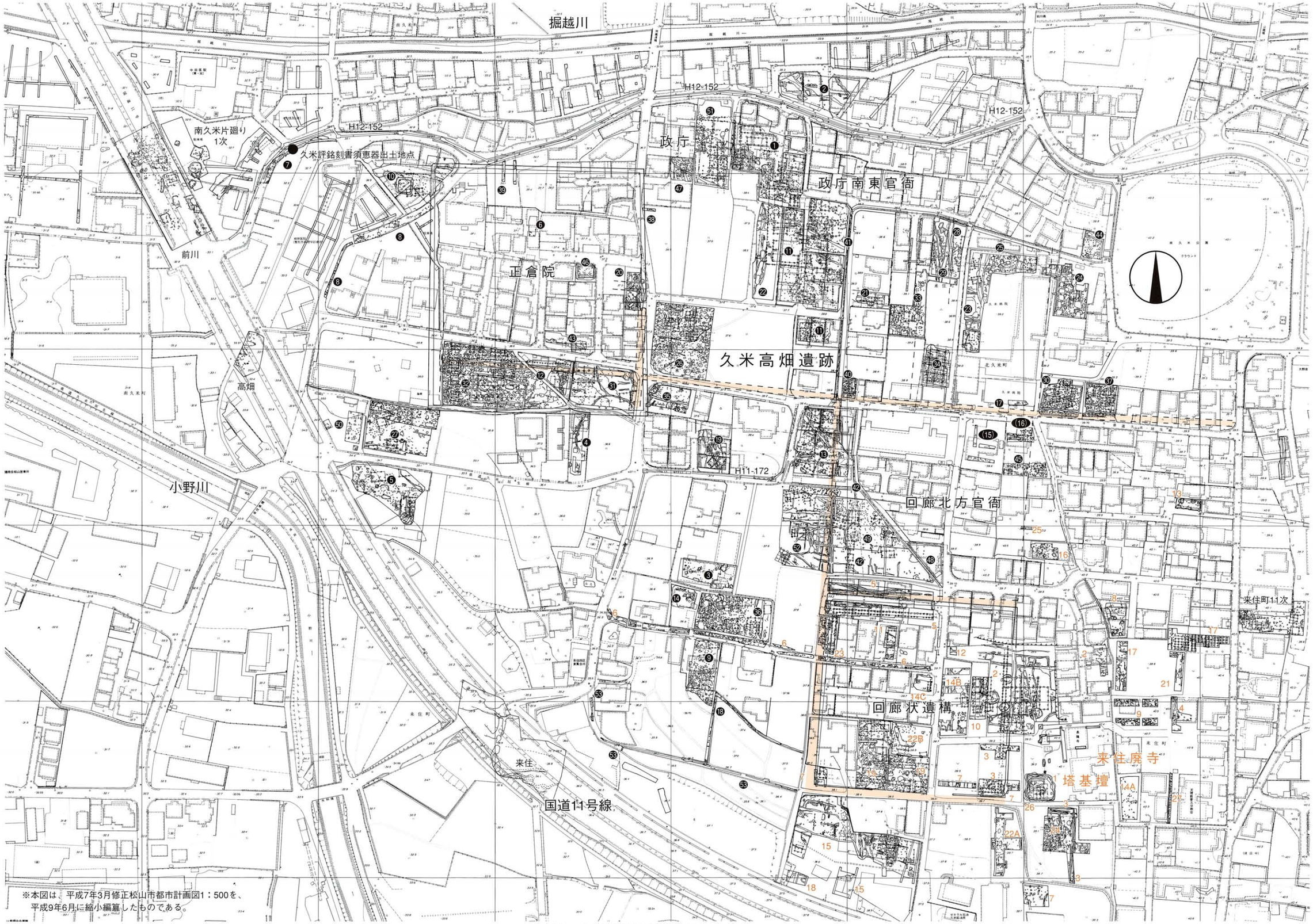


図3　久米官衙遺跡群全体図（S=1：2,000）

Ⅱ　平成13年度
松山市埋蔵文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例　言

1．本編は、松山市教育委員会文化財課・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。

2．今回は平成13年度（申請番号１号～379号．平成13年４月１日～平成14年３月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成12年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報Ⅰ～Ⅹ（昭和60～平成９年度）・同年報11～13（平成10～12年度）』を参照されたい。

3．資料作成（一覧表及び付録図）は、栗田正芳、山邊進也、山口由浩、黒田竜弥が行った。

4．表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成13年度に行った調査を取り扱う。

5．付録図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用した。

6．一覧の略記について

①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、（ ）は調査地内平均値。

③調査目的：公＝施主公共団体、私：施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

表１　平成13年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧　　No. 1

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含･遺構	遺　物	備　考
1	朝生田町２丁目294－５	238	19.60	私	試掘			
2	南久米町558－１	376		私	既済			本格調査済 南久米片廻り遺跡1次調査
3	久米窪田町878－１・３	743	(45.92)	私	試掘	旧河川	土師･須恵	本格調査要
4	安城寺町600－２	176	8.27	私	試掘			
5	道後喜多町1022－４	332	33.80	私	試掘			
6	谷町甲23	962	15.57	私	試掘			
7	道後樋又1191－６	116	27.45	私	試掘			
8	道後北代178－１	212	33.18	私	試掘			
9	北久米町739－２、740－１	313		私	既済			H12－436にて試掘済
10	辻町228－１	335	14.80	私	試掘			
11	小坂４丁目415－4・6	242	26.40	私	試掘			
12	久万ノ台乙206外３筆	9		私	踏査			
13	清水町３丁目35－1	167	24.99	私	試掘			
14	平井町甲3157－106	241	47.00	私	試掘			
15	久万ノ台1143	533	19.25	私	試掘			
16	平井町甲1122、1123－1	567	78.03	私	試掘			
17	西石井６丁目161－5	245	20.91	私	試掘			
18	朝生田町２丁目323－1	729	18.80	私	試掘			
19	道後北代10－41の一部	990		公	試掘			
20	文京町２－１の一部	156		公				

No. 2

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
21	朝日ヶ丘２丁目1098－５	136		私	既済			H12－81にて試掘済
22	道後町２丁目990－４	363		私	既済			H７－310にて試掘済
23	来住町1118、1118－３、1126	138		私				
24	清水町２丁目20－15	110	23.46	私	試掘			
25	平井町甲3157－91	237	47.67	私	試掘			
26	天山１丁目214－３	213	20.32	私	試掘			
27	南梅本町431地先	170	(88.80)	公	立会			
28	北井門町289－１外３筆	209	23.55	私	試掘			
29	小坂５丁目13－２	303	25.30	私	試掘			
30	辻町46	1,502		私	既済			H10－106にて試掘済
31	久万ノ台乙170、乙171－1、1432－1	930	(23.75)	私	試掘			
32	みどりヶ丘250－１、251－１	572	(29.30)	私	試掘			
33	南土居町495地先	500	(35.00)	私	試掘			
34	来住町1144－１の一部	20		私	既済			本格調査済 久米高畑遺跡50次調査
35	小坂５丁目341－９	111		私	既済			本格調査済 西天山遺跡２次調査
36	東方町甲1303－２	212	55.76	私	試掘			
37	南江戸３丁目824	1,603	13.10	私	試掘			
38	北斎院町75－12	61	11.92	私	試掘			
39	姫原１丁目甲147	310	(29.43)	私	試掘			
40	南久米町715－４・５	213	38.80	私	試掘	濠	縄文・弥生	本格調査要
41	南久米町420－１、422	590		私	既済			H12－381にて試掘済
42	桑原４丁目652－１地先	105		公				
43	東石井町乙41－56	203	26.10	私	試掘			
44	南江戸５丁目732－２・８	309	13.70	私	試掘			
45	平井町甲1131－１	390	76.67	私	試掘			
46	道後今市1066－８・６	460	32.90	私	試掘	包含層	土師	本格調査要
47	姫原１丁目22番地先蓮谷池	60		公	踏査			市教育委員会にて踏査
48	道後北代179－２外７筆	864	33.50	私	試掘			
49	立花６丁目341－10	103	20.67	私	試掘			
50	北久米町880－１・３	609		私	既済			H12－29にて試掘済
51	北久米町737－１の一部、737－２	449		私	既済			H12－24にて試掘済
52	鷹子町162－１	202	46.61	私	試掘			
53	鷹子町162－３	661	46.61	私	試掘			
54	西石井６丁目32－３	85		私	既済			H３－80にて試掘済
55	石風呂町甲1079－８	116		私	既済			H２－29にて試掘済
56	別府町329－４・14	120		私	既済			H12－156にて試掘済
57	平井町甲2160－２、甲2149－２	427	62.30	私	試掘			
58	鷹子町139－４	173	44.28	私	試掘			
59	松末２丁目41－８、42－７	155	25.80	私	試掘			
60	樽味４丁目272外４筆	896	(40.15)	私	試掘	包含層・柱穴・溝	弥生・土師・須恵	本格調査要
61	谷町甲272－３	300		私	既済			H12－234にて試掘済
62	清水町３丁目37－５	123		私				
63	中村２丁目274の一部	589	26.30	私	試掘			
64	鷹子町200－２	129	49.90	私	試掘			

No. 3

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
65	山越1丁目263－4	662	18.00	私	試掘			
66	南土居町99－18	156		私	既済			H12－376にて試掘済
67	南久米町乙24－96	213	56.30	私	試掘			
68	平井町甲2245－1	385	56.60	私	試掘			
69	北斎院町1040－7	1,222	7.75	公	立会			
70	桑原4丁目403－5	110	35.08	私	試掘			
71	中村2丁目42－6外	270	27.77	公	試掘			
72	北久米町888	327	32.20	私	試掘			
73	山越1丁目294－1・2	698		私	既済			H5－147にて試掘済
74	中村1丁目95－8・9	375	28.41	私	試掘			
75	南土居町99－16	162		私	既済			H12－376にて試掘済
76	北井門町254－3・12・13	500	23.96	私	試掘			
77	別府町53	500	(16.57)	私	試掘			
78	来住町912－1	598	37.70	私	試掘	柱穴・土坑	弥生・土師・須恵	本格調査要
79	高砂町2丁目6－3	190	22.91	私	試掘			
80	道後一万117	70		私				
81	北久米町684外3筆	697	32.70	私	試掘			
82	北久米町586	879	33.20	私	試掘			
83	上野町乙107－17	2,110	61.00	私	試掘			市教育委員会にて試掘
84	星岡町371－2	453		私	既済			H12－463にて試掘済
85	山西町879－1	414	2.30	私	試掘			
86	南江戸4丁目1－1、生石町538	45		公				
87	平井町甲1583－6	134		私	既済			H11－12にて試掘済
88	南江戸町1258－12	106	12.40	私	試掘			
89	水泥町333－269	164	49.25	私	試掘			
90	祝谷2丁目261－5	683	(44.82)	私	試掘	溝・包含層	弥生	本格調査要
91	南高井町1720－7	154	36.09	私	試掘			
92	道後北代162－4	207	34.36	私	試掘			
93	道後今市1042－2	134	32.60	私	試掘			
94	道後緑台1322－4外16筆	2,547	34.00	私	試掘			
95	今在家町62－5・6・7	302		私	既済			S61－16にて立会済
96	立花6丁目388－9・10	60	20.79	私	試掘			
97	清水町2丁目5－11	148	23.50	私	試掘			
98	南江戸3丁目824－2外7筆	6,634		私	既済			H10－457、H12－348 H13－37にて試掘済
99	水泥町779－1	178	67.60	私	試掘			
100	衣山3丁目483	342	33.50	私	試掘			
101	谷町甲256－1	9,127		私	試掘			
102	水泥町333－87	170		私				
103	権現町乙80地先農道	700		公	踏査			市教育委員会にて踏査
104	山越2丁目37－1外4筆	1,862	16.58	私	試掘			
105	南江戸3丁目905－1	511	12.65	私	試掘			
106	道後緑台226－1・6	529	36.11	私	試掘			
107	南白水1丁目	2		私				
108	道後喜多町1022－4	332		私	既済			H13－5にて試掘済

No. 4

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含･遺構	遺　物	備　考
109	平井町乙658－1	831		公	踏査			市教育委員会にて踏査
110	枝松5丁目134－2	80	29.78	私	試掘			
111	南白水1丁目乙206－2	323		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
112	小坂2丁目472－11	157		私	既済			本格調査済 小坂七ノ坪遺跡2次調査
113	今在家町25外10筆	7,050	(32.37)	私	試掘			
114	南白水2丁目9－3	192		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
115	下伊台町乙285－33	382		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
116	古三津3丁目323－8	149		私	既済			H10－217にて試掘済
117	南白水2丁目9－1	133		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
118	道後今市1039－4	127	32.67	私	試掘			
119	南白水2丁目10－4	200		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
120	別府町143－5	110	7.40	私	試掘			
121	清水町3丁目15の一部	42	25.60	公	試掘			
122	枝松5丁目75－9	330	28.30	私	試掘			
123	南白水2丁目7－4	226		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
124	祝谷町1丁目464－1	102	53.10	私	試掘			
125	小坂2丁目204－8・9	168		私	既済			H12－386にて試掘済
126	祝谷東町652－1、664	568	63.97	私	試掘			
127	平井町甲1122－1	187		私	既済			H13－16にて試掘済
128	中村1丁目1－3	80	29.33	私	試掘			
129	今在家町96－13	86		私	既済			H5－179にて試掘済
130	平井町甲1564－3	221		私	既済			H12－148にて試掘済
131	樽味4丁目179－1・2	437	(41.38)	私	試掘	溝･包含層	弥生	本格調査要
132	道後樋又1191－6	114		私	既済			H13－7にて試掘済
133	南白水2丁目10－1	220		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
134	南白水2丁目9－12	183		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
135	姫原1丁目乙264－9	288	43.41	私	試掘			
136	南斎院乙66－18	468		私	既済			H7－58にて試掘済
137	南白水2丁目9－5	192		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
138	南白水2丁目9－10	183		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
139	南江戸1丁目536－1、538－1	498	14.60	私	試掘			
140	今在家町284－3・7	274	30.52	私	試掘			
141	平井町甲865－1外	3,400		公				
142	桑原2丁目830－6	111	37.82	私	試掘			
143	今在家町429－1	479		私	既済			H11－169にて試掘済
144	福音寺町683－1、687	569	23.50	私	試掘			
145	久米窪田町1164－1外	2,382		私	既済			H12－319にて試掘済
146	東石井町乙41－40外4筆	215	25.80	私	試掘			
147	北久米町685－7	230		私	既済			H13－81にて試掘済
148	小坂5丁目341－13	136		私	既済			本格調査済 西天山遺跡2次調査
149	北斎院町610－1	223	11.12	私	試掘			
150	南白水2丁目9－15	188		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
151	祝谷2丁目344－3	138	48.33	私	試掘			
152	小坂5丁目341－12	142		私	既済			本格調査済 西天山遺跡2次調査

No. 5

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
153	別府町416－1	448	4.60	私	試掘			
154	来住町801－1	415	39.10	私	試掘			
155	北土居町630－1外4筆	4,475	(23.85)	私	試掘			
156	南土居町332－1	88	35.60	私	試掘			
157	今在家町445－6	614		私	既済			H12－107にて試掘済
158	朝美2丁目1242－3	193		私	既済			H12－66にて試掘済
159	桑原4丁目19－9	152		私	既済			H5－93にて試掘済
160	松ノ木2丁目4232－120	200		私	踏査			
161	石風呂町甲1079－1	113		私	既済			H2－29にて立会済
162	古三津3丁目688－1先	4,061	(11.30)	私	試掘			
163	桑原7丁目456－2・3	391	(31.30)	私	試掘			申請取り下げ
164	道後北代1295－15	157		私	既済			H12－308にて試掘済
165	西石井5丁目240－7	144		私	既済			H12－164にて試掘済
166	古三津3丁目323－10、322－14	135		私	既済			H10－217にて試掘済
167	古三津3丁目323－11、322－7	135		私	既済			H10－217にて試掘済
168	祝谷2丁目114－2	121	35.35	私	試掘			
169	南久米町483－1	514	(32.75)	私	試掘			本格調査要
170	福角町甲1280－1	480	(9.20)	公	試掘			
171	東方町甲1493－1	495	56.31	公	試掘			
172								
173	北井門町260－5	161	24.00	私	試掘			
174	北斎院町259－11	133		私	既済			H12－239にて試掘済
175	北斎院町259－10	182		私	既済			H12－239にて試掘済
176	鷹子町1198の一部外3筆	120		私	踏査			市教育委員会にて踏査
177	道後緑台196－5	86		私				申請取り下げ
178	道後緑台196－7	79		私				申請取り下げ
179	別府町75－1、76	316	(7.34)	私	試掘	包含層・溝	弥生・土師・須恵	本格調査要
180	鷹子町110－5	312	45.74	私	試掘			
181	束本1丁目93－1	486	31.90	私	試掘			
182	道後今市166－6	177	32.73	私	試掘			
183	樽味4丁目240	284	40.09	私	試掘			
184	大山寺町1240－2	353	2.25	私	試掘			
185	祝谷2丁目308外12筆	5,095	(43.00)	私	試掘			
186	北久米町475－1	584	32.30	私	試掘			
187	朝美1丁目13	202	13.90	私	試掘			
188	古三津3丁目928－40	121	10.06	私	試掘			
189	山越1丁目293－7	124	19.30	私	試掘			
190	平井町甲863－4	230	74.29	私	試掘			
191	朝美2丁目1209－5	233	16.20	私	試掘			
192	古川北2丁目288－1外	700	(16.69)	公	試掘			
193	北土居町148地先 今在家町185地先	15	(31.05)	公	試掘			
194	平井町186	179	84.24	私	試掘			
195	桑原1丁目794－1	546	(36.55)	私	試掘			
196	桑原1丁目1007	312	36.40	私	試掘			

No. 6

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
197	山越１丁目甲263－１外１筆	916	16.80	私	試掘			
198	南久米町420－18・19	286	35.15	私	試掘			
199	古三津３丁目878－20	138		私	既済			Ｈ８－120にて試掘済
200	北梅本町甲1636外	10,028	(109.95)	公	試掘	石室		本格調査要
201	平井町	4,793		公				
202	枝松５丁目75－９の一部外２筆	255	(28.20)	私	試掘			
203	平井町甲1334－11	144	73.20	私	試掘			
204	太山寺町	1,627		公				
205	東石井町189、190－１・２	2,162	21.30	私	試掘			
206	東石井町507～543地先、534～	412	(22.53)	公	試掘			
207	今在家町67－３	134		私	既済			H11－306にて試掘済
208	祝谷５丁目774－６	85	50.30	私	試掘			
209	高砂町１丁目５－11・12・29	654	22.60	私	試掘			
210	南江戸５丁目780－13・15	354	12.96	私	試掘			
211	久万ノ台1277、1278、1279	5,245		私	踏査			市教育委員会にて踏査
212	来住町890－３、891－４	92		公				
213	大街道３丁目45地先	700		公				
214	久米窪田町1164－１外２筆	16		私	既済			H12－319にて試掘済
215	桑原７丁目456－３	130		私	既済			H13－163にて試掘済
216	東垣生町891－６	198	4.40	私	試掘			
217	谷町甲616	3,573		公	踏査			市教育委員会にて踏査
218	桑原４丁目380－４	105	36.50	私	試掘			
219	余戸西２丁目2301－１外	1,000	(4.70)	公	試掘			
220	東石井町	1,014	(21.90)	公	試掘			
221	今在家町36－１外１筆	780	(32.25)	私	試掘			
222	谷町740－３	125	29.20	私	試掘			
223	朝美２丁目1148外６筆	1,577	19.60	私	試掘			
224	安城寺町96－６	101		私	既済			Ｈ７－228・248にて試掘済
225	鷹子町1206－６	4,800		公	踏査			市教育委員会にて踏査
226	平井町甲3317－１外 水泥町1346－１外	4,200		公				
227	東石井町乙41－42	187	26.30	私	試掘			
228	水泥町517－１	414	58.20	私	試掘			
229	桑原４丁目405－１	418	37.50	私	試掘			市教育委員会にて試掘
230	石風呂町甲1079－５	117		私	既済			Ｈ２－29にて立会済
231	祝谷２丁目157－１	118	34.93	私	試掘			
232	祝谷２丁目160－３	97	35.84	私	試掘			
233	南白水１丁目1－９	212		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
234	今在家町	25		公				
235	平井町甲1596	188	70.60	私	試掘			
236	山越１丁目282－５の一部	109	19.05	私	試掘			
237	小坂５丁目341－14	120		私	既済			本格調査済 西天山遺跡２次調査
238	南久米町342－４～363－２地先	398	(37.55)	公	試掘			
239	西石井６丁目63－１・２	599	20.90	私	試掘			
240	太山寺町2244地先	65	(16.00)	公	試掘			市教育委員会にて試掘

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
241	平田町873	640		公	踏査			市教育委員会にて踏査
242	小坂５丁目314－５	120	24.06	私	試掘			
243	星岡町357－３	490	24.51	私	試掘			
244	谷町738－１	191	25.25	私	試掘			
245	福音寺町外３ヵ町	1,532		公	立会			市教育委員会にて立会
246	来住町外１ヵ町	2,544		公				
247	小坂４丁目421－１	274	(26.88)	私	試掘			
248	天山１丁目245、246	301	21.20	私	試掘			
249	道後今市1039－７	161	32.74	私	試掘			
250	南久米町470－１の一部	264	33.90	私	試掘	溝・土坑・柱穴	土師・須恵	本格調査要
251	東方町甲719－３外２筆	383	59.36	私	試掘			
252	恵原町乙53－１外４筆	663	(131.42)	私	試掘			
253	北斎院町76－１	801	10.25	私	試掘			
254	平井町甲2273－１、2298－２	16		私	既済			本格調査済 下苅屋遺跡４次調査
255	小坂５丁目375－１	743	24.10	私	試掘			
256	畑寺町丙238－133	141	52.20	私	試掘			
257	平井町2504－１	119	63.80	私	試掘			
258	鷹子町４－１	49		公	試掘			市教育委員会にて試掘
259	北井門町269－７	200	23.83	私	試掘			
260	平井町甲1616－１	710	68.22	私	試掘			
261	辻町95－６	203	15.40	私	試掘			
262	辻町57－１	209	14.26	私	試掘			
263	北斎院町298外４筆	438	(14.00)	私	試掘			
264	東石井町142－５	206	25.90	私	試掘			
265	久万ノ台775	240	15.70	私	試掘			
266	南江戸５丁目1529	446	(27.92)	私	試掘	柱穴	土師	本格調査要
267	今在家町301－１、301－２の一部	624		私				
268	西石井町354－１外	3,930	(20.20)	公	試掘	包含層・柱穴	弥生・土師・石器	本格調査要
269	北斎院町248－３	215		私	既済			H11－247にて試掘済
270	安城寺町204－１	479	8.50	私	試掘			
271	姫原１丁目甲18－１	462	28.76	私	試掘			
272	久米窪田町927－１外６筆	596	45.43	私	試掘			
273	道後北代1295－17	149		私	既済			H12－308にて試掘済
274	今在家町420－62	243	30.47	私	試掘			
275	谷町甲276－２	222	20.37	私	試掘			
276	今在家町96－14	149		私	既済			H５－179にて試掘済
277	天山１丁目207－１の一部	1,515	(20.35)	私	試掘			
278	桑原２丁目13－32	143	39.80	私	試掘			
279	東野５丁目898－52～878－80地先	393		公				
280	鉄砲町12－２	168	27.08	私	試掘			
281	朝生田町２丁目264－１	692	18.60	私	試掘			
282	衣山２丁目５－20	365	23.80	私	試掘			
283	山田町998－３	181		私	既済			H12－185にて試掘済
284	道後北代180－６・７	225		私	既済			H13－48にて試掘済

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
285	北斎院町134－5	142	9.78	私	試掘			
286	立花6丁目外2ヵ町	81	(19.65)	公	立会			
287	東石井町432－2	240	22.80	私	試掘			
288	辻町248－1	398	14.47	私	試掘			
289	久米窪田町490－2	495	45.55	私	試掘			
290	平井町甲1757－5	498	67.30	私	試掘			
291	山越1丁目甲263－15	148		私	既済			H13－65にて試掘済
292	朝美1丁目1365－4、1366－4	769		私	既済			H8－159にて試掘済
293	安城寺町55	998	8.80	私	試掘			
294	南江戸3丁目898－1	894		私	既済			H2－88にて試掘済
295	南久米町665－9	234	40.70	私	試掘			
296	南久米町外1ヵ町	696		公				
297	樽味1丁目315－1の一部	333	37.70	公	試掘			
298	堀之内～若草町	2,026		公				
299	鷹子町82－6	228	44.12	私	試掘			
300	水泥町799－1	180		私	既済			H13－99にて試掘済
301	安城寺町96－10	162		私	既済			H7－333にて試掘済
302	船ヶ谷町95－1	334		私	既済			H8－326にて試掘済
303	平井町甲715－4	499	74.00	私	試掘			
304	小坂5丁目351－2	200	24.10	私	試掘			
305	鷹子町183－6	231		私	既済			H12－438にて試掘済
306	古三津3丁目322－17	131		私	既済			H10－217にて試掘済
307	古三津3丁目322－18	131		私	既済			H10－217にて試掘済
308	祝谷5丁目708－7	116	39.50	私	試掘			申請取り下げ
309	西石井2丁目251－1	1,616	20.00	私	試掘	溝・包含層	土師	本格調査要
310	道後緑台11－43	249	35.57	私	試掘			
311	北斎院町490－7	160		私	既済			H12－375にて試掘済
312	小坂4丁目393－1	841	24.50	私	試掘	溝・土坑	弥生・土師	本格調査要
313	桑原2丁目827－4	142	37.90	私	試掘			
314	今在家町6－1外4筆	450		私	既済			S61－16にて試掘済
315	祝谷4丁目850	178	39.30	私	試掘			
316	祝谷2丁目344－5外4筆	269		私	既済			H10－105・205にて試掘済
317	平井町甲1537－2・3	463	66.80	私	試掘			
318	祝谷4丁目861	473		私	既済			市教育委員会にて試掘済
319	山越1丁目290－8	190	18.80	私	試掘			
320	山越1丁目288－1・12・13	999	19.10	私	試掘			
321	西長戸町598－4	133		私	既済			H12－261にて試掘済
322	山越1丁目272－9・12・13	175	18.10	私	試掘			
323	高砂町2丁目6－3	193		私	既済			H13－79にて試掘済
324	道後緑台354－2、355－3	373	41.60	私	試掘			
325	朝日ヶ丘2丁目1098－9	173	16.75	私	試掘			
326	平井町甲3157－92	191	47.80	私	試掘			
327	道後樋又1141、1140－1	778	27.90	私	試掘			
328	南久米町756	133	38.30	私	試掘	溝・包含層	土師	本格調査要

No.9

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含･遺構	遺　物	備　考
329	道後緑台1370－８・10	382	37.50	私	試掘			
330	南久米町665－７・10	319	40.70	私	試掘			
331	来住町238、240	325	(40.60)	公	試掘			
332	北斎院町76－１	801		私	既済			H13－253にて試掘済
333	北斎院町259－15	198		私	既済			H12－239にて試掘済
334	山西町827－２	85	3.20	私	試掘			
335	東垣生町650－４外	500		公				
336	久米窪田町1056－５	181		私	既済			H３－85にて試掘済
337	中村２丁目47－２	127	28.60	私	試掘			本格調査要
338	清水町１丁目７－２	117	25.33	私	試掘			
339	東野５丁目甲930－52	447	59.50	私	試掘			
340	権現町甲438－１	328		私				
341	桑原１丁目785－３	151	36.06	私	試掘			市教育委員会にて試掘
342	中村２丁目116－４	132	26.80	私	試掘			
343	桑原１丁目1000－３	145	37.90	私	試掘			
344	山越１丁目294－10	150		私	既済			H５－147にて試掘済
345	南江戸４丁目1248－１外９筆	3,569		私	既済			H８－451にて試掘済
346	天山１丁目210－４・６・７	160	20.20	私	試掘			
347	船ヶ谷町196－１・６	421	13.50	私	試掘			
348	谷町甲684－３、733、734	154	24.25	私	試掘			
349	道後北代1301－１	255	33.70	私	試掘			
350	南土居町172	194	38.55	私	試掘	溝・柱穴	土師	本格調査要
351	西石井５丁目219－１	780		私	既済			H10－189にて試掘済
352	朝生田町３丁目408－３・４	474	19.70	私	試掘			
353	祝谷町１丁目464－１	251	52.60	私	試掘			
354	久万ノ台1411－15	148	29.20	私	試掘			
355	水泥町1263－１外22筆	17,309		私	既済			H６－221にて試掘済
356	小坂２丁目212－６	132	29.63	私	試掘			
357	今在家町２丁目外２ヵ町	22	(30.65)	公	試掘			
358	小坂５丁目341－15	130		私	既済			本格調査済 西天山遺跡２次調査
359	小坂５丁目341－16	162		私	既済			本格調査済 西天山遺跡２次調査
360	平井町甲72－15	111		私	既済			H５－45にて試掘済
361	東本１丁目110－３・４	626		私	試掘			市教育委員会にて試掘
362	南久米町437－３	231	35.70	私	試掘			
363	中村１丁目3－２	72	27.86	私	試掘			
364	祝谷５丁目678－１	165	49.26	私	試掘			
365	鷹子町717－３・４	238	44.80	私	試掘			
366	道後喜多町1013－４	368	35.30	私	試掘			
367	北斎院町524	211	10.40	私	試掘			
368	平井町甲1188－２	199		私				
369	今在家２丁目420－37	218	30.80	私	試掘			
370	南江戸４丁目948－５	332	13.30	私	試掘			
371	平井町甲2169－29	302		私	既済			H12－388にて試掘済
372	小坂２丁目204－２	104	29.70	私	試掘			

No.10

No.	所　在　地	面積(m²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含･遺構	遺　物	備　考
373	南白水２丁目２－２	187		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
374	南白水２丁目６－６	194		私	既済			本格調査済 瀬戸風峠遺跡
375	道後緑台216－３	180	33.45	私	試掘			
376	小坂４丁目288－５	543	25.10	私	試掘			
377	太山寺町1991－１外６筆	913	(65.65)	私	試掘			
378	来住町833	231		私				
379	来住町894	1,068		私				

表２　平成13年度　松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査目的	時　代	主な遺構、遺物等	対象面積(m²)	屋外調査期間	No.
376－④	桑原遺跡４次調査地（3･5区）	桑原５丁目9－12外	緊急	弥生・中近世	掘立柱建物跡・柵列・土坑・溝・弥生・土師・陶器	11,700	H13.4.6～H13.9.28	376－④
385	桑原遺跡５次調査地	桑原５丁目688－1・2	〃	古墳～中近世	掘立柱建物跡・溝・旧河川・土師・木製品	1,480.66	H13.4.6～H13.8.31	385
386	来住町遺跡12次調査地	来住町230の一部外	〃	弥生・古墳	竪穴住居址・掘立柱建物跡・土坑・溝・弥生・土師・須恵・石器	1,430.56	H13.4.9～H13.5.25	386
387	久米高畑遺跡51次調査地	南久米町774－1	学術	古代	掘立柱建物跡・溝・土坑・土師・石器・木器	800	H13.4.9～H13.10.13	387
388	中村松田遺跡４次調査地	中村１丁目55－4	国補	弥生～古代	掘立柱建物跡・井戸・土坑・弥生・土師・須恵・石器	284.85	H13.5.7～H13.7.31	388
389	東石井遺跡	東石井町527－1外	緊急	弥生～古代	竪穴住居址・掘立柱建物跡・井戸・溝・弥生・土師・須恵・瓦	4,800	H13.6.1～H14.2.28	389
390	久米才歩行遺跡７次調査地	南久米町486－1	〃	弥生～中世	竪穴住居址・掘立柱建物跡・溝・弥生・土師・須恵・石器・陶器	710.97	H13.6.18～H13.9.14	390
391	桑原高井遺跡３次調査地	桑原１丁目779－2	国補	弥生・中世	竪穴住居址・掘立柱建物跡・柵列・土坑・弥生・土師	241.04	H13.7.12～H13.10.5	391
392	土居窪Ⅲ遺跡	道後緑台196－6	緊急	弥生	溝・弥生・紡錘車・石庖丁	70.91	H13.9.3～H13.9.14	392
393	南久米町遺跡４次調査地	南久米町420－1外	〃	古代～中近世	掘立柱建物跡・溝・土師・須恵・陶器・瓦	590.37	H13.9.17～H13.10.16	393
394	来住町遺跡13次調査地	来住町538－2外	国補	弥生～中世	竪穴住居址・掘立柱建物跡・土坑・溝・畠・土師・須恵	900	H13.10.10～H14.3.29	394
395	西石井遺跡	古川北２丁目292－2外	緊急	弥生～古代	竪穴住居址・壺棺墓・土坑・弥生・土師・緑釉陶器	4,480	H13.10.1～H14.3.29	395
396	久米高畑遺跡52次調査地	来住町893	学術	古代	掘立柱建物跡・溝・土坑・土師・須恵・瓦	999	H13.10.22～H14.3.31	396
397	久米高畑遺跡53次調査地	来住町909～926	〃	古代	溝・柱穴・性格不明遺構・瓦	290	H14.1.28～H14.3.31	397
398	潮見山古墳	北梅本町甲1636外	緊急	古墳	石室・須恵器	10,028	H14.1.19～H14.5.11	398

平成13年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図

(S=1：75,000)

Ⅲ　平成13年度
保存処理及び出土遺物整理

1．平成13年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査はもちろん、過去約20年の調査資料の整理を行っている。今年度は昨年度に引き続き、出土遺物が、膨大になってきたために収蔵庫の整理を重点的に行っている。

1．遺　物

青銅製品：保存処理および復元・科学分析を外部委託している。今年度は青銅鏡２面、銅鏃２点、銅鈴１点、貨銭２点、三累環頭金具１点、金銅片１点を実施した。

昨年度は、当センター保管の青銅鏡23件22面全ての保存処理が終了した。そこで、今年度は一覧表と実測図を作成したので、その成果を掲載する。

鉄製品：保存処理は当センターで行うが、特殊な資料とＸ線撮影は外部委託している。収蔵品の目録製作のための作業を重点的に行う。重要資料の外部委託は、鉄刀１点と鉄製馬具を㈶元興寺文化財研究所に依頼した。

植物遺体：木製品や種実は品種同定を外部委託し、そのうえで当センターで保存処理をしている。今年度は、特に保存処理が困難な織物１点（支持台を含む）を外部委託した。

また、種実同定と樹種同定を㈱古環境研究所に委託した。

なお、伊台惣部遺跡の報告書（松山市文化財調査報告書85集）で未掲載になった分析結果を、補遺としてｐ98～101に掲載している。

動物遺体：洗浄や保護の作業を行う。品種同定は、整理後に行いたい。

土器：収蔵庫整理では、報告書が刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行った。収蔵庫整理に伴って、展示会や類例調査で使用の頻度が高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保管している。今年度は、西南四国系土器・豊後安国寺系壺・吉備系甕を対象資料にし、台帳を作成後、一括保管した（ｐ81～97）。

石器：土器と同様の作業を進める。特に、選別作業を重視した。

2．写　真

ネガ：35㎜判と６×７判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所に収納する。４×５判は写真担当者が整理する。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをテン箱に収納し、収蔵庫に保管する。

3．実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図・遺物実測図・日誌・報告書原図は収蔵庫に保管する。

（梅木）

2．保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（ＰＥＧ含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。

（山本）

1．木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はＰＥＧ（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。このＰＥＧ含浸法は、木製品中の水分をＰＥＧに置き換える方法で、20％の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100％濃度のＰＥＧ溶液をしみこませることになる。この処理は１～1.5年位を要する。平成13年度は木製品の保管数が少なく、保存処理は行っていない。

2．金属製品の保存処理（写真１～４）

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行っていた金属製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・ＲＰシステム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表１　平成13年度　金属製品保存処理遺跡名一覧　（1）

No.	遺　跡　名	点数	作業工程	刊行物
4	松ヶ谷古墳	5	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第６集
14	福音寺遺跡筋違Ａ地区	2	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第17集
14	福音寺遺跡筋違Ｂ地区	3	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第17集
14	福音寺遺跡塚	25	処理済・収蔵保管	松山文化財調査報告書第17集
14	北久米遺跡常堰Ｂ地区	2	処理済・収蔵保管	松山文化財調査報告書第17集
14	北久米遺跡農免Ａ地区	1	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第17集
59	東山古墳群１次調査地	14	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第15集
84	松山城二ノ丸	2	処理済・処理室保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
88	南久米片廻り遺跡	1	処理済・収蔵保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
94	松山城二ノ丸２次調査地	2	処理済・収蔵保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
101	松山城二ノ丸３次調査地	2	処理済・収蔵保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
106	高月山古墳	3	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第19集
129	筋違Ｆ遺跡	2	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第52集
166	福音小学校構内遺跡	48	脱塩済・実測中	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
228	影浦谷古墳	58	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第33集
255	樽味四反地遺跡４次調査地	1	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第46集
274	来住廃寺24次調査地	7	処理済・処理室保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅶ）
279	桧山峠７号墳	14	処理済・収蔵保管	松山文化財調査報告書第61集
299④	下苅屋遺跡３次調査地	3	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第75集
313	葉佐池古墳２号石室	276	処理済・担当者保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報Ⅸ）
321	筋違Ｌ遺跡	12	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第84集
335③	北梅本北池遺跡	1	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第81集

平成13年度　金属製品保存処理遺跡名一覧　(2)

No.	遺　跡　名	点数	作業工程	刊行物
339	樽味四反地遺跡６次調査地	4	処理済・処理室保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報11）
344	北斎院地内遺跡４次調査地	1	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第80集
348	久米高畑遺跡41次調査地	1	処理済・処理室保管	未報告（松山埋蔵文化財調査年報11）
355	久米高畑遺跡42次調査地	2	含浸処理中	未報告（松山埋蔵文化財調査年報12）
363	筋違Ｎ遺跡	12	処理済・処理室保管	松山文化財調査報告書第84集

３．人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理（写真５～10）

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けして全体（内部まで）を強化する。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表２　平成13年度　動物遺骸体保存処理遺跡名一覧

No.	遺　跡　名	出土遺構	種類	部位	点数	刊行物
98	古照Ｇ遺跡	１区	獣	足部	1	未報告
112	古照Ｇ遺跡３次調査地	２区	牛か馬	歯	2	未報告
124	樽味立添遺跡	第Ⅲ層	牛か馬	歯	9	松山文化財調査報告書第26集
130	福音寺川附遺跡	不明	獣	足部	2	松山文化財調査報告書第52集
171	道後今市遺跡６次調査地	不明	獣	歯	2	松山文化財調査報告書第30集
200	古照Ｇ遺跡４次調査地	第Ⅲ層	牛か馬	歯	1	未報告
		井戸（ＳＥ１）	牛か馬	歯	1	
		溝（ＳＤ２）	牛か馬	歯	1	
229	古照Ｇ遺跡８次調査地	土坑（ＳＫ１）	獣	不明	2	松山文化財調査報告書第53集
		土坑（ＳＫ14）	獣	歯	3	
		溝（ＳＤ）	牛か馬	歯	1	
		Ｂ区	牛か馬	歯	1	
		Ｂ区第Ⅷ層	獣	不明	1	
232	来住町遺跡４次調査地	不明	獣	歯	3	松山文化財調査報告書第76集
	桑原遺跡５次調査地	流路（ＳＲ７）	牛か馬	歯	1	未報告（整理中）
		流路（ＳＲ８）	牛か馬	歯	1	

４．遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合に遺構・遺物の取り上げをおこなう。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごと取り上げること、年報11,保存処理事業Ｉ－3参照）、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対

象物全体を固めて取り上げる（年報Ｘ,保存処理事業Ｉ－3参照）。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成13年度は遺構・遺物の取り上げは行っていない。

5．土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成13年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』

表３　平成13年度　調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

No.	遺　跡　名	種　類	点　数	内　訳
385	桑原遺跡５次調査地	木製遺物 植物遺体 動物遺骸体	29 34 4	斎串・錘・その他 種子（桃核・ジュズ・ヒョウタン類） 獣骨（歯）・貝・昆虫
386	来住町遺跡12次調査地	金属製遺物	3	鉄製品
388	中村松田遺跡４次調査地	木製遺物	1	炭化材
389	東石井遺跡	木製遺物	1	炭化材
393	南久米町遺跡	金属製遺物	6	鉄製品（釘・その他）
394	来住町遺跡13次調査地	金属製遺物	5	鉄製品（滓・その他）
395	西石井遺跡	木製遺物	1	炭化材

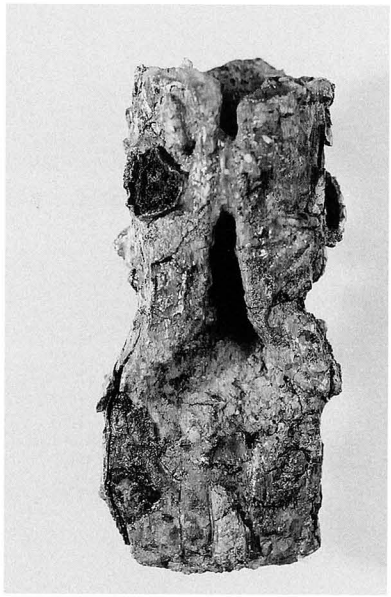


写真１　高月山２号墳出土鉄斧（処理前）

写真２　高月山２号墳出土鉄斧（処理後）

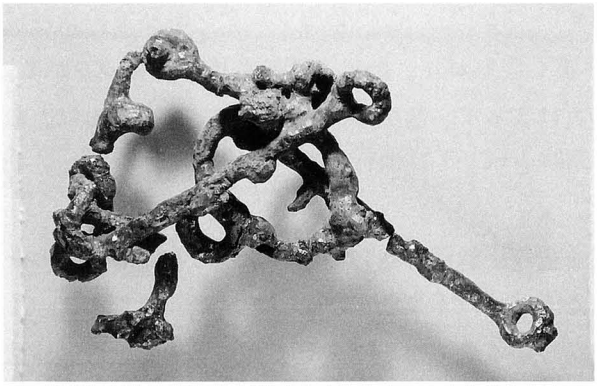


写真３　松ケ谷１号墳出土轡（処理前）

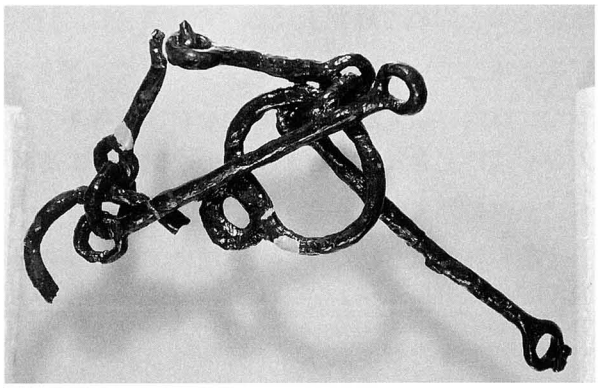


写真４　松ケ谷１号墳出土轡（処理後）

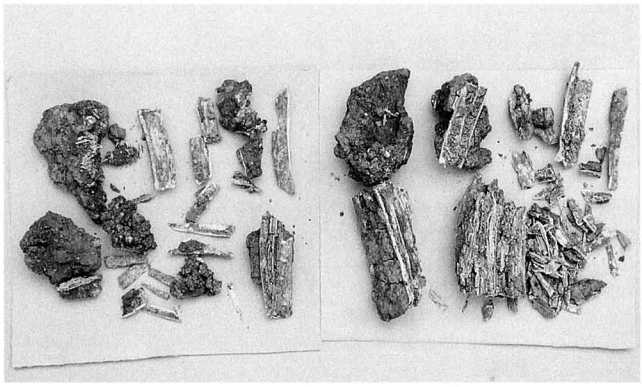


写真５　樽味立添遺跡出土獣歯（処理前）

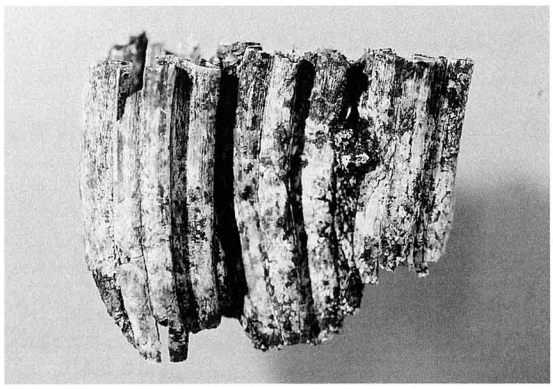


写真６　樽味立添遺跡出土獣歯（処理後）

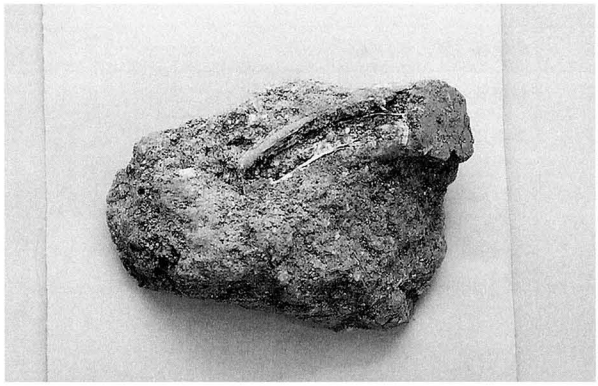


写真７　樽味立添遺跡出土獣歯（処理前）

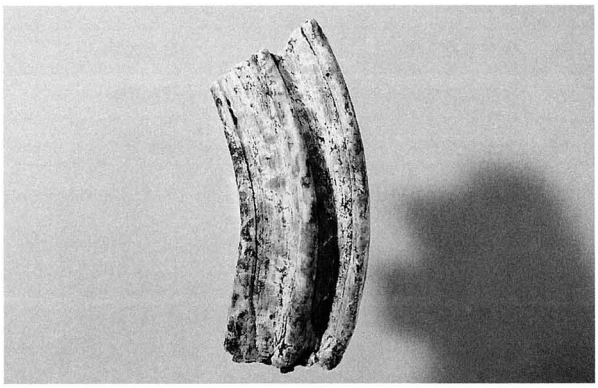


写真８　樽味立添遺跡出土獣歯（処理後）

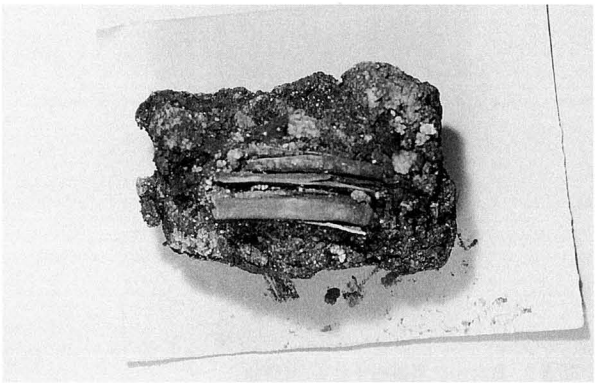


写真９　桑原遺跡５次調査地出土獣歯（処理前）

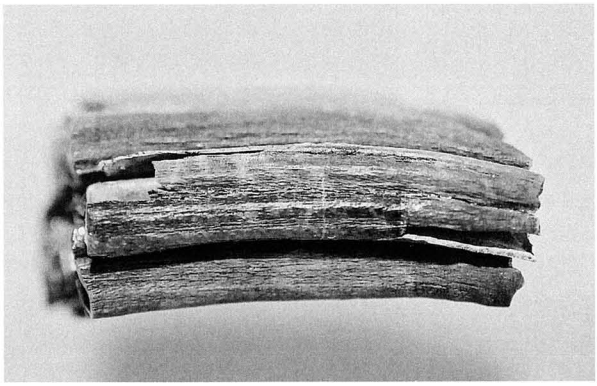


写真10　桑原遺跡５次調査地出土獣歯（処理後）

3．出土遺物整理

青銅鏡

保管の青銅鏡は、23件22面となり、発掘調査で出土したものは15面、寄贈品は８件７面となる。青銅鏡は、平成元年度から平成13年度までに、現在保管分を京都造形芸術大学と奈良文化財研究所に保存処理を依頼・委託し、作業を終えている。

これを受け、平成13年度特別展『伊豫の鏡』を実施し、講演会を催し、市民に公開した。展示会では、図録を作成し、全ての写真を掲載した。一方では、展示に伴い鏡の整理作業を進め、保管一覧や実測図を作成した。

その成果を以下に、掲載するものである。（梅木）

表１　青銅鏡一覧

No.	遺跡名	出土地	調査年月日	住所	鏡種	直径(cm)	残存面積(%)	重量(g)	残存	時代	保存処理	レントゲン	写真	実測	備考
1	朝日谷２号墳	A主体部	H元.4	朝日ヶ丘 1丁目	二禽二獣鏡	18.7	100	665.72	完鏡	3ｃ	Ｈ３年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第63集 後漢鏡
2	朝日谷２号墳	A主体部	H元.4	朝日ヶ丘 1丁目	斜縁二神二獣鏡	15.2	100	565	完鏡	3ｃ	Ｈ４年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第63集 後漢鏡
3	若草町遺跡	ＳＫ３	H元.1	若草町８	重圏文日光鏡	8.6	82.1	54.23	完鏡	弥生	H元年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	前漢鏡 一部欠損
4	若草町遺跡	ＳＫ057	H元.1	若草町８	素紋鏡	3.9	90.8	7.69	完鏡	弥生	Ｈ５年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	
5	若草町遺跡	B5·No.4	H元.1	若草町８	不明	(8.2)	7.0	6.74	破片	弥生	Ｈ５年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	同一個体か?
6	若草町遺跡	B5·No.2	H元.1	若草町８	不明	不明	不明	2.12	破片	弥生	Ｈ５年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	(他に細片あり)
7	伝·岩子山古墳群			別府町	乳文鏡	9.4	81.6	77.17	完鏡	古墳	Ｈ６年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	一部欠損
8	古照遺跡８次調査	SK1(墓)	H4.4	南江戸 4丁目1−1	湖洲六花鏡	10.7	100	95.18	完鏡	中世	Ｈ６年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第53集
9	古照遺跡１次調査		S48	南江戸 4丁目	不明	(13.4)	2.9	8.13	破片	弥生～古墳	Ｈ６年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第４集
10	久米大池北東古墳			平井町	方格規矩渦文鏡	11.2	88.1	150.46	完鏡	古墳	Ｈ６年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H5年竹本寄贈 一部欠損
11	伝·岩子山古墳群				五鈴鏡(珠文鏡系)	8.4	88.7	53.96	完鏡	古墳	Ｈ７年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	鏡面布痕
12	久米乃万の裏遺跡	SK1(墓)	S49	北久米町	和鏡（梅花鏡）	5.6	100	41.18	完鏡	中近世	Ｈ７年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第17集 種物痕（紐）
13	鷹子柳ヶ谷古墳			鷹ノ子町	捩文鏡	7.0	100	28.77	完鏡	古墳	Ｈ７年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H5竿竹本寄贈 鏡面布痕
14	かいなご古墳	１号墳（石室内）	S46	平井町谷之内	捩文鏡	(7.1)	70.5	17.78	完鏡	古墳	Ｈ８年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第6第 一部欠損
15	東山鳶が森古墳	６号墳	S54	東石井町270	不明	(10.2)	5.3	14.02	破片	古墳	Ｈ８年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第15集
16	天山１号墳	石室内	S46.12	天山町294	半円方形帯神獣鏡	19.3	100	810	完鏡	古墳	H13年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第２集
17	鷹ノ子町遺跡１次	ＳＫ３（木棺墓）	H元.4	鷹ノ子町 94−３	八稜鏡	7.4	75.8	6.14	完鏡	10ｃ代	H12年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第27集 一部欠損
18	空田池中島古墳			平井町	五鈴六乳鏡	9.5	88.8	67.07	完鏡		Ｈ８年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H5年竹本寄贈 一部欠損
19	溝辺横谷古墳				五鈴六乳鏡	9.1	100	54.44	完鏡	古墳	Ｈ９年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H8年濱田寄贈
22											H11年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H9年柳原寄贈
20	東本遺跡４次調査	ＳＢ302	Ｈ６	東本４丁目	後漢鏡	(14.2)	6.8	19.5	破鏡	弥生末	Ｈ６年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第54集
21	釜ノ口遺跡8次調査	ＳＤ３	Ｈ７	小坂４丁目	後漢鏡	(8.7)	13.6	11.61	破鏡	弥生末～古墳初	Ｈ８年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	報第60集
23	出土地不明				内行花文鏡	12.2	100	141.48	完鏡	弥生	H10年度処理済	京都造形芸術大学	○	○	H9年柳原寄贈

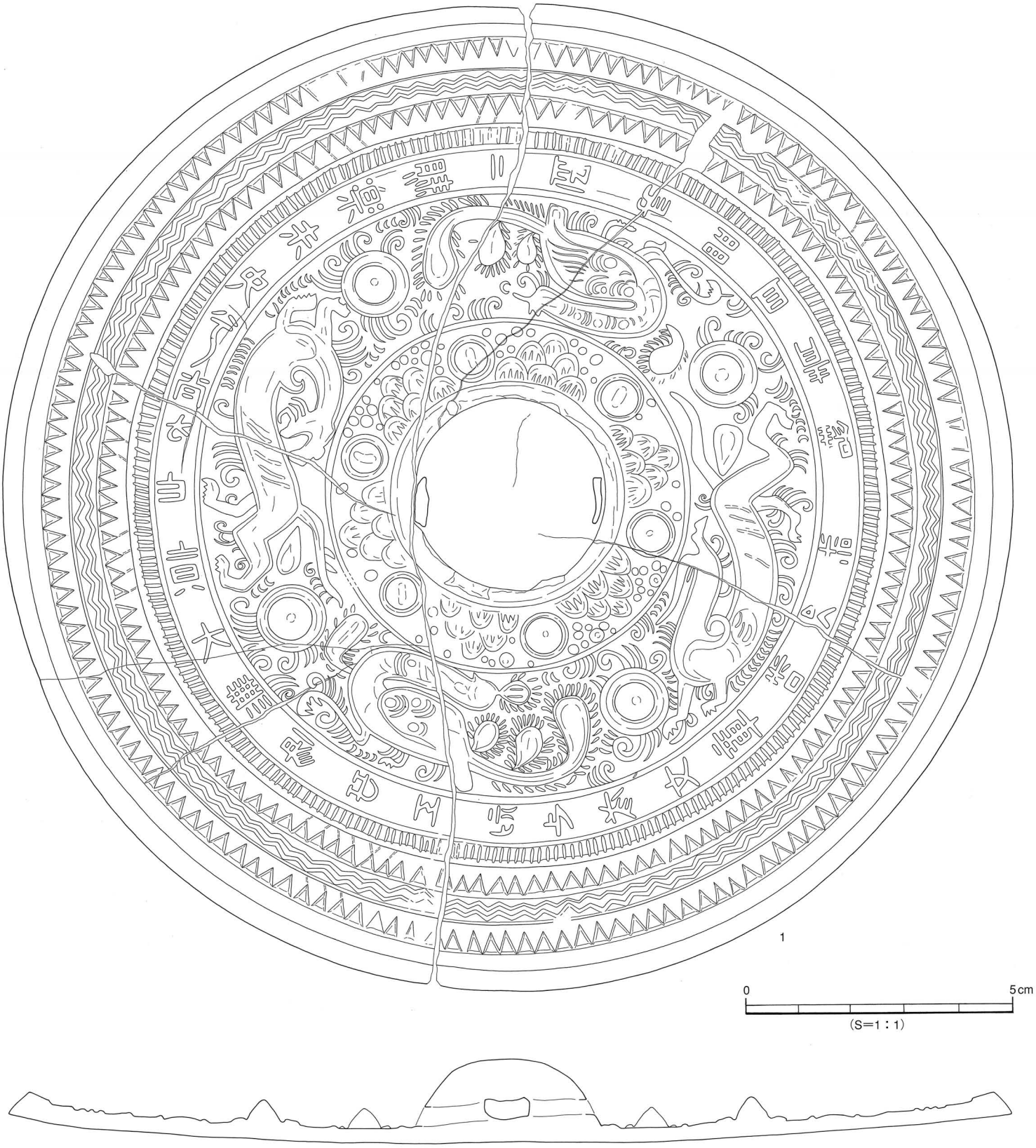


図１　青銅鏡実測図（1）

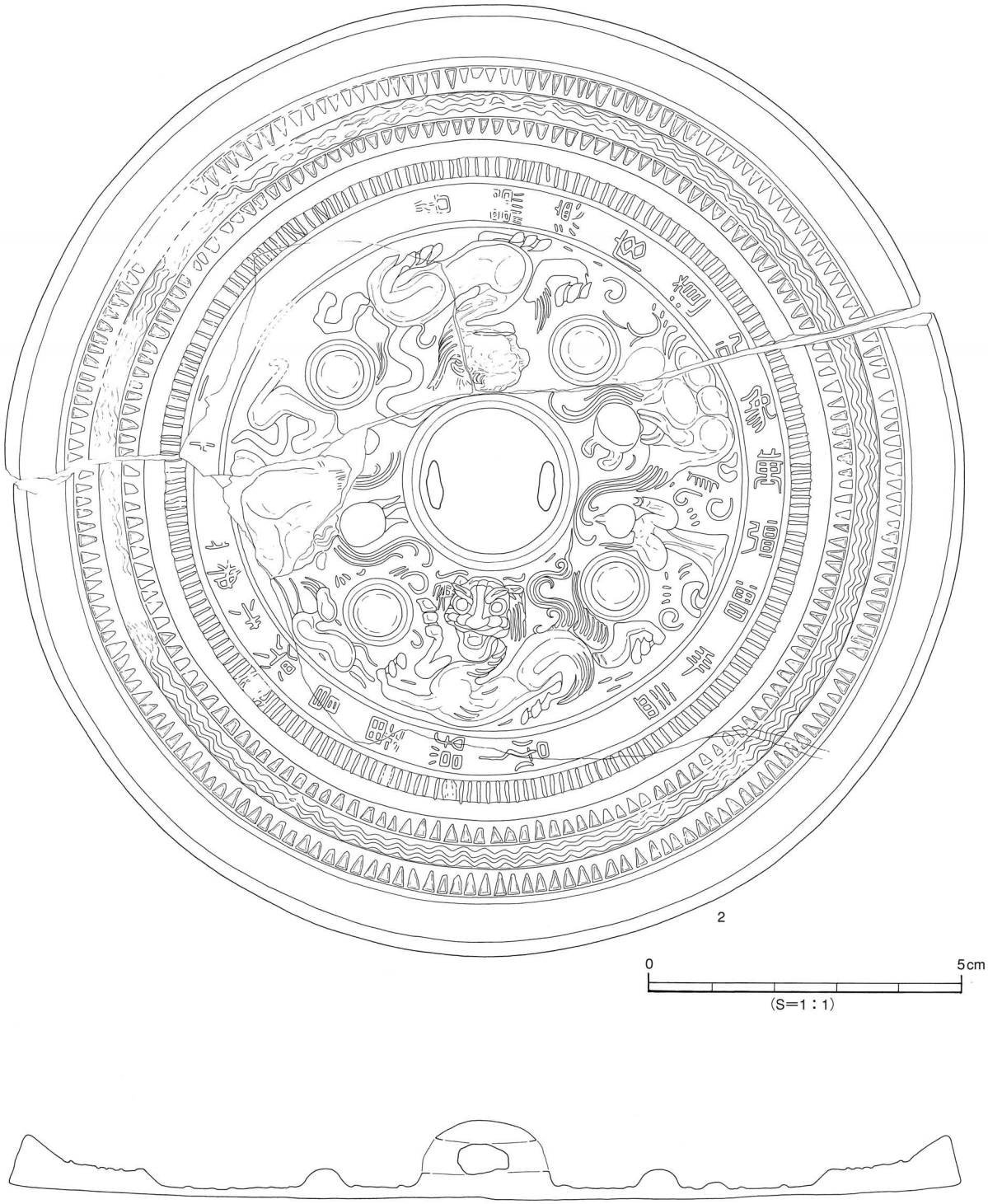
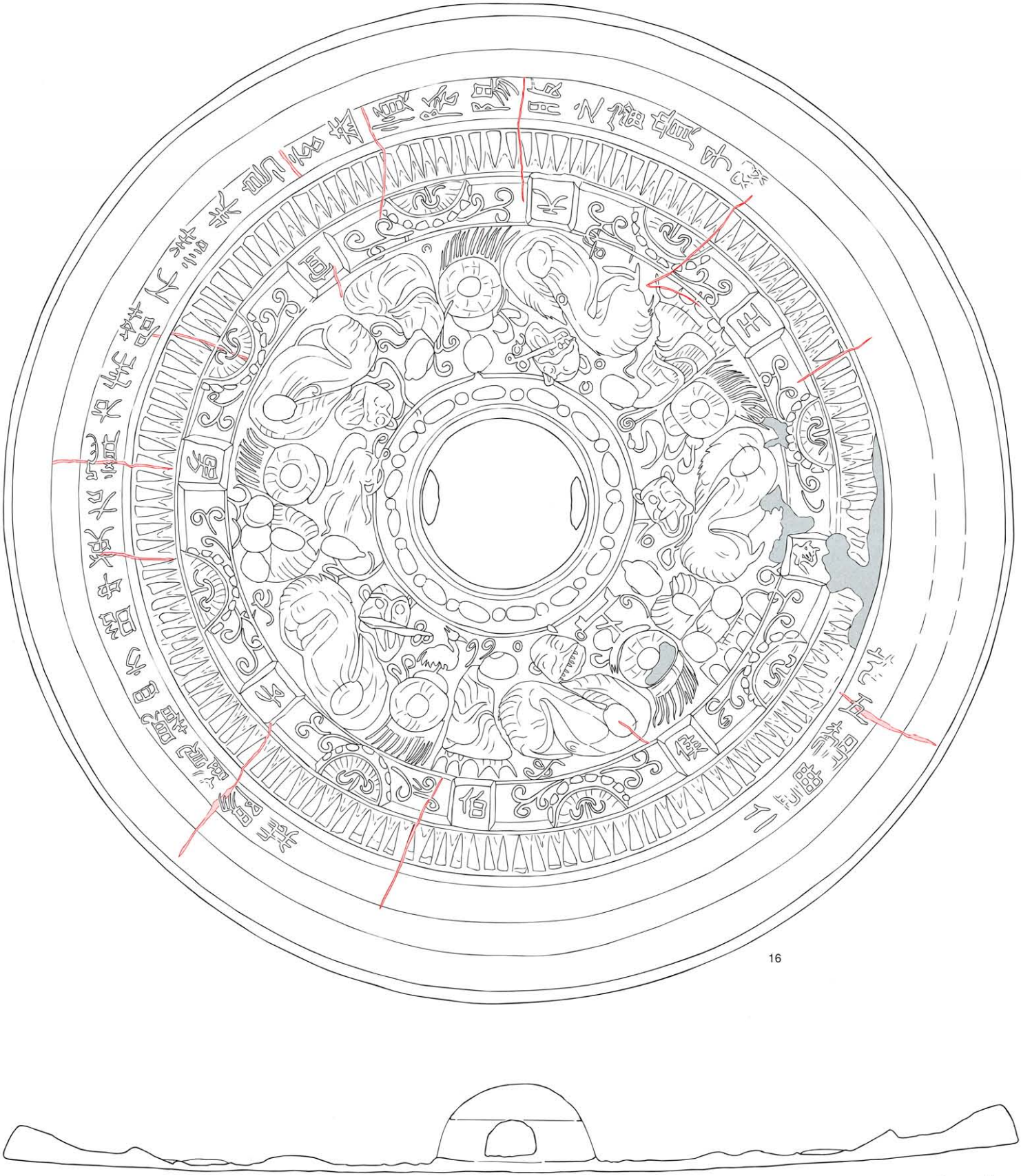


図２　青銅鏡実測図（2）



(S=1：1)

図3　青銅鏡実測図（3）

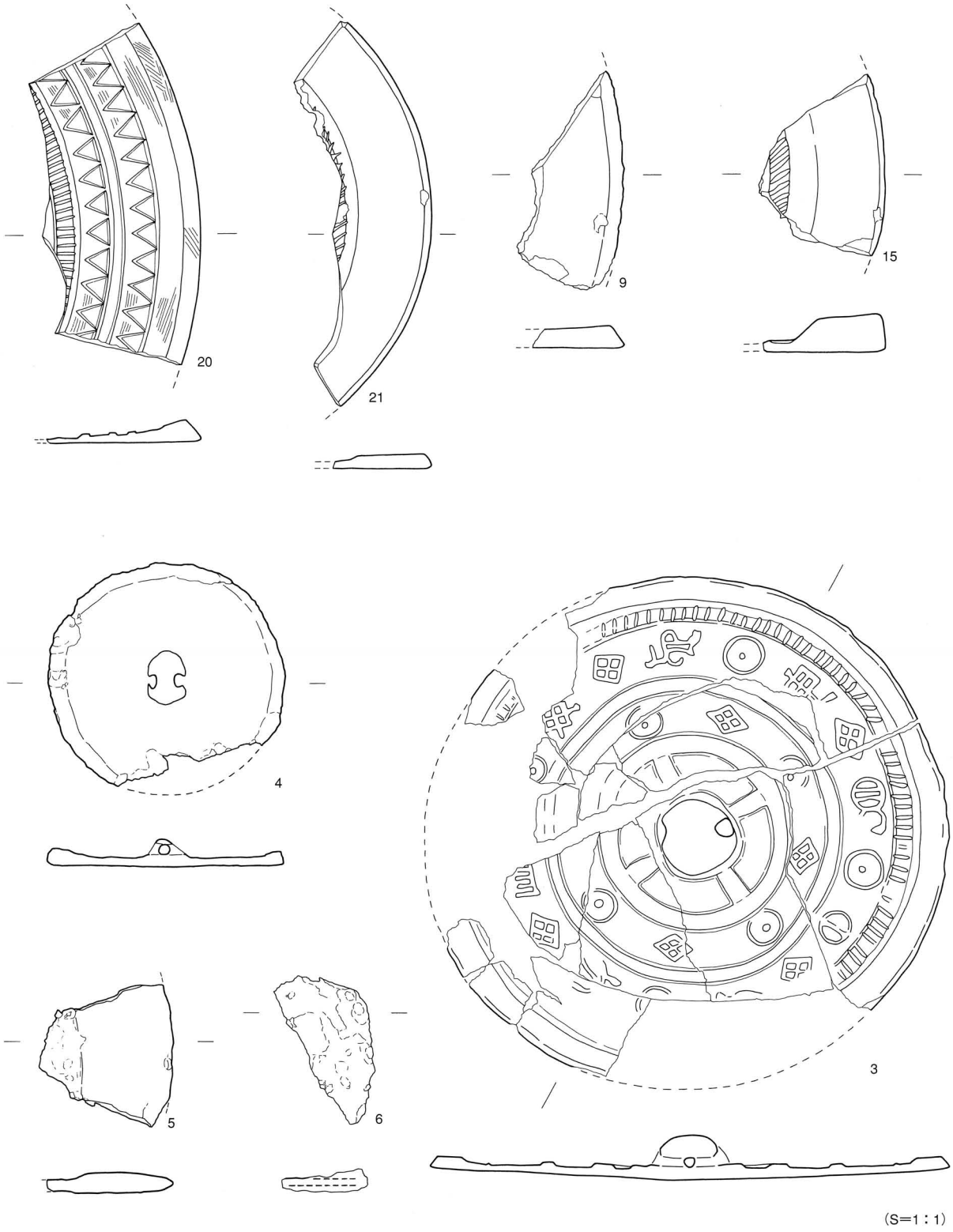


図4　青銅鏡実測図（4）

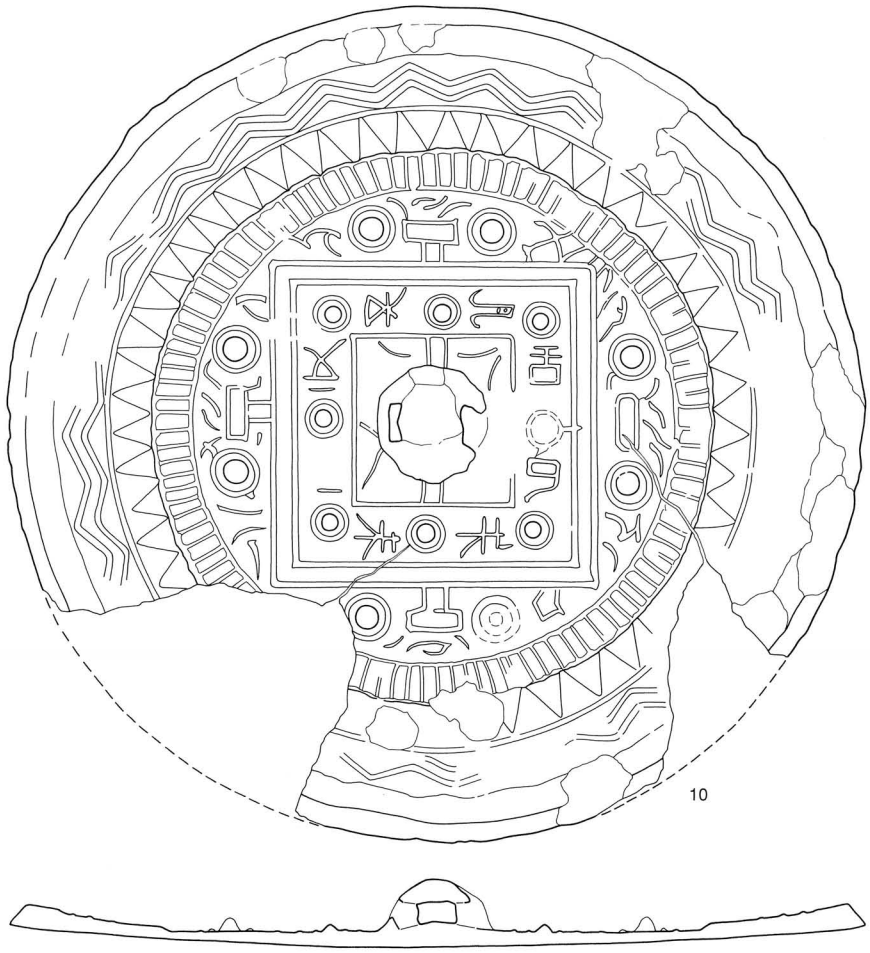
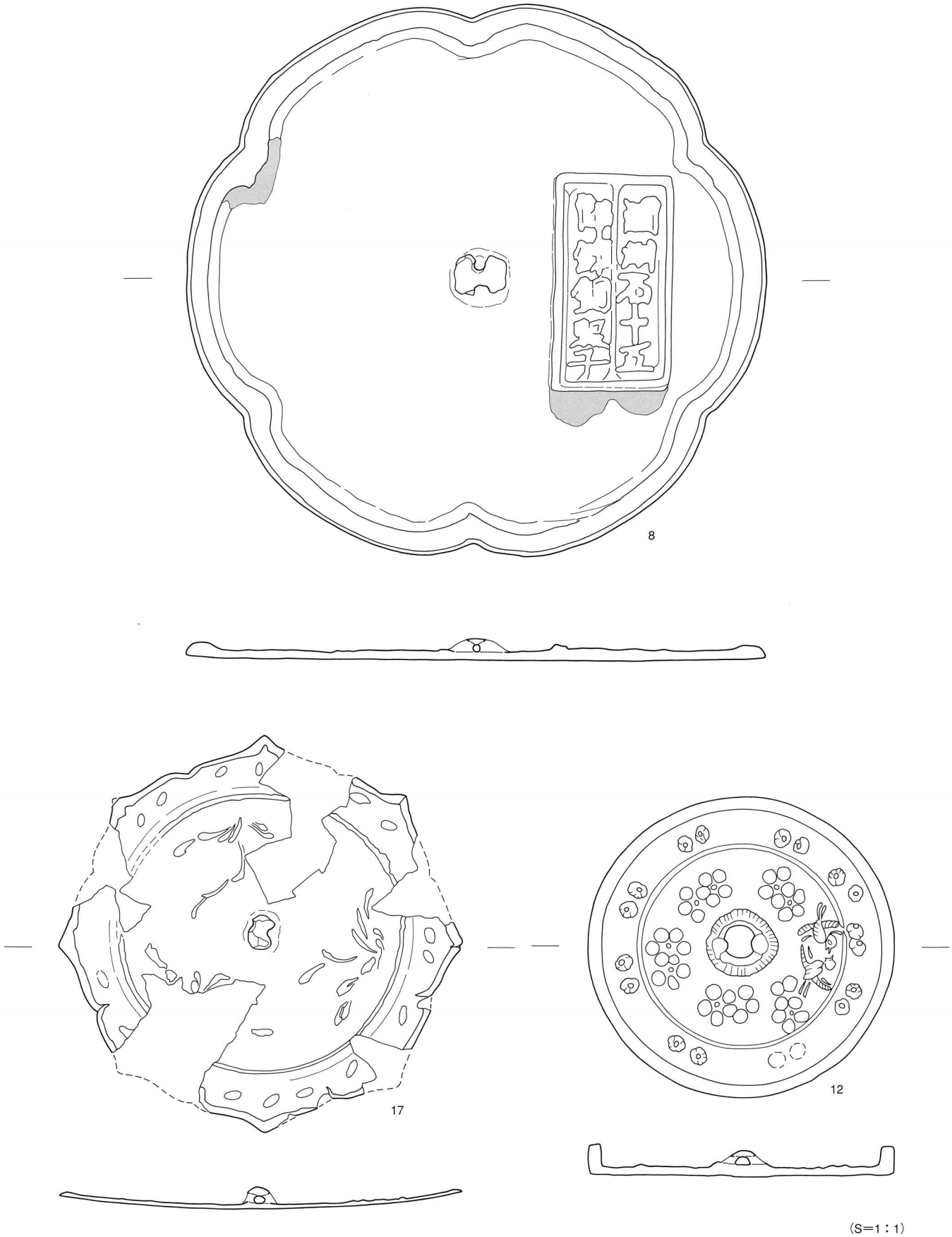


図５　青銅鏡実測図（5）

(S=1：1)



(S=1：1)

図6　青銅鏡実測図（6）

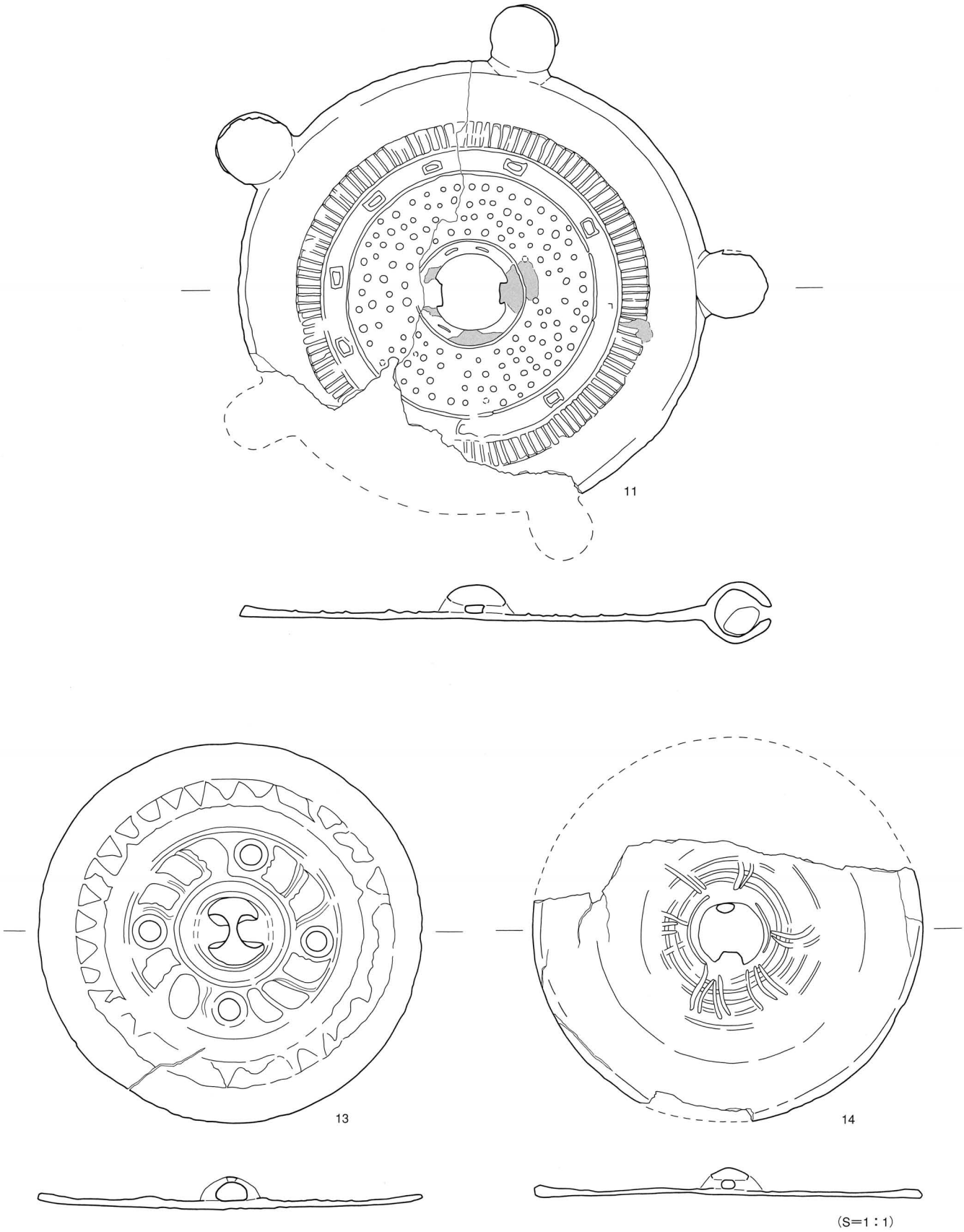


図７　青銅鏡実測図（7）

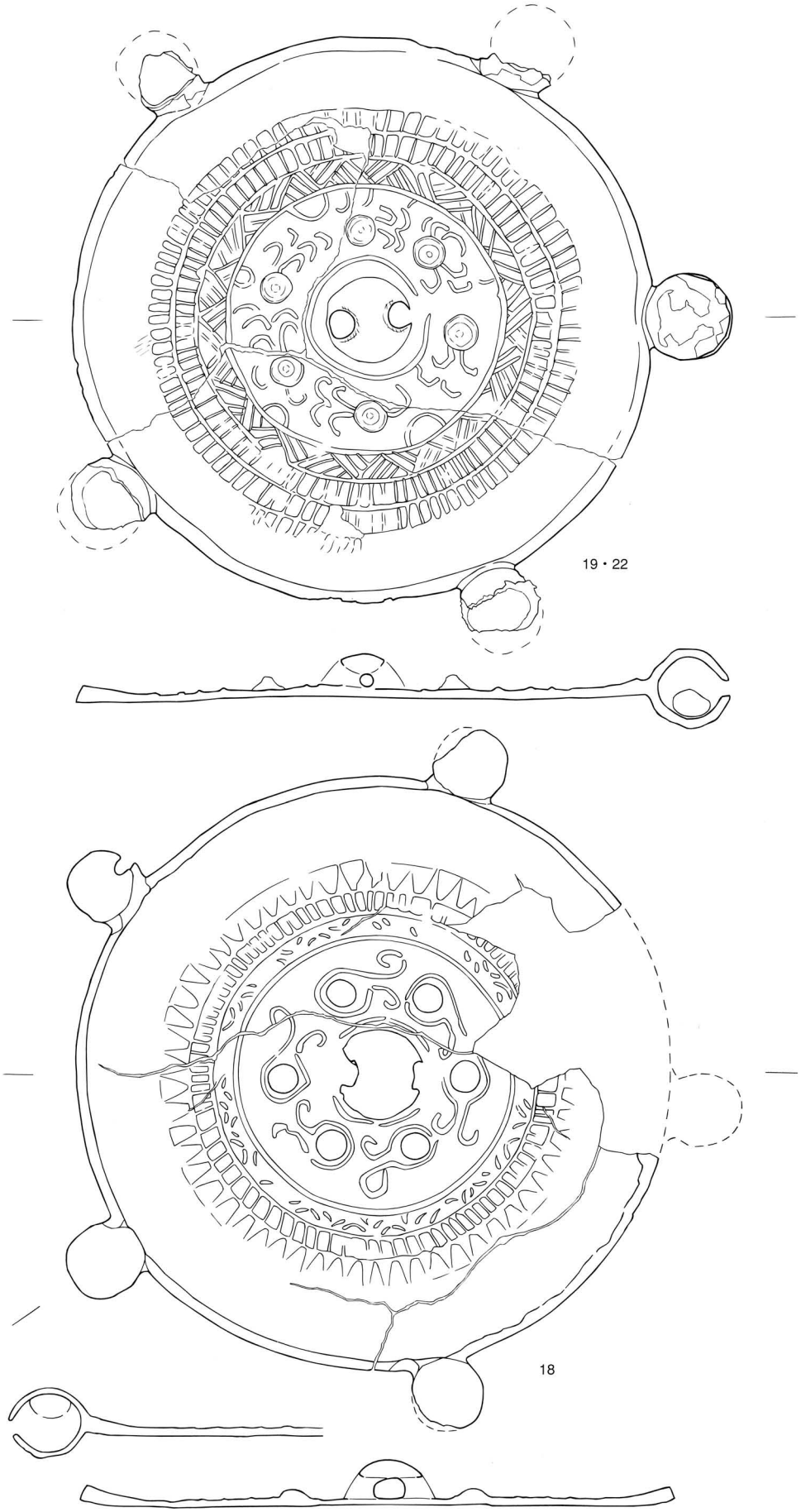


図８　青銅鏡実測図（8）　(S=1：1)

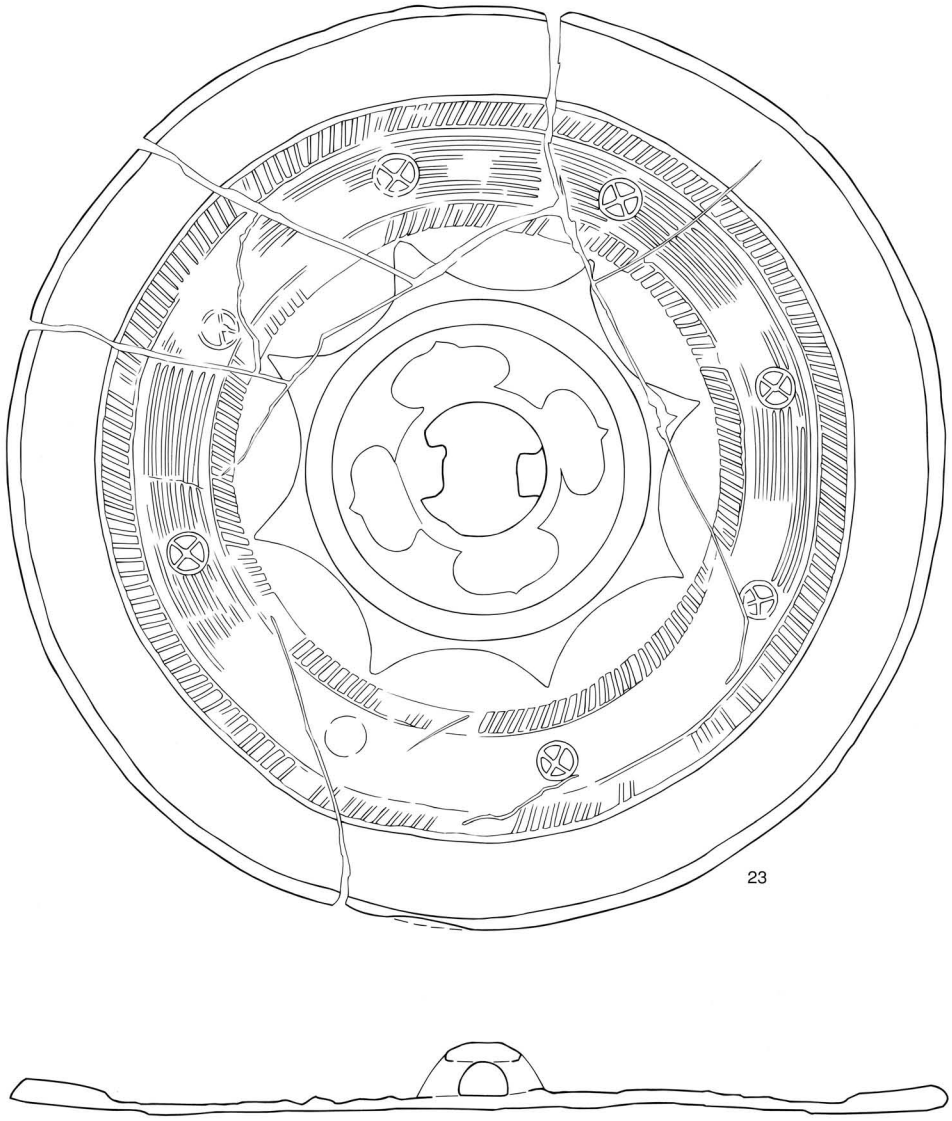


図９　青銅鏡実測図（9）

（S=1：1）

西南四国系土器

愛媛県は東西に長く、川之江市～今治市までの東予、松山市を主体とする中予、豊後水道に面する南予となる。近年、南予での本格的な発掘調査が進み、南予～高知県西部（幡多）に特徴的な土器群の存在が明らかになってきた。松山平野でも注意してみると、過去において、類似品の出土があり、県内の交流事態を把握する良好な資料となる。したがって、今年度に整理作業を進め、一覧表と実測図を作成し、一括保管を行った。対象資料は23点であった。なお、調査においては、下條信行（愛媛大学法文学部教授）先生には資料についての指導を賜り、出原恵三・坂本憲昭・久家隆芳（高知県埋蔵文化財センター）の各氏には多くの助言を得た。（梅木）

表２　西南四国系土器一覧

番号	遺　跡　名	出　土　地	器種	口径(cm)	器高(cm)	残高(cm)	底径(cm)	時　　期	文　献	備　　考
1	中村松田	ＳＢ４	甕	(27.2)		3.4		弥生後期後葉	第59集－31	豊後系土器共伴
2	釜ノ口７次	ＳＢ１	甕	(18.6)		8.1		弥生後期前葉～中葉	第60集－３	
3	福音小学校構内	土器溜まり	甕	(14.5)		8.9		弥生後期後葉	第50集－未	
4	来住廃寺15次	Ⅶ層	甕	(22.6)		3.0		弥生中期後葉	第34集－未	
5	来住廃寺15次	Ⅶ層	甕	(22.0)		2.2		弥生中期後葉	第34集－未	
6	来住廃寺18次	Ⅵ層	甕	(19.4)		11.4			第44集－95	
7	来住廃寺18次	１区Ⅵ層	甕	(16.8)		8.2			第44集－未	
8	久米窪田古屋敷	Ａ区ＳＫ５	甕	(20.0)		23.6		弥生中期中葉	木耳社－113	搬入品
9	久米窪田古屋敷	Ａ区ＳＤ３	甕	(25.6)		8.1			整理中	
10	釜ノ口９次	ＳＤ３　１区	甕	(19.0)		(20.5)		弥生後期中葉	整理中	
11	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	(17.6)	33.0		6.2	弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
12	釜ノ口９次	ＳＤ３　６区	甕	13.6		18.9		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
13	釜ノ口９次	ＳＤ３　６区	甕	(15.1)		4.7		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
14	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	(14.0)		3.2		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
15	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	(18.4)		21.4		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
16	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	19.2		15.1		弥生後期中葉	整理中	搬入品･豊後系土器共伴
17	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	(14.8)		12.3		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
18	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	(17.4)		5.2		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
19	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	甕	20.8	30.2		7.2	弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
20	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	壺	(15.2)		3.6		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
21	釜ノ口９次	ＳＤ３　６区	壺	(16.1)		1.9		弥生後期中葉	整理中	赤色顔料･豊後系土器共伴
22	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区	壺	(13.5)		2.1		弥生後期中葉	整理中	豊後系土器共伴
23	中村松田２次	ＳＤ１	甕	(17.1)		22.4		弥生後期後半	整理中	

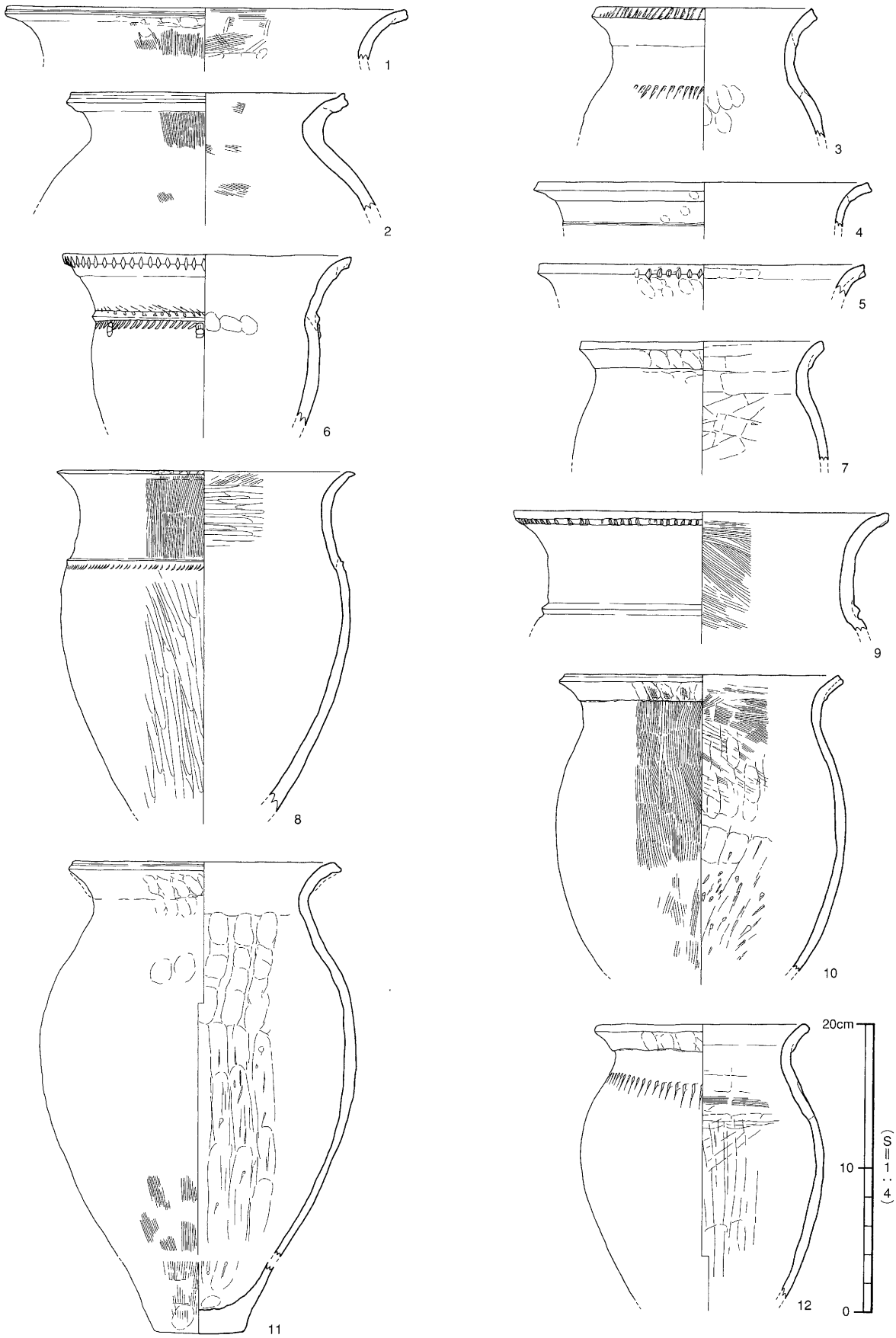


図10　西南四国系土器実測図（1）

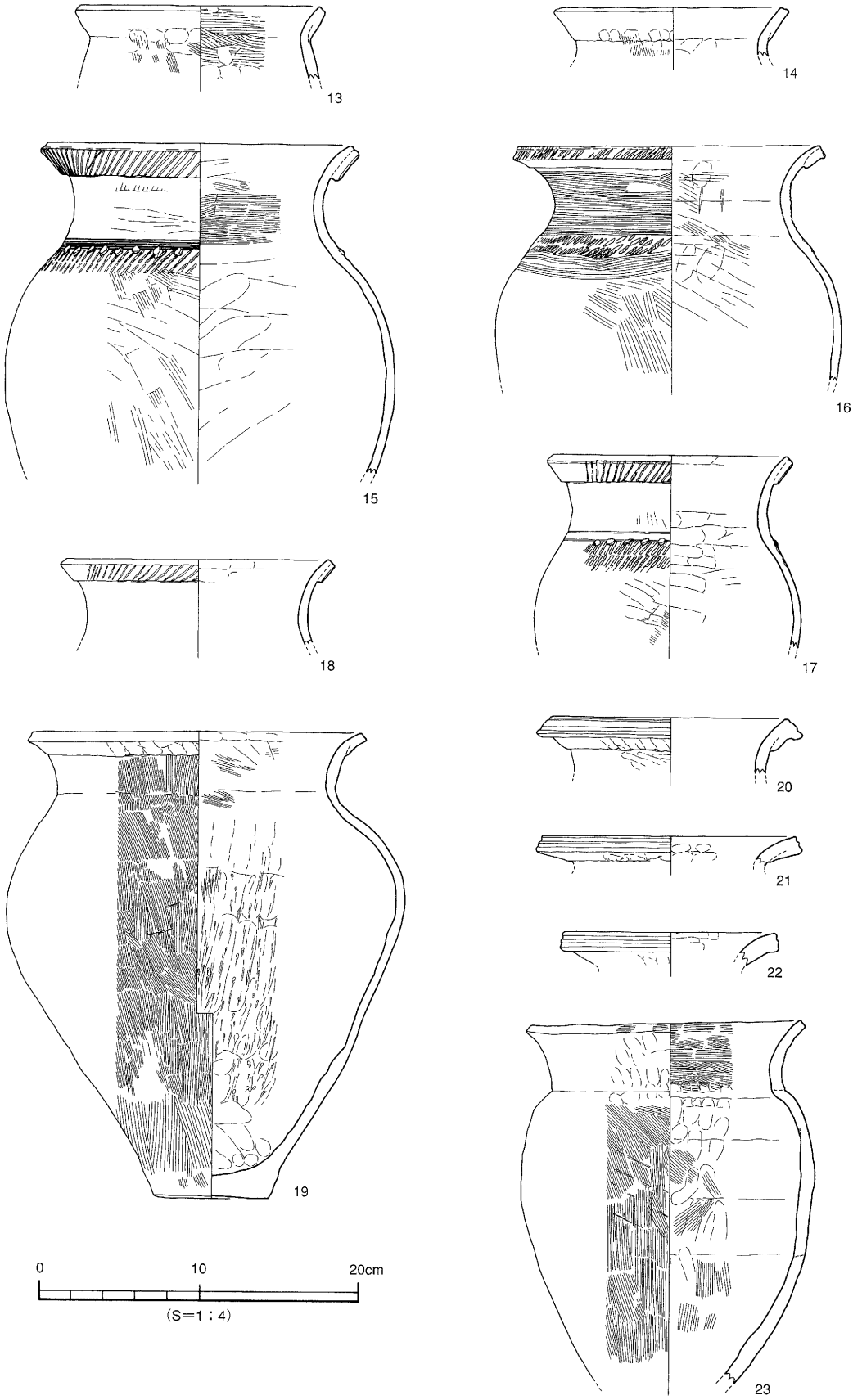


図11　西南四国系土器実測図（2）

豊後安国寺系壺

南予地方の弥生土器（西南四国系土器）を整理するにあたり、豊後安国寺系土器の出土も確認し、松山と豊後との関係を示す資料を得た。この種の土器は、南予においても分布が認められるので、西南四国系土器の整理作業と併せて保管品での収集を試みた。資料整理は一覧と実測図を作成し、一括保管した。その結果、18例の類例品が確認された。資料の非否を確認するために、下條信行（愛媛大学法文学部教授）先生に調査指導を賜り、大分県下の土器に詳しい高橋徹（大分県教育庁）・坪根伸也（大分市教育委員会）の両氏にご教示と助言を得た。

なお、報告書が未刊行の資料は、報告書刊行時に若干の時期変更が生じることもあり、ご留意いただきたい。（梅木）

表３　豊後安国寺系壺一覧

番号	遺　跡　名	出　土　地	口径(cm)	器高(cm)	残高(cm)	底径(cm)	時　期	文　献	備　考
1	岩崎	Ⅵ区　第Ⅴ層	(24.0)		3.0		弥生中期後葉	第71集－Ⅵ535	
2	文京２次	ＳＢ４	(25.0)		3.0		弥生後期初頭	第28集－25	
3	松山大学構内３次	ＳＲ１上層	(19.0)		5.3		弥生後期前葉	第49集－1140	
4	松山大学構内３次	ＳＲ１上層	16.5		20.3		弥生後期前葉	第49集－1180	
5	松山大学構内３次	ＳＸ３	(25.2)		4.1		弥生終末～古墳初頭	第49集－1264	
6	松山大学構内３次	ＳＸ３			5.8		弥生終末～古墳初頭	第49集－1268	搬入品
7	松山大学構内３次	ＳＲ１上層			8.2		弥生後期前葉	第49集-1269·1445	接合
8	松山大学構内３次	Ｅベルト			4.7		弥生中期後葉～後期前葉	第49集－1627	
9	松山大学構内３次	ＳＲ１　⑤区			3.3		弥生後期前葉～中葉	第49集－1773	
10	松山大学構内３次	ＳＲ１　⑤区			5.6		弥生後期前葉～中葉	第49集－1774	
11	松山大学構内３次	Ｂベルト			5.5		不明	第49集－1842	
12	釜ノ口９次	ＳＤ３　６区	(22.1)		43.8		弥生後期中葉	整理中	搬入品·西南四国系土器共伴
13	釜ノ口９次	ＳＤ３　拡張区			4.3		弥生後期中葉	整理中	西南四国系土器共伴
14	釜ノ口９次	ＳＤ２	23.3	36.3		5.0	弥生後期中葉	整理中	搬入品·西南四国系土器共伴
15	中村松田	ＳＢ４			2.1		弥生後期後葉	第59集－89	西南四国系土器共伴
16	中村松田２次	Ａ区	(19.0)		3.0			整理中	
17	祝谷六丁場	２区			8.0			第24集－141	
18	川附	ＳＤ５	(26.0)		2.0		弥生後期後葉	第52集－27	

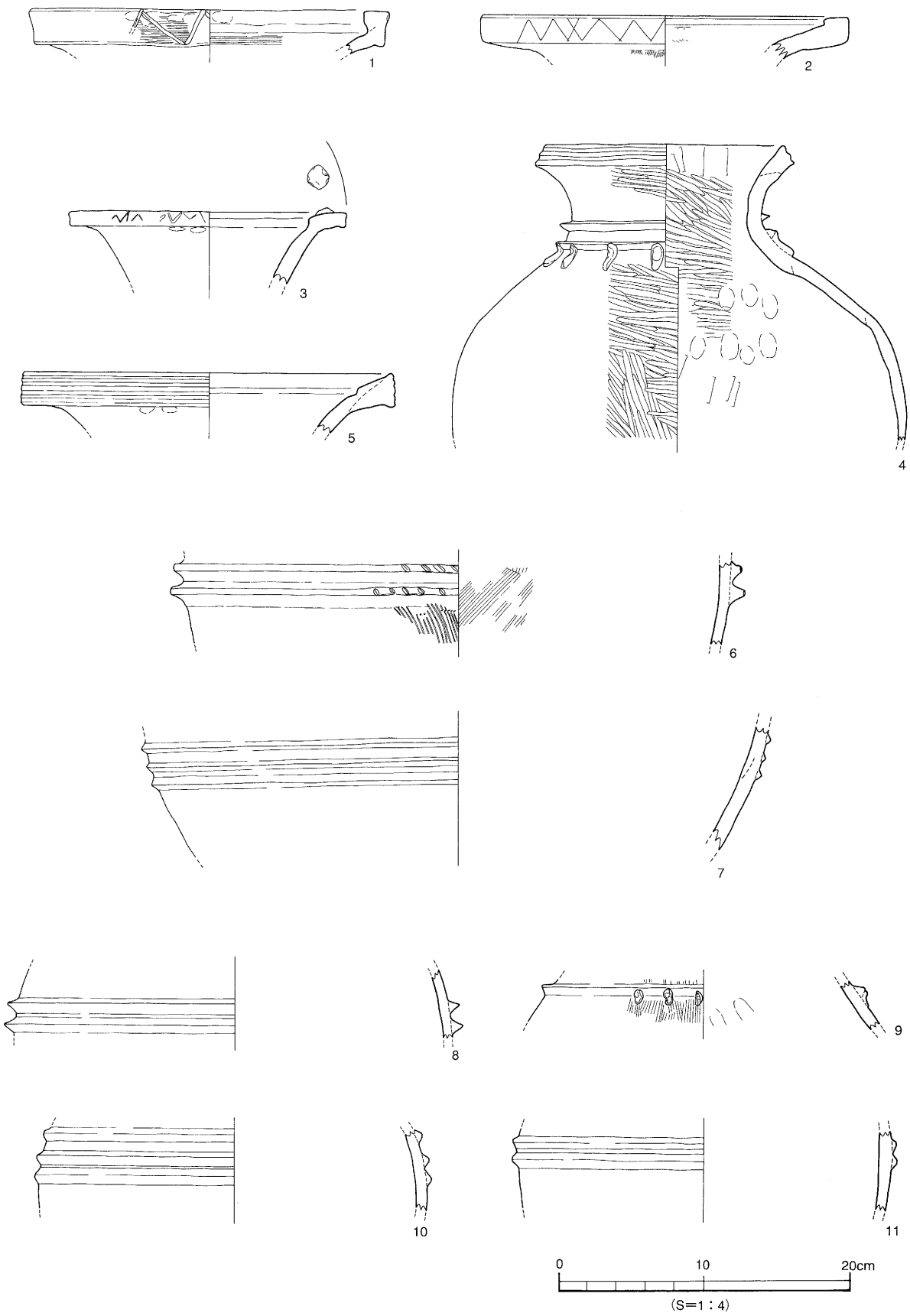


図12　豊後安国寺系壺実測図（1）

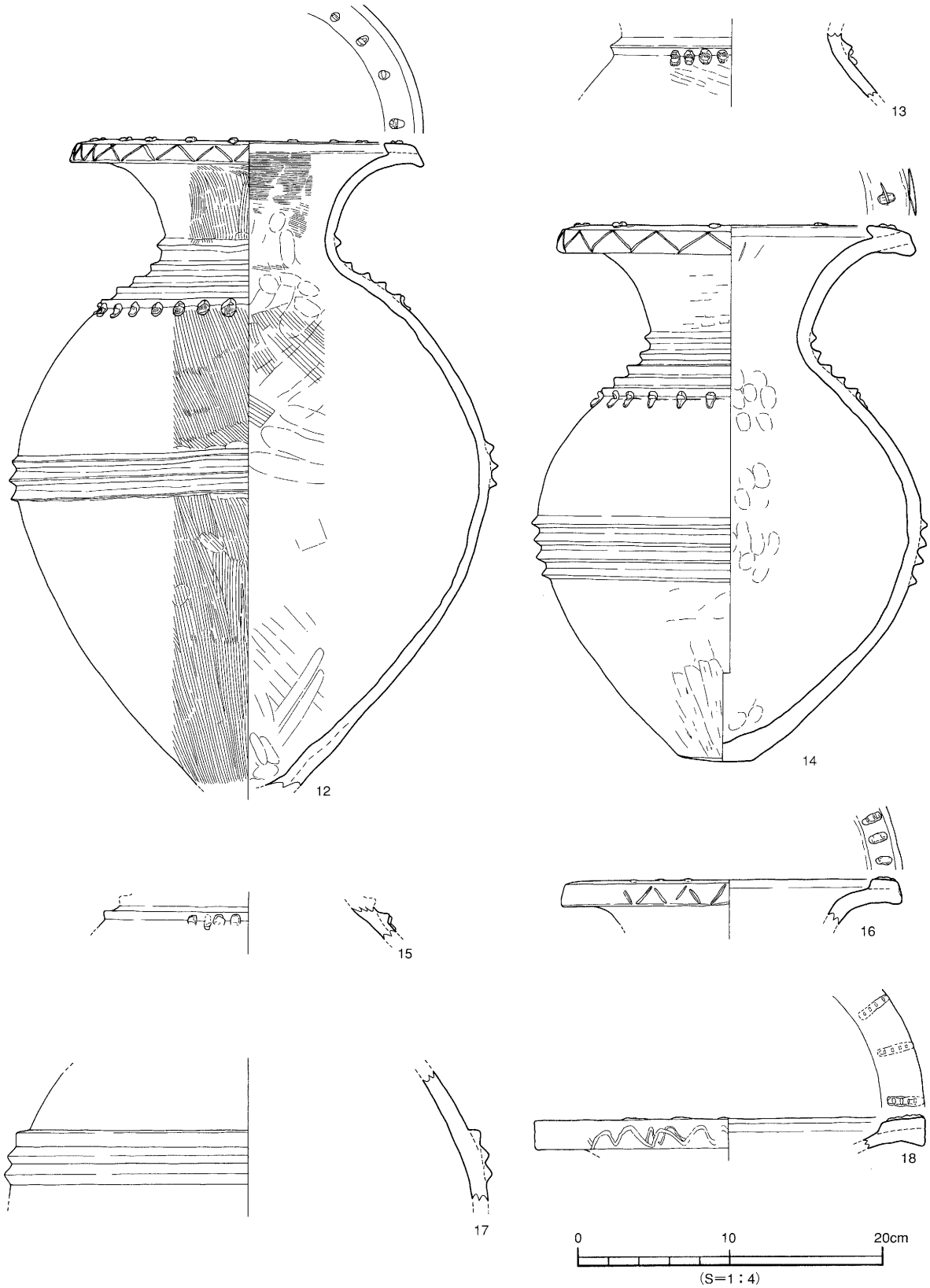


図13　豊後安国寺系壺実測図（2）

吉備系甕

平成13年12月に、庄内式土器研究会が当センターで開催された。この会に伴い、庄内期前後の土器の資料調査が進められ、幾つかの地方の土器が松山平野で出土していることを確認した。

したがって、関係資料を把握するために、資料の整理を進めた。資料は一覧と実測図を作成し、一括保管した。その結果、該当資料は4遺跡7例を確認した。資料化の充実をはかるために、古代吉備文化財センターと財団法人香川県埋蔵文化財センターを訪ね出土品の鑑定と資料化についての指導を受けた。さらには、高橋護（ノートルダム女子大学教授）先生に多くのご教示と助言を賜った。

その結果、岡山からの搬入品とされるものと、模倣品と考えるものとがあることを知るに至った。

（梅木）

表4　吉備系甕一覧

番号	遺跡名	出土地	口径(cm)	器高(cm)	残高(cm)	底径(cm)	胎土	時期	文献	備考
1	宮前川津田第Ⅰ地区	第1調査地ＳＢ4	12.9		17.8		石･長･ウ･角(少)･赤土	後期Ⅲ－3	第18集－22	
2	大渕3次	ＳＲ7	(17.3)		3.4		石・長・角（少）	後期Ⅲ－3～古照Ⅱ	第78集－119	搬入品
3	大渕3次	堀立1　Ｐ2			2.4		石・長・角	後期Ⅲ－3～古照Ⅱ	第78集－353	搬入品
4	谷町	ＳＢ1内ＳＫ①			2.5		石・長	後期Ⅲ－2～3	第64集－177	
5	谷町	第Ⅴ層(SB1か)	(19.6)		1.6		石・長・ウ・赤土	後期Ⅲ－2～3	第64集－232	
6	谷町	第Ⅴ層(SB1か)			3.1		石･長･角(少)･赤土	後期Ⅲ－2～3	第64集－237	搬入品
7	西石井	ＳＤ201－2	15.5	24.3		4.9	石・長・角・赤土	後期Ⅲ－2～3	整理中	搬入品

石：石英、長：長石、ウ：ウンモ、角：角閃石、赤土：赤色土粒

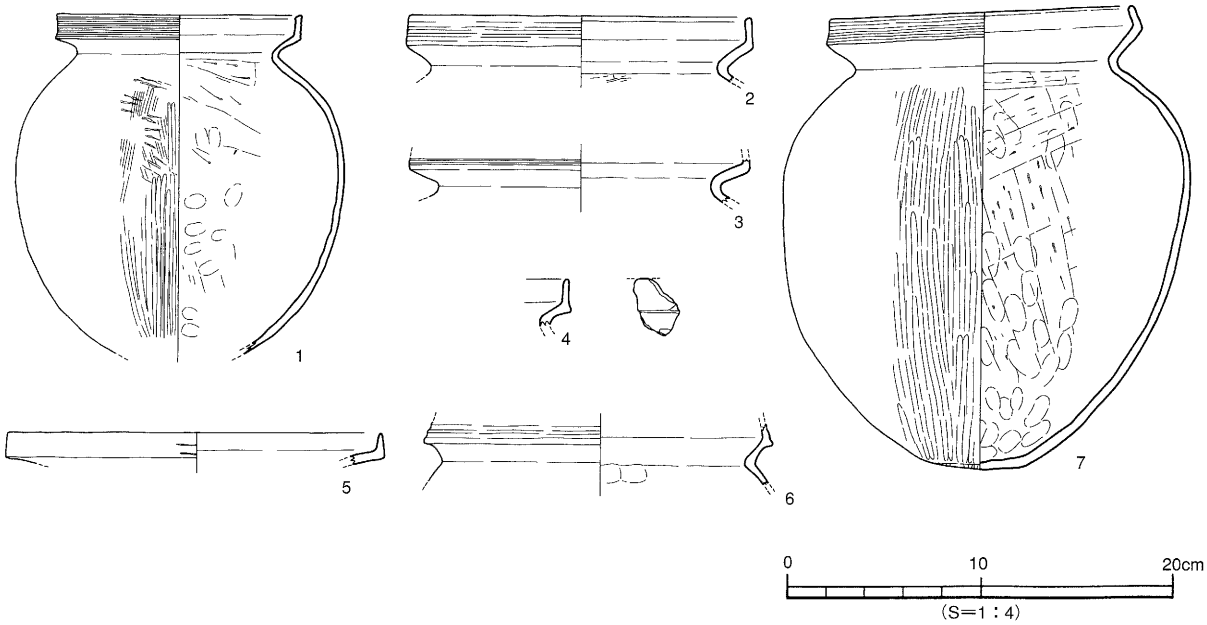


図14　吉備系甕実測図

4．自然科学分析

Ⅰ．関太郎氏採取資料・Ｅ地点の種実同定

株式会社　古環境研究所

1．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2．試　料

試料は、松山神社参道右手のＥ地点から出土した２点の種実（№２、№３：破片）である。

3．方　法

肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4．結　果

分析の結果、２点の種実はいずれもモモと同定された（表１）。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

モモ　Prunus persica Batsch　核　バラ科

黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある（写真11）。

5．考　察

松山神社参道右手のＥ地点から出土した２点の種実（№２、№３）は、いずれもモモと同定された。モモは縄文時代末～弥生時代に伝来した栽培植物で、弥生時代以降は一般的に栽培されていたと考えられる。

〔文　献〕

南木睦彦　1991　「栽培植物」『古墳時代の研究　第４巻　生産と流通Ⅰ』雄山閣出版株式会社、p.165-174.

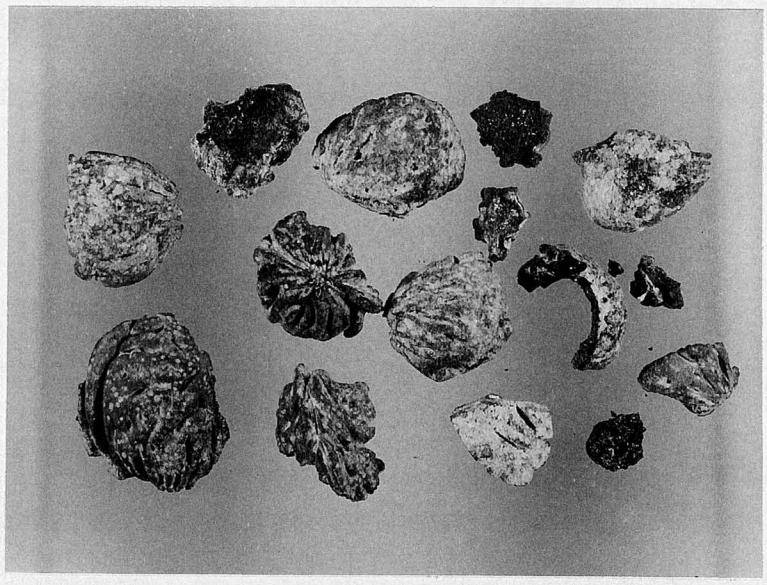
南木睦彦　1992　「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル　№355』ニューサイエンス社、p.18-22.

南木睦彦　1993　「葉・果実・種子」『日本第四紀学会編　第四紀試料分析法』東京大学出版会、p.276-283.

金原正明　1996　「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル　№409』ニューサイエンス社、p.15-19.

表１　松山神社参道右手のＥ地点出土種実同定結果

試料	分類群（和名／学名）		部位	個数
No. 2	モ　モ	Prunus persica Batsch	核	破片
No. 3	モ　モ	Prunus persica Batsch	核	破片



預かりNo. 2

― 1.0mm

預かりNo. 3

― 1.0mm

写真11　Ｅ地点出土の種実

Ⅱ．関太郎氏採取資料・Ｅ地点の樹種同定

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試　料

試料は、松山神社参道右手のＥ地点から出土した２点の炭化材である。

３．方　法

試料を割折して木材の新鮮な基本的三断面（横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４．結　果

結果を表２に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

カバノキ属？　Betula?　カバノキ科　（写真12 №４）

横断面：中型からやや小型の道管が、まばらに散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10数本である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で、１～３細胞幅である。

以上の形質はカバノキ属に酷似するが、本試料は保存状態が悪く、広範囲の観察が困難なことから、確実な同定には至らなかった。

コナラ属アカガシ亜属　Quercus　subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　（写真12 №５）

横断面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

５．所　見

分析の結果、松山神社参道右手のＥ地点から出土した炭化材は、カバノキ属？およびコナラ属アカガシ亜属と同定された。カバノキ属には、ミズメ、ウダイカンバ、シラカンバ、オノオレカンバなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉の高木または低木である。コナラ属アカガシ亜属には、アカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがある。本州、四国、九州に分布する常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。

〔文　献〕

佐伯　浩・原田　浩　1985　「針葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版、p.20-48.

佐伯　浩・原田　浩　1985　「広葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版、p.49-100.

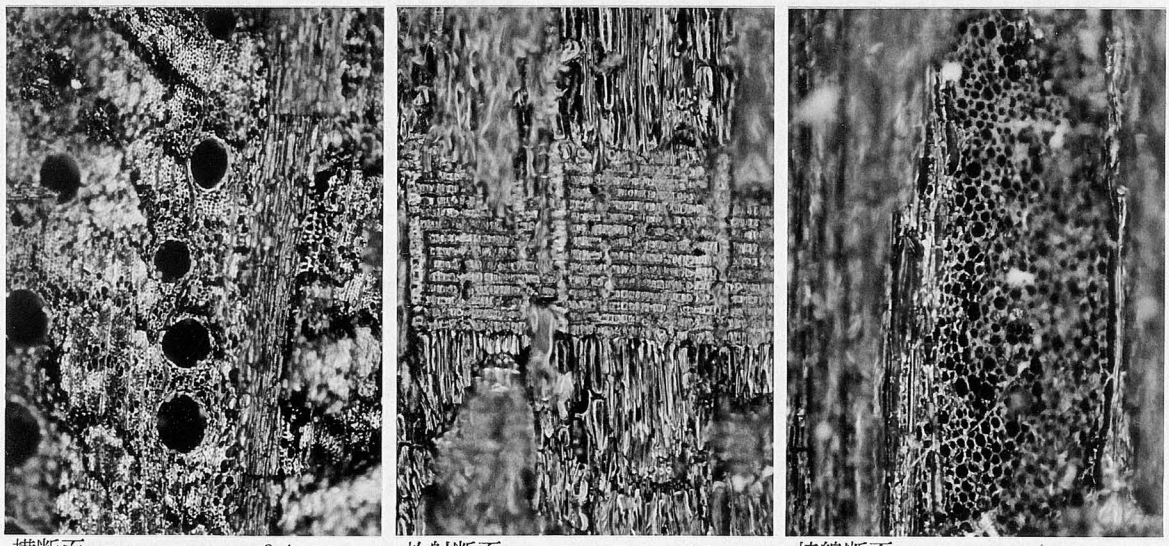
島地　謙・伊東隆夫　1988　『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣、p.296.

表２　松山神社参道右手のＥ地点出土樹種同定結果

試料	結　果（和名／学名）	
No. 4	カバノキ属？	Betula ?
No. 5	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

No.4　カバノキ属？



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

No.5　コナラ属アカガシ亜属

写真12　Ｅ地点出土の炭化材

Ⅲ．松山市道後地区出土の人骨

松下　孝幸

キーワード：愛媛県、時代不明人骨、頭蓋片、歯槽性突顎、男性、壮年

1．はじめに

財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（松山市考古館）に関太郎氏が寄贈された遺物の中に人骨片が含まれており、この人骨の鑑定を依頼された。寄贈されたのは2000年で、遺物の整理にあたられた梅木謙一氏によれば、人骨は昭和20年代に松山市道後地区から採集されたものらしく、関氏は採集地点が特定できないが、同輩の名本二六雄氏は道後地区内の常信寺裏山で、石に囲まれた状態で出土したものではという。

人骨の量そのものは少ないが、保存状態は良好である。人骨の計測はできなかったが、人類学的観察をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

2．資料及び所見

関太郎氏から寄贈された７点の人骨のうち１点（小片）は四肢骨の一部であるが、その他の６点は頭蓋片である。頭蓋の残存部分は図15に示した。これらの頭蓋片は重複する部分がなく、骨質や厚さもほぼ同じであることから、同一個体と考えてもよさそうである。この７点の人骨片にそれぞれ番号をつけた（Ｓ－１～Ｓ－７）。本人骨の出土状況は石で囲まれていたということしかわからない。おそらく埋葬された人骨だったと推測されるが、一緒に土器片などの遺物が伴っていないことから、時期を特定することができない。

（１）人骨所見（写真13）

Ｓ－１

右側頭頂骨の冠状縫合部分である。骨壁はやや厚い。観察できた冠状縫合は内外両板ともまだ開離していたようである。

Ｓ－２

右側頭頂骨の前部の骨片で、骨壁は厚く、矢状縫合の一部が観察できた。矢状縫合は内外両板ともまだ開離していたようである。

Ｓ－３

前頭骨左側部で、冠状縫合が一部観察できた。この部分は内外両板とも開離している。

Ｓ－４

四肢骨の小片である。緻密質が薄いので脛骨体（内側面）の一部かもしれない。

Ｓ－５

左側の側頭骨である。乳様突起はやや大きい。外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。

Ｓ－６

Takayuki　MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum　〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕

右側上顎骨である。骨表面と歯にはコンクリート様の皮膜が付着している。前頭突起の向きは矢状方向を呈しており、歯槽性突顎が認められる。歯槽突起には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

／／⑥５４３２１｜／／／／／／／／

〔○：歯槽開存、／：不明、番号は歯種〕

〔１：中切歯、２：側切歯、３：犬歯、４：第一小臼歯、５：第二小臼歯、６：第一大臼歯、７：第二大臼歯、８：第三大臼歯〕

咬耗度はBrocaの３度（咬耗が象牙質まで及ぶ）で、咬耗は強い。風習的抜歯の痕跡は認められない。

Ｓ－７

右側頭頂骨の前部の一部で、骨壁は厚い。矢状縫合が観察できたが、内外両板とも開離していた。

（２）体数の検討

７点の人骨には解剖学的にみて、重複する骨（部分）がないので、１体分の可能性が考えられる。しかし、すべてが別個体という可能性もあるので、その際は７体分ということになる。もう少し検討をしてみると、頭蓋片の外面はＳ－３を除いて、明るい褐色を呈しているが、Ｓ－３は白色である。また、上顎骨と歯にはコンクリート様の皮膜が付着している。これは石棺などの石材が融解し、上顎骨と歯に付着したような様態である。このように各骨によって若干色調が異なるが、同一個体であってもこれぐらいの差は生じる。また頭頂骨２片はともに骨壁が厚い。従って、この７片の骨からそれぞれがまったく別個体の一部とは考えにくく、すべてが同一個体に属する骨とみるのが妥当だろう。

（３）性別・年齢

性別は、７点の人骨が同一個体として考えて、乳様突起がやや大きいこと、頭蓋壁がやや厚いことから男性と推定した。年齢は冠状縫合や矢状縫合がまだ両板とも開離していたようなので、年齢は壮年であろう。なお、年齢区分は表３に示した。

（４）所属時代の推定

本人骨は考古学的に所属時代を特定することができない人骨である。人骨の特徴から時代を推定できないか、検討してみた。７点の人骨のうち特徴がよく表れているのは、右側上顎骨のみで、比較的強い歯槽性突顎が認められる。この歯槽性突顎は中世（鎌倉・室町時代）の特徴である。しかし、前頭突起の向きは矢状方向で、また骨表面にはコンクリート様の皮膜が付着しているなど、所属時代が古くなりそうな所見も認められる。歯槽性突顎はかならずしも中世人だけにみられる特徴ではない。縄文人骨など中世以外の人骨にもみられることはあるが、頻度は中世人骨に比べると低く、日本では中世人でもっとも出現率が高い特徴である。中世人の場合は、この歯槽性突顎だけではなく、同時に長頭性、鼻根部の扁平性がセットで出現する。本例の場合は、歯槽性突顎は見られるものの、前頭突起の向きが矢状方向を呈しており、鼻根部が扁平だったとは思えないのである。また、骨壁がやや厚いが、これくらいの厚さは中世人骨にもみられる。このような所見を総合すれば、本人骨の所属時期は、中世かそれ以前の人骨と思われる。

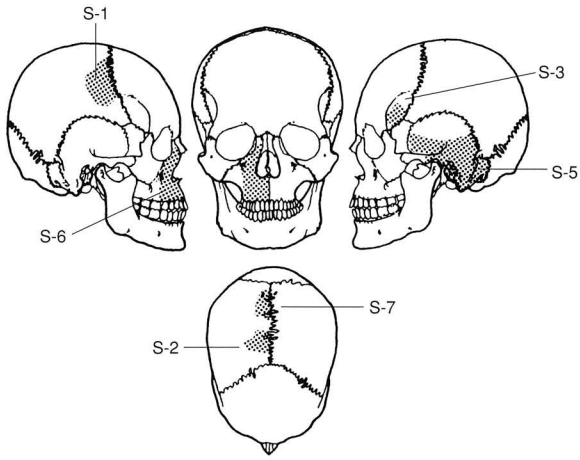


図15　人骨の残存部分

表３　年齢区分（Table11. Division of age）

	年齢区分	年　　齢
未成人	乳　児	１歳未満
	幼　児	１歳～５歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小　児	６歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成　年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成　人	壮　年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟　年	40歳～59歳（60歳未満）
	老　年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

３．要　約

関太郎氏が財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（松山市考古館）に寄贈された遺物の中に人骨片が含まれていた。人骨の量は少なかったが、保存状態は良好であった。解剖学的・人類学的検索や観察をおこない、以下の所見を得た。

１）この人骨は昭和20年代に松山市道後地区から採集されたという。一説に道後地区常信寺裏山の石囲いからの出土との指摘もある。

２）人骨は７点あり、うち６点は頭蓋片で、１点は四肢骨の小片である。

３）頭蓋は、頭頂骨片３点、前頭骨片１点、上顎骨片１点、左側側頭骨１点で、骨壁は厚く、やや強い歯槽性突顎が認められたが、上顎骨前頭突起の向きは矢状方向で鼻根部は、扁平ではなかった可能性が強い。

４）上顎骨にはコンクリート様の皮膜が付着しており、所属時代が古いことを思わせる。

5）体数は、最少個体数が1体で最大個体数は7体ということになるが、頭蓋の色調や保存状態からみて、おそらく1体分であろう。

6）人骨の所属時代は、歯槽性突顎がみられることから、中世かそれ以前の可能性が考えられる。

謝　辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターの梅木謙一氏に感謝いたします。

参考文献

1．松下孝幸・他　1995　「愛媛県今治市相の谷古墳群出土の古墳時代人骨」『相の谷古墳群杉谷支群埋蔵文化財発掘調査報告書（埋蔵文化財発掘調査報告書第57集）』P41－54

2．松下孝幸　1998　「愛媛県伊予市原池遺跡出土の人骨」『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XⅡ　伊予市編』P175－180

3．松下孝幸　1998　「愛媛県松山市宮前川北斎院遺跡出土の古墳時代人骨」『斎院・古照 新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）』P525－531

4．松下孝幸　1998　「愛媛県松山市古照遺跡出土の中世人骨」『斎院・古照　新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）』P532－538

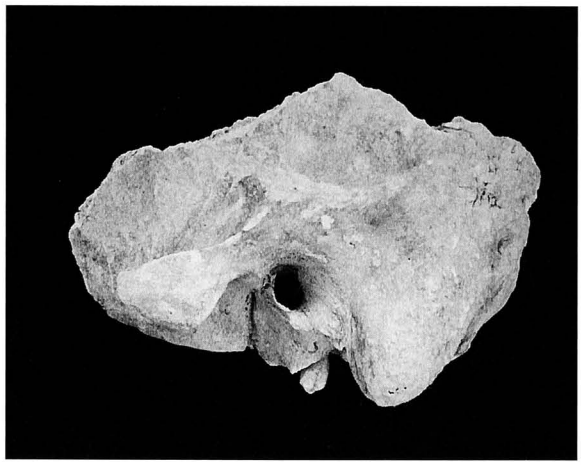
5．松下孝幸　1999　「愛媛県八幡浜市ウラショウジ遺跡出土の中世人骨」『愛媛県歴史博物館研究紀要 第4号』P131－140

6．松下孝幸　2000　「愛媛県今治市二の谷2号墳出土の古墳時代人骨」『旦遺跡・宮之前遺跡・長沢石打遺跡・長沢1号墳・長沢6号墳・二の谷2号墳・鋏又古墳群・郷桜井西塚古墳（一般国道196号今治バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅳ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第87集）』P232－249

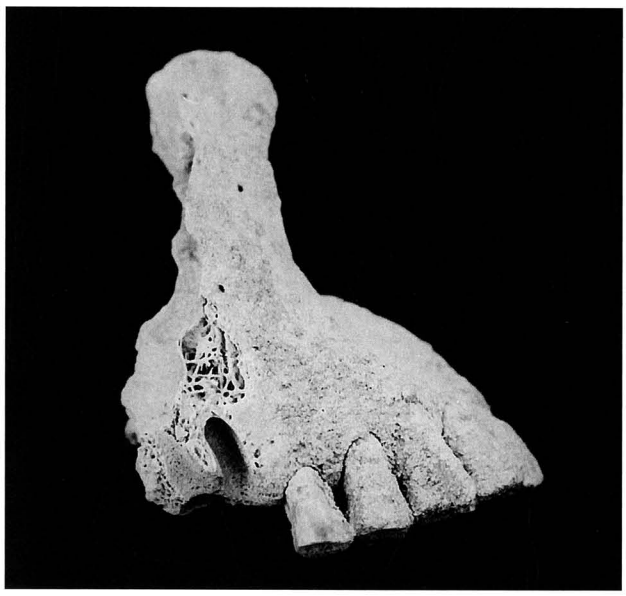
7．松下孝幸　2000　「愛媛県松山市七反地遺跡出土の中世人骨」『道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡（一般国道196号松山北条バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅱ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第86集）』P391－422

8．松下孝幸　2000　「愛媛県今治市矢田平山近世墓出土の近世人骨」『阿方春岡遺跡・阿方牛ノ江遺跡・矢田八反坪遺跡・矢田大出口遺跡・矢田平山近世墓・矢田平山古墳・矢田平山遺跡（一般国道196号今治北道路埋蔵文化財調査報告書）（埋蔵文化財発掘調査報告書第88集）』P271－318

S－7
S－2
S－1　S－3



S－5



S－6

写真13　人骨の各部位

5．資料紹介：東雲神社遺跡採取資料

松山城のある勝山には、弥生時代集落と古墳群が存在している。

昭和47～48年に松山市教育委員会は、東雲神社境内７ヶ所で調査を行い、その内容は平成13年２月に報告書『東雲神社遺跡』（松山市文化財調査報告書第79集）に収録した。調査では、縄文時代後期の土器片、弥生時代中期後葉～後期前葉の遺構と遺物（絵画土器１点含む）、古墳と古墳時代遺物、古代の土器を確認している。

今回掲載する資料は、平成13年に東雲神社より譲渡されたもので、これまでに関係者や参拝者等が採取した土器、埴輪、石器を神社が保管していたものである。

図16－１～５は弥生土器で、１・２は壺の底部、３は高坏の脚部、４・５は器台の脚部になる。弥生中期後葉～後期前葉。６・７は円筒埴輪で、６世紀。図17－８～10は小皿で、近世以降。11は石製品、時期不明。

本資料は、前回報告の資料と概ね同時代・同時期で、近世以降の小皿が新たに見られるものである。資料を提供していただきました東雲神社宮司田内逸武氏には感謝致します。（梅木）

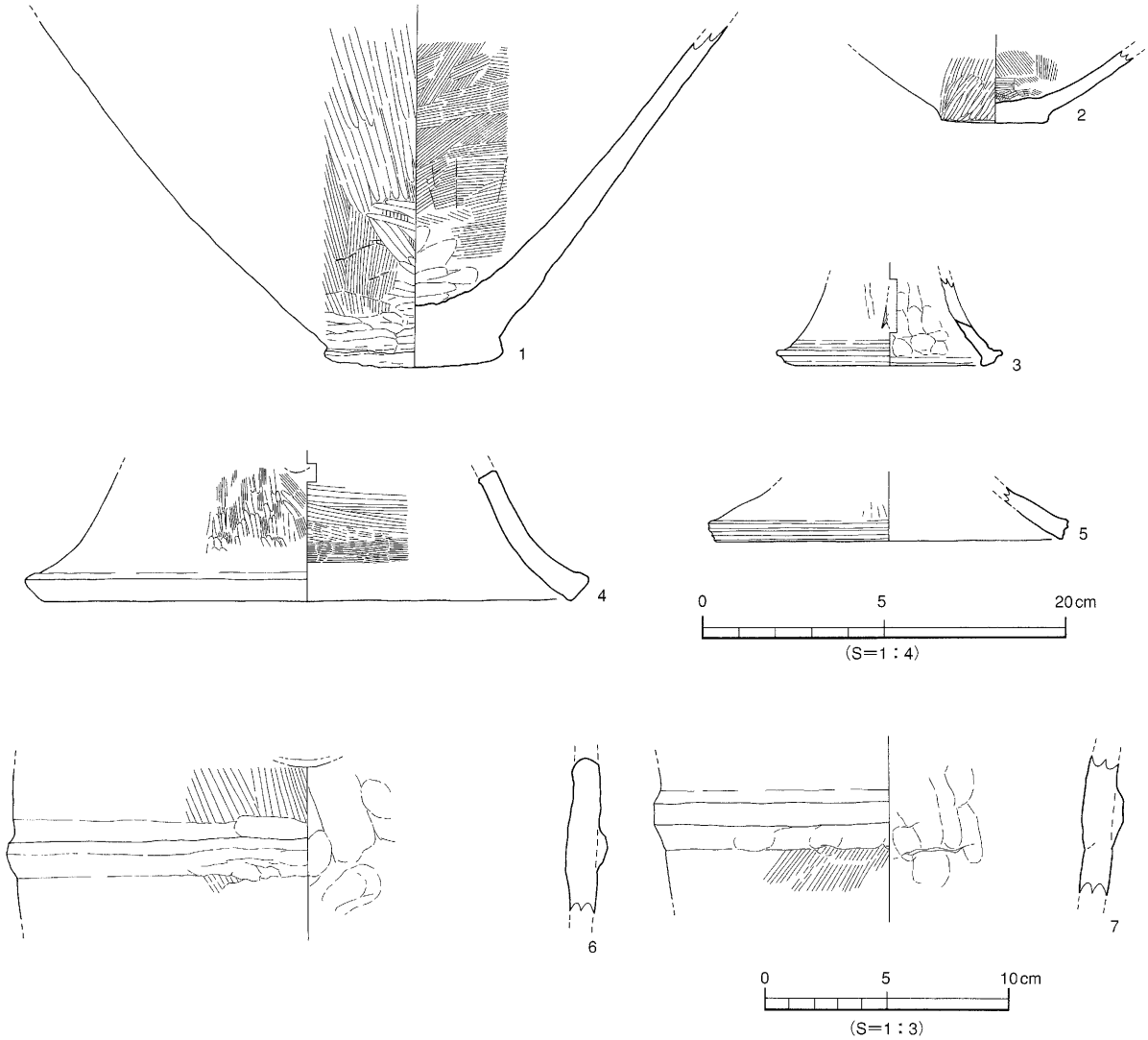


図16　東雲神社採取遺物実測図（1）

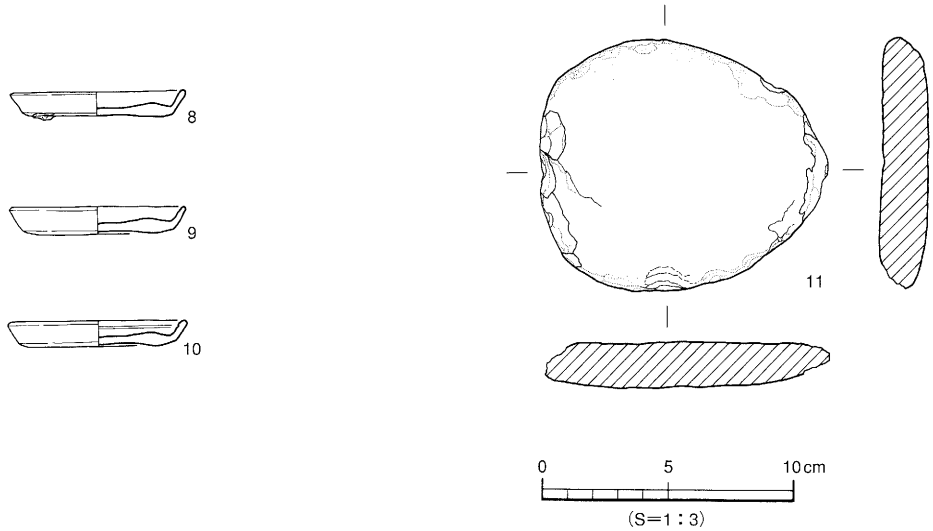


図17　東雲神社採取遺物実測図（2）

表1　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考
1	壺	底径 (9.9) 残高 18.8	大型壺。たちあがりをもつ。平底。	ハケ→ミガキ	ハケ(1部ナデ)	淡茶褐色 .淡茶褐色	石·長(1~3) ◎	
2	壺	底径 5.9 残高 4.1	中型壺。平底。	ミガキ	ハケ	茶褐色 暗褐色	石·長(1~3) ◎	
3	高坏	底径 (10.6) 残高 4.9	脚部分。矢羽状透し。凹線文2条。	ハケ→ミガキ (マメツ)	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石·長(1~2) ◎	
4	器台	底径 (31.0) 残高 7.1	焼成前円孔。	ハケ→ミガキ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~5) 金ウンモ ◎	
5	器台	底径 (19.2) 残高 2.9	端面に沈線文3条	ハケ→ナデ	ハクリ	暗茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) ○	
6	円筒埴輪	残高 6.3	胴部に断面低い台形状のタガを持ち 上位に円形と思われるスカシを施す。	ナナメハケ	ナデ	黄褐色 灰褐色	石・長（1） ◎	
7	円筒埴輪	残高 5.6	胴部に断面低い台形状のタガを持つ。	ナナメハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) ◎	
8	皿	口径 6.9 器高 1.1 底径 6.0	回転糸切り。	(坏)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	黄茶色 黄茶色	密 金ウンモ ◎	
9	皿	口径 6.9 器高 1.1 底径 6.0	回転糸切り。	(坏)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	黄茶色 黄茶色	密 ◎	
10	皿	口径 7.0 器高 1.0 底径 5.9	回転糸切り。	(坏)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	黄茶色 黄茶色	密 ◎	

表2　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考
11	石錘	完存	緑色片岩	11.4	9.8	1.8	345	

Ⅳ　平成13年度
啓蒙普及事業

平成13年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査や研究を行うとともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成したり、随時現地説明会を開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり・講演会・体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場として設備の充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

平成13年度は財団法人松山市生涯学習振興財団の財団設立10周年の節目にあたり、下記の各種事業を展開した。

1．展示活動　2．教育普及活動　3．収集・保管活動　4．広報・出版活動
5．施設の利用　6．資料の貸出・調査　7．職員研修・会議

1．展示活動

考古館の常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとし、立体的な展示を心がけている。展示品は松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

また期間を限定して開催する展示会としては（1）発掘調査写真展（2）発掘調査速報展（3）テーマ展（4）特別企画展（5）特別テーマ展（6）特別展があり、発掘調査写真展を松山市総合コミュニティセンターで開催した以外は考古館特別展示室で開催した。

(1) 発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」（表１－①）

この展示会は、後述する（2）発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」のＰＲを兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山市総合コミュニティセンタープラザの一角に写真パネルと解説パネル各10枚を設置し、ＰＲに努めた。

(2) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」（表１－②）

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、船ヶ谷遺跡４次調査地を含む18遺跡を取り上げ、その出土遺物約160点を展示した。

(3) テーマ展「のぞいてみよう！埋蔵文化財センターの裏側」（表１－③）

この展示会は、開館以来初めて当センターの業務にスポットを当て、発掘調査から整理作業までの流れを来館者に分かりやすく写真パネルなどで解説しながら展観した。

(4) 特別企画展「葬られた伊豫の首長たち」（表１－④）

この展示会は、ひとつのテーマのもとに県内の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示

を展開するものである。当年度は、愛媛県内における古墳時代後期の首長墓をテーマに取り上げ、馬具や武具などを中心に出土遺物約170点を展示した。なお、この展示会の会期中に中・四国前方後円墳研究会が当館で開催され、多くの専門家の観覧に供した。

(5) 特別テーマ展「弥生の拠点集落」(表１－⑤)

この展示会は、「平成13年度博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」の一環として東京国立博物館より松山市道後一万出土の平形銅剣10振のうち2振と、同地点から出土したとされる土器片４点を借用し、それに併せて展示会を行ったものである。この銅剣は、明治42（1909）年に発見されて以来、約一世紀ぶりの里帰りとなったものである。展示点数は約100点である。

(6) 特別展「伊豫の鏡」(表１－⑥)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、中世以前の伊豫出土の青銅鏡に焦点を絞り、展示を行った。テーマが青銅鏡ということもあり、一般市民の関心も非常に高く、多くの観覧者が訪れた。

写真１　特別展「伊豫の鏡」見学風景

表１　展示活動一覧表

No.	展示会名	会期	会場	観覧者数
①	発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」	平成13年４月５日(木) ～４月13日(金)	松山市総合 コミュニティセンター	－
②	発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成13年４月21日(土) ～６月10日(日)	特別展示室	4,986人
③	テーマ展「のぞいてみよう！埋蔵文化財センターの裏側」	平成13年８月７日(火) ～９月30日(日)	特別展示室	1,763人
④	特別企画展「葬られた伊豫の首長たち」	平成13年10月13日(土) ～11月23日(金)	特別展示室	2,329人
⑤	特別テーマ展「弥生の拠点集落」	平成13年12月８日(土) ～14年１月27日(日)	特別展示室	1,159人
⑥	特別展「伊豫の鏡」	平成14年２月23日(土) ～３月24日(日)	特別展示室	1,953人

2．教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み親子体験学習セミナー・考古学講座などがある。

(1) 講演会・展示解説会

当年度は、発掘調査報告会・特別企画展記念講演会・特別テーマ展展示解説会・特別展記念講演会を行った。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展開催初日に調査係長による統括報告及び3名の調査担当者による調査研究報告を行った。(表２－①)

特別企画展記念講演会は、特別企画展を記念して開催し、川内町川上神社古墳出土の馬具と奈良県藤ノ木古墳出土の馬具との比較や、各地に分布する首長墓からみた古代の伊予国についてご講演いただいた。(表２－②)

特別テーマ展展示解説会は、特別テーマ展を記念して担当学芸員による展示解説を特別展示室にて行った。(表２－③)

特別展記念講演会は、特別展を記念して開催し、第１回は２名の先生方による愛媛県出土の青銅鏡の重要性や、他の古墳出土鏡との比較検討を行い、第２回は保存処理の立場からみた青銅製品をテーマにご講演いただいた。（表２－④）

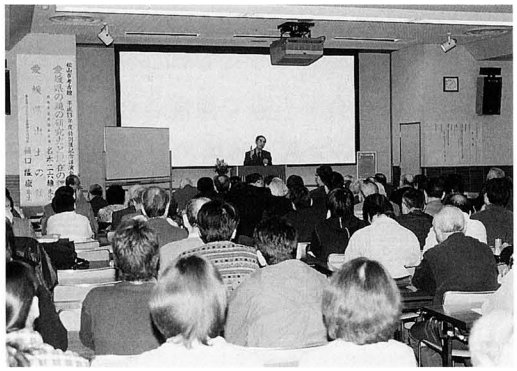


写真２　特別展記念講演会風景

(2) 初心者のための考古学講座「とことん考古学Ⅰ」

平成８年度から12年度まで実施していた、考古学入門講座「チャレンジ考古学Ⅰ～Ⅴ」が終了し、当年度から新たに5年計画で表記講座の実施を開始した。

当年度は、「墓」をテーマに１名の外部講師を含め、計５回で主要な時代の墓制について理解が深められるように内容を工夫した。また、第３回は発掘調査現場見学を取り入れることで、よりグローバルな展開を図っている。（表２－⑤）

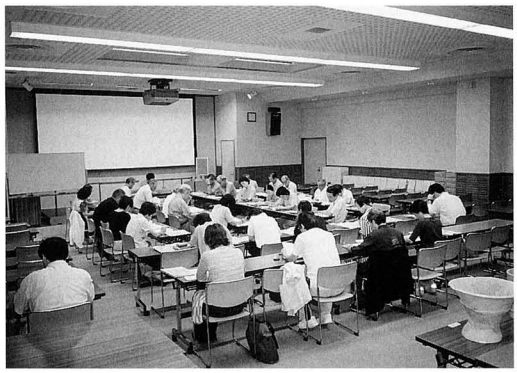


写真３　「とことん考古学Ⅰ」風景

表２　教育普及活動一覧表（1）

（敬称略）

No.	事業名	日時	会場	講師・報告者	聴講者数
①	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成13年４月21日（土）	講堂	当センター調査係長　西尾　幸則 当センター調査員　相原　浩二 〃　橋本　雄一 当考古館学芸員　山之内志郎	48人
②	特別企画展記念講演会 「馬具から見た伊豫の古代像」	平成13年10月13日（土）	講堂	奈良芸術短期大学教授　前園実知雄	116人
③	特別テーマ展 展示解説会	平成13年12月８日（土）	特別展示室	当考古館学芸員　山之内志郎	67人
④	特別展記念講演会 第１回 「愛媛県の鏡の研究史と現在の課題」 「愛媛県出土の鏡」	平成14年２月23日（土）	講堂	日本考古学協会会員　名本二六雄 奈良県立橿原考古学研究所長　樋口　隆康	188人
	第２回「科学の目で見る青銅品」	平成14年３月９日（土）	講堂	京都造形芸術大学教授　内田　俊秀	125人
⑤	初心者のための考古学講座 「とことん考古学Ⅰ」 第１回「弥生時代の墓」 第２回「古墳時代の墓」 第３回　東石井遺跡見学 第４回「中世の墓」 第５回「近世の墓」	平成13年８月25日（土） ９月１日（土） ９月５日（水） ９月８日（土） ９月29日（土）	講堂 〃 現場 講堂 〃	㈶愛媛県埋蔵文化財 調査センター主任調査員　真鍋　昭文 当センター調査員　吉岡　和哉 〃　宮内　慎一 〃　河野　史知 〃　山本　健一	29人 32人 22人 30人 24人

(3) 夏休み親子体験学習セミナー「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう！」（表３－①）

当セミナーは、小学５年生から中学生とその保護者を対象に、子供たちの自由な発想で滑石製勾玉を製作することで古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的としており、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

(4) クリスマス特別企画「～古代から贈り物～ガラス勾玉を作ろう！」(表３－②)

当事業は、一般市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

写真４「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう！」風景

写真５「ガラス勾玉を作ろう！」焼成風景

表３　教育普及活動一覧表（2）

No.	事　業　名	日　時	会　場	参加者数
①	夏休み親子体験学習セミナー「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう！」	平成13年７月28日(土)	文化財情報館	28人
②	クリスマス特別企画「～古代からの贈り物～ガラス勾玉を作ろう！」	平成13年12月１日(土)	文化財情報館	26人

(5) 遺跡めぐり「～古代浪漫の旅～伊予のまほろば探訪part１」(表４)

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催するものである。

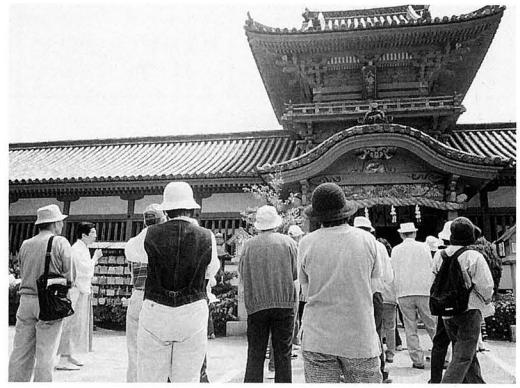


写真６「遺跡めぐり」伊佐爾波神社見学風景

表４　教育普及活動一覧表（3）

No.	事　業　名	日　時	主な見学先	参加者数
①	遺跡めぐり 「～古代浪漫の旅～ 伊予のまほろば探訪 part １」	平成13年５月25日(金)	比翼塚・伊佐爾波神社・ 湯築城（道後公園）・来住廃寺・縦淵城址	50人

(6) 現地説明会（表５）

当年度は、７ヶ所の遺跡において合計8回の現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通して、より一層一般市民に埋蔵文化財に対する興味や関心を持ってもらうため開催するものである。特に弥生時代後期の溝から大量の土器が出土した西石井遺跡では500人を越える市民が見学に訪れた。

写真７　久米高畑遺跡51次調査地　現地説明会風景

写真８　西石井遺跡　現地説明会風景

表５　教育普及活動一覧表（4）

No.	遺　跡　名	日　時	遺　跡　の　主　な　概　要	見学者数
①	桑原遺跡４次調査地３区	平成13年８月25日（土） 10：00～11：00 平成13年９月１日（土） 13：30～14：30	弥生時代の遺構（土坑）や遺物、古代～中世の遺構（柱穴）や遺物	190人
	桑原遺跡５次調査地		古墳時代後期の遺構（自然流路）や遺物（木製品など）、古代末の遺構や遺物	
②	東石井遺跡	平成13年９月17日（月） 10：30～11：30 11：30～12：30 13：00～14：00	弥生時代の遺構（竪穴式住居・掘立柱建物・溝・自然流路）や遺物、古墳時代の遺構（竪穴式住居・溝・土坑）や遺物、古代の遺構（溝・土坑）や遺物	170人
③	久米高畑遺跡51次調査地	平成13年９月29日（土） 10：30～11：30	７世紀前半から中葉頃の久米官衙遺跡群政庁跡と推定される遺構（掘立柱建物）や遺物	200人
④	西石井遺跡	平成14年１月19日（土） 11：00～12：00	弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構（竪穴式住居・土坑・土器棺墓・溝・柱穴）や遺物	550人
⑤	久米高畑遺跡52次調査地	平成14年３月16日（土） 10：30～11：30	古代の遺構（掘立柱建物・溝）や遺物	100人
	来住町遺跡13次調査地		弥生時代の遺構（竪穴式住居）や遺物、古墳時代後期の遺構（掘立柱建物）や遺物、古代の遺構（畑跡）や遺物	

(7) 博物館学芸員実習

平成６年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生のための実習を実施している。当年度は、９月３～８日（屋外実習）と10～15日（屋内実習）の日程で、広島大学生１名、愛媛大学生７名を受け入れた。展示実習（常設展示解説や来館者案内）、写真実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

(8) 職場体験（表６）

当センターでは、中学生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は、３校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内作業業務を体験していただいた。

写真９　職場体験風景（松山市立勝山中学校）

表６　教育普及活動一覧表（5）

No.	学校名・学年	日時	内容	参加者数
①	松前町立北伊予中学校２年生	平成13年10月18日（木）	東石井遺跡での発掘体験及びセンター内での内業体験	12人
②	松山市立久米中学校２年生	平成14年２月５・６日（火・水）	東石井遺跡での発掘体験	10人
③	松山市立勝山中学校２年生	平成14年２月５・６日（火・水）	西石井遺跡での発掘体験及びセンター内での内業体験	10人

（9）出前考古学教室（表７）

平成14年度から公立学校において「総合的な学習の時間」が本格的にスタートすることから、準備段階の当年度は一部の学校から要請があり、学校や発掘現場に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は３校で４回実施した。

表７　教育普及活動一覧表（6）

No.	学校名・学年	日時	内容	参加者数
①	松山市立桑原中学校１年生	平成13年10月３日（水）	経石山古墳と桑原遺跡の見学、勾玉作りと火おこし体験	39人
		平成13年10月19日（金）	来住町遺跡13次調査地発掘体験	13人
②	松山市立北中学校１～３年生	平成13年11月９日（金）	勾玉作り	35人
③	松山市立小野中学校１年生	平成14年１月11日（金）	西石井遺跡見学	92人

３．収集・保管活動

（1）埋蔵文化財関連

当年度は、２名の篤志家より考古資料の寄贈を受けた。今後も継続して整理・研究を実施する。

（2）大連古代ハス

平成10年４月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成８年１月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した１千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたものである。その後、農業指導センターで育成していたものである。当年度は、４つ開花した。

４．広報・出版活動（表８・９）

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発刊したり、発掘調査が行われた遺跡について発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

表８　出版物一覧表（1）

（1）

No.	出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
①	発掘調査速報展　ポスター 〃　パンフレット 発掘調査報告会　レジュメ	平成13年４月	一般 〃 聴講者	Ａ２ Ａ４・21頁 Ａ３・８頁	500 3,000 150
②	古代浪漫の旅　旅のしおり	平成13年５月	参加者	Ａ４・17頁	50

（2）

③	夏休み体験学習セミナー　パンフレット	平成13年７月	参加者	Ａ４・６頁	30
④	考古学講座（1）レジュメ 〃　（2）レジュメ 〃　（3）レジュメ 〃　（4）レジュメ 〃　（5）レジュメ	平成13年８月 平成13年９月 〃 〃 〃	聴講者	Ａ３・４頁 Ａ３・４頁 Ａ３・４頁 Ａ３・11頁 Ｂ４・20頁	40 40 40 40 40
⑤	テーマ展　リーフレット	平成13年８月	一般	Ａ４・２頁	1,500
⑥	特別企画展　ポスター 〃　パンフレット 〃　案内状 〃　記念講演会レジュメ	平成13年10月 〃 〃 〃	一般 〃 〃 聴講者	Ｂ２ Ａ４・４頁 はがき Ａ３・７頁	500 3,000 2,000 150
⑦	特別テーマ展　ポスター 〃　パンフレット 〃　案内状	平成13年12月 〃 〃	一般 〃 〃	Ｂ２ Ａ４・４頁 はがき	500 3,000 2,000
⑧	クリスマス特別企画　パンフレット	平成13年12月	参加者	Ａ４・８頁	30
⑨	特別展　ポスター 〃　パンフレット 〃　リーフレット 〃　案内状 〃　図録 〃　記念講演会①レジュメ 〃　〃　②レジュメ	平成14年２月 〃 〃 〃 〃 平成14年２月 平成14年３月	一般 〃 〃 〃 〃 聴講者 〃	Ｂ２ Ａ４・４頁 Ａ４・２頁 はがき Ａ４・37頁 Ｂ４・15頁、Ａ４・３頁 Ａ４・１頁	500 3,000 5,000 2,000 500 200 150

表９　出版物一覧表（2）

No.	報告書名	発行日	対象	版型・頁	部数
①	『松山市埋蔵文化財調査年報13』（平成12年度）	平成13年10月31日	一般	Ａ４・本文145頁	1,000
②	松山市文化財調査報告書　第85集 『伊台惣部遺跡』	平成14年３月29日	一般	Ａ４・本文42頁	1,000
③	松山市文化財調査報告書　第86集 『桑原地区の遺跡Ⅵ ―桑原本郷遺跡・桑原遺跡・桑原小石原遺跡・東野お茶屋台遺跡 １・２・３次―』	平成14年３月29日	一般	Ａ４・本文118頁	1,000

５．施設の利用（表10）

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

表10　施設利用一覧表

（1）（敬称略）

No.	団体名・テーマ	日時	会場	発表者・申請者
①	瀬戸内海考古学研究会 第66回（８周年記念講演会） 「近年の宇和町における考古学的調査の成果について」	平成13年５月26日（土）	講堂	愛媛大学法文学部　下條　信行

（2）

②	瀬戸内海考古学研究会第67回「伊予国における戦国期地域権力の本拠」	平成13年７月28日（土）	講堂	愛媛県教育委員会　日和佐宣正
③	瀬戸内海考古学研究会第70回「古墳時代後期～終末期における臨海集落の成立事情」	平成14年１月26日（土）	講堂	愛媛県教育委員会　谷若　倫郎
④	瀬戸内海考古学研究会第71回「中世瓦質土器から見えてくるもの」	平成14年３月30日（土）	講堂	㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　土井光一郎
⑤	中国・四国前方後円墳研究会第7回研究会「前方後円墳時代後期首長墓の動向」	平成13年10月27・28日（土・日）	講堂	中国・四国前方後円墳研究会　愛媛県幹事　岡田　敏彦
⑥	庄内式土器研究会―庄内式併行期の土器生産とその動き－「四国地方を中心として」	平成13年12月１・２日（土・日）	講堂	庄内式土器研究会代表　奥田　尚

6．資料の貸出・調査（表11・12）

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出展や、研究者の資料調査などの要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査を行っている。

表11　資料の貸出一覧表

（敬称略）

No.	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出先（利用者）
①	朝日谷２号墳発掘現場写真 朝日谷２号墳出土の線刻鉄鏃写真	1 1	月刊『歴史読本』2001年８月号に掲載	株式会社新人物往来社
②	古照遺跡の第１・２堰全景写真	1	農業農村整備写真集『21世紀の国づくり』に掲載	全国土地改良事業団体連合会
③	松ヶ谷遺跡ＳＢ１遠景写真	1	『文化財発掘出土情報』2001年11月号に掲載	株式会社ジャパン通信情報センター
④	文京遺跡２次調査地遺構写真 文京遺跡３次調査地遺構写真 文京遺跡４次調査地遺構写真 文京遺跡５次調査地遺構写真	4 6 6 1	愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページに掲載	愛媛大学埋蔵文化財調査室
⑤	葉佐池古墳１号石室遠景写真 朝日谷２号墳出土二禽二獣鏡写真	1 1	『日本古墳大辞典　補遺編』に掲載	株式会社東京堂出版
⑥	大渕遺跡出土彩文土器（復元） 深鉢 深鉢（復元） 壺（復元） 籾痕土器 石庖丁 石鎌	1 1 1 1 2 2 1	平成13年度特別展「西四国の縄文文化」に貸出・写真掲載	愛媛県歴史文化博物館

表12　資料の調査一覧表

（1）（敬称略）

No.	調査資料名	点数	調査目的及び利用方法	利用者
①	横谷古墳出土五鈴鏡 伝岩子山古墳出土乳文鏡 空田池中島古墳出土五鈴鏡 若草町遺跡出土鏡 出土地不明内行花文鏡	1 1 1 3 1	県内出土漢式鏡の集成のため写真撮影	日本考古学協会　名本二六雄
	福音小学校構内遺跡出土子持勾玉 客谷Ｂ区古墳群出土子持勾玉 大峰ヶ台遺跡出土土製勾玉	1 1 1	祭祀遺跡研究のため写真撮影	

（2）

②	播磨塚天神山古墳出土馬具	一式	資料調査のため写真撮影	日本考古学協会　真鍋　修身
	東山鳶ヶ森２号墳出土埴輪	一式	資料調査のため実測及び写真撮影	
③	岩崎遺跡出土石庖丁・大形石庖丁 祝谷六丁場遺跡出土石庖丁 釜ノ口遺跡出土石庖丁	一式 一式 一式	弥生時代の石器研究のため実測及び写真撮影	仙台市教育委員会　斎野　裕彦
④	竹本氏旧蔵石器 東本遺跡４次調査出土旧石器 筋違Ｆ・Ｈ遺跡出土旧石器	一式 一式 一式	資料調査のため写真撮影	小田原市教育委員会　諏訪間　順
⑤	福音寺遺跡出土獣形木製品	1	修士論文作成のため実測及び写真撮影	立命館大学大学院　井上　一樹
⑥	来住廃寺出土瓦	一式	法隆寺式軒瓦の調査のため実測及び写真撮影	帝塚山大学　森　郁夫
⑦	葉佐池古墳１号石室出土須恵器 東山鳶ヶ森古墳群出土須恵器	一式 一式	卒業論文作成のため実測	愛媛大学考古学研究室　嶋田　史子
⑧	岩崎遺跡出土石器 （両刃石斧・柱状片刃石斧等）	一式	研究のため写真撮影	愛媛大学考古学研究室　中　勇樹
⑨	岩崎遺跡出土石器 （両刃石斧・柱状片刃石斧等）	一式	研究のためメモ	愛媛大学法文学部　下條　信行
	祝谷六丁場遺跡出土両刃石斧 石庖丁	40 40	資料調査のため実測	
	文京遺跡出土石器	12	資料調査のため実測	
⑩	来住廃寺出土瓦	20	卒業論文作成のため実測及び写真撮影	愛媛大学考古学研究室　鎌土　奈々
⑪	久米大池東古墳出土方格規矩鏡 空田池中島古墳出土五鈴鏡 伝岩子山古墳出土乳文鏡 久米乃万ノ裏出土和鏡 古照遺跡８次調査出土湖洲六花鏡 かいなご古墳出土仿製鏡 若草町遺跡出土仿製鏡 東本遺跡４次調査出土破鏡 釜ノ口遺跡８次調査出土破鏡 東山鳶ヶ森古墳群出土破鏡 出土地不明内行花文鏡	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	愛媛大学法文学部法文学研究科埋蔵文化財論演習のため熟覧	愛媛大学法文学部　田崎　博之
⑫	五鈴鏡 鈴坏	3 1	卒業論文作成のため実測及び写真撮影	広島大学考古学研究室　白石　隆治
⑬	祝谷六丁場遺跡出土石器 斎院烏山遺跡出土石器 筋違Ｌ遺跡出土石器	一式 一式 一式	卒業論文作成のため実測及び写真撮影	京都大学考古学研究室　久保山啓成
⑭	福音小学校構内遺跡出土 ２号壺棺	一式	卒業論文作成のため実測	愛媛大学考古学研究室　篠田　久恵
⑮	船ヶ谷遺跡4次調査地 ＳＫ２・ＳＸ２出土土師器	一式	卒業論文作成のため実測	愛媛大学考古学研究室　田内真由美
⑯	久米窪田遺跡出土縄文土器 古照遺跡出土縄文土器	一式 一式	資料調査のため実測及び出土点数の把握	徳島県埋蔵文化財センター　幸泉　満夫

7．職員研修・会議（表13）

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表13　職員研修・会議一覧表

No.	研修・会議名	日時	開催地	参加者数
①	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	平成13年6月7・8日(木・金)	徳島市	1名
②	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	平成13年9月6・7日(木・金)	広島市	1名
③	埋蔵文化財発掘技術者専門研修 「測量外注管理課程」	平成13年10月2日(火)～16日(火)	奈良市	1名
④	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	平成13年10月4・5日(木・金)	岩手県盛岡市	2名
⑤	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国九州ブロック会議	平成13年10月25・26日(木・金)	広島県吉田町	3名
⑥	四国埋蔵文化財法人実務担当者会	平成13年11月1・2日(木・金)	松山市	5名

8．その他

表14　平成13年度　考古館月別入館者数調（平成13年4月1日～平成14年3月31日）

（単位：人）

月	開館日数(日)	一般	児童生徒	団体一般	団体児童生徒	高齢者割引	小中高生等無料入館者	速報展等無料入館者	入館者合計	一日平均入館者
4	26	251	94	0	0	59	532	720	1,656	64
5	26	206	86	21	0	54	893	1,450	2,710	104
6	26	138	29	33	0	94	410	366	1,070	41
7	25	224	57	40	55	9	78	0	463	19
8	27	229	149	42	47	40	40	601	1,148	43
9	26	177	48	8	13	4	0	468	718	28
10	26	223	20	214	220	170	338	340	1,525	59
11	25	247	28	71	65	295	167	144	1,017	41
12	24	303	23	0	0	69	0	310	705	29
1	24	276	52	73	54	56	190	108	809	34
2	21	280	22	0	0	15	63	250	630	30
3	26	602	64	158	310	214	160	253	1,761	68
計	302	3,156	672	660	764	1,079	2,871	5,010	14,212	47

松山市埋蔵文化財調査年報　14

平成15年３月31日　　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　松山市三番町６丁目６－１
ＴＥＬ(089)９４８－６６０５
財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　松山市南斎院町乙67番地６
ＴＥＬ(089)９２３－６３６３

印刷　原印刷株式会社
〒790-0056　松山市土居田町３９６－６
ＴＥＬ(089)９７４－８７１１